

昭和四十一年十二月

四日市市議会会議録目次

ページ

才一号（十二月九日）

会議録署名議員の指名について	一一
会期の決定について	一一
昭和四十一年度四日市市一般会計補正予算（才四号）その他	一一
議案説明	一一
公平委員会委員の選任について	一一
議案説明……質疑、討論、議決	一一
教育委員会委員の任命について	一一
議案説明……質疑、討論、議決	一一
昭和四十年四日市市一般会計決算並びに各特別会計等決算認定について	一一
議案説明	一一

才二号（十二月十三日）

一般質問

喜多野等君

行政水準の向上について（市財政）その他	三二
前川辰男君	
関連質問	六一
訓覇也男君	
関連質問	六五
岩田久雄君	
母子寮についてその他	六七
早川正夫君	
関連質問	七五
伊藤信一君	
関連質問	八二
矢田繁郎君	
市財政の将来性と予算運営についてその他	九三
藤谷祐一君	
関連質問	一〇
永田利一郎君	
関連質問	一四

才三号（十二月十四日）

伊藤太郎君	
公害防止についてその他	一二八
坪井妙子君	
関連質問	一五五
大島武雄君	
税外負担の軽減についてその他	一五八
酒井昌一君	
関連質問	一七五
昭和四十一年度四日市市一般会計補正予算（才四号）その他	
質疑	一七九
昭和四十年四日市市一般会計決算並びに各特別会計等決算認定について	
質疑	

才四号（十二月二十一日）

昭和四十一年度四日市市一般会計補正予算（才四号）その他	
委員長報告	二〇九
質疑、討論、議決	二〇九

四日市市職員給与条例の一部改正についてその他

議案説明……質疑、討論、議決……………二二三

市道路線廃止についてその他

議案説明……質疑、討論、議決……………二二五

四日市港の港湾整備事業に対する国庫負担率等の引上げに関する意見書提出について

議案説明……質疑、討論、議決……………二三一

水沢病院についての処理に関する意見書提出について

議案説明……質疑、討論、議決……………二三一

請願書等審査結果報告

採否決定……………二三三

昭和四十一年十二月九日

四日市市議定会定例会会議録（才一号）

四日市市議会

昭和四十一年四月四日市市議会议定例会會議録 才一号

米 田 好 兼速記

昭和四十一年十二月九日（金曜日）

○議事日程 才一号

昭和四十一年十二月九日（金）午後二時開会

才一 会議録署名議員の指名について

才二 会期の決定について

才三 議案才一〇五号 昭和四十一年度四日市市一般会計補正予算

（才四号）……………議案説明

才四 議案才一〇六号 昭和四十一年度四日市市競輪事業特別会計

補正予算（才一号）……………〃

才五 議案才一〇七号 昭和四十一年度四日市市国民健康保険特別

会計補正予算（才一号）……………〃

才六 議案才一〇八号 昭和四十一年度四日市市と畜場食肉市場特

別会計補正予算（才二号）……………〃

才七 議案才一〇九号 昭和四十一年度四日市市公共下水道特別会

才八 議案才一一〇号 計補正予算(才二号)……………議案説明
昭和四十一年度四日市市立四日市病院事業

才九 議案才一一一号 会計才三回補正予算……………
昭和四十一年度四日市市水道事業会計才二

才一〇 議案才一一二号 回補正予算……………
四日市市役所出張所設置条例の一部改正に
ついて……………

才一一 議案才一一三号 四日市市職員定数条例の一部改正について……………
才一二 議案才一一四号 四日市市吏員退隠料、退職給与金、遺族扶
助料支給条例等の一部改正について……………

才一三 議案才一一五号 四日市市税条例の一部改正について……………
才一四 議案才一一六号 四日市市青少年問題協議会条例の一部改正
について……………

才一五 議案才一一七号 四日市市営住宅管理条例の一部改正につい
て……………

才一六 議案才一一八号 市立四日市病院事業の設置等に関する条例
の制定について……………

才一七 議案才一一九号 市立四日市病院附属看護婦養成所設置条
例の制定について……………議案説明

才一八 議案才一二〇号 四日市市水道事業の設置等に関する条例の
制定について……………

才一九 議案才一二一号 四日市市職員給与条例等の一部改正につ
いて……………

才二〇 議案才一二二号 四日市市水道事業管理者給与等支給条例の
制定について……………

才二一 議案才一二三号 土地の取得及び処分について……………
才二二 議案才一二四号 中央緑地(共同福利施設)の譲り受けにつ
いて……………

才二三 議案才一二五号 市の区域内にあらたに土地を生じたことの
確認並びに町の区域の設定について……………

才二四 議案才一二六号 町及び字の区域の変更について……………
才二五 議案才一二七号 住居表示整備事業を実施する当市における
市街地区域の編入及び当該区域における住
居表示の方法について……………

才二六 議案才一二八号 町の区域及び名称の変更について……………
才二七 議案才一二九号 市道路線認定について……………

- 才二八 議案才一三〇号 市道路線の一部廃止について……………議案説明
- 才二九 議案才一三一号 工事請負契約の締結について……………〃
- 才三〇 議案才一三二号 公平委員会委員の選任について……………議案説明…質疑、討論、議決
- 才三一 議案才一三三号 教育委員会委員の任命について……………〃
- 才三二 議案才一三四号 昭和四十年四日市市一般会計決算並びに各特別会計等決算認定について……………議案説明

○本日の会議に付した事件

- 才一 会議録署名議員の指名について
- 才二 会期の決定について
- 才三 議案才一〇五号 昭和四十一年度四日市市一般会計補正予算(才四号)
- 才四 議案才一〇六号 昭和四十一年度四日市市競輪事業特別会計補正予算(才一号)
- 才五 議案才一〇七号 昭和四十一年度四日市市国民健康保険特別会計補正予算(才一号)
- 才六 議案才一〇八号 昭和四十一年度四日市市と畜場食肉市場特別会計補正予算(才二号)
- 才七 議案才一〇九号 昭和四十一年度四日市市公共下水道特別会計補正予算(才二号)
- 才八 議案才一一〇号 昭和四十一年度四日市市立四日市病院事業会計才三回補正予算
- 才九 議案才一一一号 昭和四十一年度四日市市水道事業会計才二回補正予算
- 才一〇 議案才一二二号 四日市市役所出張所設置条例の一部改正について

- 才一一 議案才一二三号 四日市市職員定数条例の一部改正について
- 才一二 議案才一二四号 四日市市吏員退職料、退職給与金、遺族扶助料支給条例等の一部改正について
- 才一三 議案才一二五号 四日市市税条例の一部改正について
- 才一四 議案才一二六号 四日市市青少年問題協議会条例の一部改正について
- 才一五 議案才一二七号 四日市市営住宅管理条例の一部改正について
- 才一六 議案才一二八号 市立四日市病院事業の設置等に関する条例の制定について
- 才一七 議案才一二九号 市立四日市病院附属看護婦養成所設置条例の制定について
- 才一八 議案才一二〇号 四日市市水道事業の設置等に関する条例の制定について
- 才一九 議案才一二一号 四日市市職員給与条例等の一部改正について
- 才二〇 議案才一二二号 四日市市水道事業管理者給与等支給条例の制定について
- 才二一 議案才一二三号 土地の取得及び処分について
- 才二二 議案才一二四号 中央緑地(共同福利施設)の譲り受けについて
- 才二三 議案才一二五号 市の区域内にあらたに土地を生じたことの確認並びに町の区域の設定について
- 才二四 議案才一二六号 町及び字の区域の変更について
- 才二五 議案才一二七号 住居表示整備事業を実施する当市における市街地区域の編入及び当該区域における住居表示の方法について
- 才二六 議案才一二八号 町の区域及び名称の変更について
- 才二七 議案才一二九号 市道路線認定について

才二八	議案才一三〇号	市道路線の一部廃止について
才二九	議案才一三一号	工事請負契約の締結について
才三〇	議案才一三二号	公平委員会委員の選任について
才三一	議案才一三三号	教育委員会委員の任命について
才三二	議案才一三四号	昭和四十年年度四日市市一般会計決算並びに各特別会計等決算認定について

○出席議員（三十四名）

[illegible][illegible]

○欠席議員（六名）

山本勝君
伊藤金一君
早川正夫君
伊藤信一君

北村与市君
前川辰男君
鈴木愛次君
日比義平君
加藤定男君
谷口專九君

○議案説明のため出席した者

市長 谷沢文男君
市助役 九鬼喜久男君
市助役 岩野見齊君
市助役 庄司良一君
収入役 川崎祐男君

市長公室長 谷沢文男君
総務部長 平井清三君
税務部長 伊藤涼一君
産業部長 芝田敬太郎君
厚生部長 山本軍一郎君
衛生部長 中山英一郎君
建設部長 園浦和己君
副収入役 村木喜代次君
教育長 栗林武男君
市立四日市市長 渡部一臣君
水道局長 水城井義夫君
次長 次道長君
技術部長 加藤弘君
消防長 竹内鉄雄君

主	主	議	次	事
		事		務
		係		局
事	事	長	長	長
芳	佐	小	岩	菊
野	藤	坂	谷	地
	正			英
孝	俊	靖	剛	也
君	君	君	君	君

○議長（中島忠勝君）　ただいまより昭和四十一年十二月、四日市市議会定例会を開会いたします。

本日の議事につきましては、議事日程才一号により取り進めたいと思いますから、よろしくお願いいたします。

要求いたしておきました議事説明者の氏名は、お手元に配付いたしました要求書写のとおりであります。

○議長（中島忠勝君）　ただいまより会議を開きます。

日程才一 會議録署名議員の指名について

○議長（中島忠勝君） 日程才一、會議録署名議員の指名を行います。

本定例会の会議録署名議員は、伊藤太郎君と喜多野等君にお願いいたします。

日程才二 会期の決定について

○議長（中島忠勝君） 次に、日程才二、会期の決定についてを議題といたします。

今期定例会の会期は、本日より十二月三十一日までの十三日間といたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり」

○議長（中島忠勝君） 御異議なしと認めます。よって、会期は十三日間と決定いたしました。

三 議案第百五号昭和四十一年度四日市市一般会計補正予算（第四号）、ないし

日程才二十九 議案才百三十一号工事請負契約の締結について

○議長（中島忠勝君） 次に、日程才三、議案才百五号昭和四十一年度四日市市一般会計補正予算（才四号）、ないし日程才二十九、議案才百三十一号工事請負契約の締結についての二十七議案を一括議題といたします。

市長。

〔市長（九鬼喜久男君）登壇〕

○市長（九鬼喜久男君） ただいま御上程の各議案について御説明申し上げます。

議案才百五号は、四日市市一般会計補正予算才四号案であります。

今回補正のおもなる内容は、一、去る四月から実施の議会議員及び委員会の報酬等の報酬額改正による所要額。一、四日市商業高校定時制の校地取得費。一、中央緑地譲り受け即納金及び体育館建設費。一、児童福祉費及び生活保護費の措置基準改定による所要額並びに医療扶助費の不足見込み額。一、国庫補助の決定に伴う一般補助事業費の減額更正及び災害復旧費の追加。一、その他緊急やむを得ないもの等、二億四千二百四十八万九千円の追加更正と、これに関連した債務負担行為並びに地方債の補正をお願いしているものでありまして、補正後の歳入歳出予算総額は、五十一億五千三百三十一万五千円と相なります。

以下、歳出から各科目ごとに概要を申し上げます。

才一款議会費は、議員報酬の改正に伴う追加であります。

才二款総務費は、工場適地調査及び地盤沈下調査に対する負担金の更正のほか、今回、国庫支出金の確定いたしました自衛官募集の委託事務費並びに市税過納金及び過年度国庫支出金の精算による返還金、市税還付加算金不足見込み分、選挙管理委員会委員、監査委員等の報酬額改正による所要額等を追加補正いたしました。

才三款民生費のうち老人福祉費は、国・県費支出金の決定により追加補正し、国民年金費は、法律の改正により明年一月から拠出年金保険料が引き上げられますので、集金人報償金等を追加し、収納体制を整備しようとするものであり、老人福祉施設費の追加は、措置基準の改定による補正その他であります。

児童福祉費は、措置基準の引き上げに伴い措置費並びに各児童福祉施設費について追加補正するものであり、生活保護費は、才二十二次改定による保護費の引き上げ額と医療扶助費の不足見込み額等を追加計上いたしました。

なお、民生費の特定財源については、国・県費支出金、使用料及び手数料並びに雑収入の各科目にそれぞれ計上し

たのであります。

才四款衛生費は、過般水沢地区に発生をみました集団赤痢に対する防疫関係費と、これら患者の入院費のうち、市費負担分を追加したものでありまして、同地区の患者は二百十一名にも上がりましたが、関係諸機関並びに地区住民の方々の献身的な御協力により防疫に万全を期し、去る二日には全員が治癒退院し、ようやく終息したのであります。この防疫費に対しましては、補助基本額に対し三分の二の県費負担金が交付されます。

公害対策費における旅費の追加は、認定患者を対象とする保健婦の巡回活動費を計上したものであります。

清掃費は、四日市港湾区域の清掃を目的として先に発足した清港会に対する事業費補助金並びにじんかい処理に要する貸金その他の不足見込み額及び自動車事故賠償金を計上したものであり、下水道費は、公共下水道特別会計への繰り出し金であります。

才六款農林水産業費は、農業委員会委員及び農政審議会委員の報酬改正に伴う補正と、農業近代化資金に対する利子補給金の不足見込み額並びに今夏異常発生をみました秋ウシカの防除対策として散布した農薬費に対する補助金を計上いたしました。

農業研究施設費の追加は、水沢分場における簡易水道布設工事費であり、畜産業費は、と畜場食肉市場特別会計への繰り出し金であります。

才八款土木費のうち道路橋梁費は、街路灯の増設による電気料の不足見込み額、水道局その他の道路路面復旧受託工事費並びに市道拡幅用地買収費を追加し、新山分橋事業費を国庫補助の決定に伴い減額更正しようとするものであります。

港湾費は、四日市港管理組合負担金の追加であり、都市計画費は、今回、県・市で共同設置しました塩浜地区都市

改造計画に対する調査委員会の負担金と別案をもって御審議をお願いいたしました公害防止事業団において施工の中央緑地の土地及び施設の譲り受けに要する即納金でありまして、この譲り受け費は、総事業費十四億九千三百九十九万六千円と同事業団の定める償還期限二十年うち据え置き二年を含む間の利息を加えて二十六億一千五百二十四万円の見込みであります。その二分の一は企業協力を得るよう努力いたしております。

都市下水路費は、各ポンプ場における需用費の不足見込み額を追加するとともに、常磐ポンプ場建設費を国庫補助の決定により減額更正いたしました。

才九款消防費の追加は、消防団員報酬の改正によるものであります。

才十款教育費は、教育委員会委員をはじめ各種委員の報酬改正による追加と、四日市商業高校定時制の校地取得費、小中学校幼稚園及び公民館等における電気火災警報機設置費、水沢小中学校簡易水道工事費、高花平小学校給食室増設工事費等を追加更正いたしました。

なお、四日市商業高校定時制校地買収費の財源としては、霞ヶ浦土地株式会社からの寄付金をあてております。小中学校備品費は、今回ピアノの購入に際し地元PTAが強くランドピアノを希望して、その差額に対し篤志寄付の申し出がありましたので、ここに追加計上したものであります。

ここで一言御報告をかね御了解をお願いしたいと存じます。過日、社会クラブ所屬の議員各位から小中学校の備品購入のため指定寄付金をいただいたのでありますが、この費途につきましては、いましばらく検討の上あらためて予算化したしたいと存じておりますので、どうかよろしくお願いを申し上げます。

保健体育費は、かねて市制七十周年記念事業の一つとして計画の体育館の建設について、厚生年金保険の還元融資が決定いたしましたので、ここに初年度分を計上したものでありまして、総事業費約四億五千万円、うち年金融資二

億円で三カ年継続をもって中央緑地の中に建設しようとするものであります。

才十一款災害復旧費のうち、農林水産施設災害復旧費は、去る八月及び十月の集中豪雨による復旧費でありまして過日、主務省の災害査定が終わりましたので、ここに追加するもので、同時に市単独事業費についても計上いたしました。このうち補助事業につきましては、三カ年にわたって補助金が交付されますが、工事は地元の立てかえにより明年植えつけ期までに一時に行ないたいと存じますので、別表で債務負担行為をお願い申し上げます。

なお、特定財源として県費補助金及び地元負担金、施越し分については、地元立てかえ金を計上いたしました。土木施設災害復旧費は、去る九月の台風二十六号による復旧費であり、今回、国庫負担事業として決定をみましたので追加するものであります。

歳入につきましては、歳出各科目で申し上げました特定財源のほか、一般財源は固定資産税増収見込み分並びに前年度繰り越し金を計上収支の均衡をはかったのであります。

議案才百六号は、昭和四十一年度四日市市競輪事業特別会計補正予算才一号案であり、今回の補正は車券の売り上げが次才に増加してまいり、当初の予想をはるかに上回わるに至りましたので、ここに所要経費その他の追加をお願いするものでありまして、収益金は一応予備費に計上いたしております。

議案才百七号は、昭和四十一年度四日市市国民健康保険特別会計補正予算才一号案でありまして、その内容は、今回新しく保健婦を設置して被保健者の健康指導と保健思想の普及徹底をはかるため所要経費を追加更正いたしますとともに、過年度国庫補助金の帛算による返還金の計上をお願いしたものであります。

なお、財源につきましては、保健婦設置に対する国庫補助金並びに前年度繰り越し金等をもって充たいたしました。議案才百八号は、昭和四十一年度四日市市と畜場食肉市場特別会計補正予算才二号案であります。

今回の補正は、と畜廃棄物焼却による悪臭除去のため焼却炉の新設改良費、と殺件数の増加に伴う需用費並びに豚の集出荷対策費の不足額等を追加計上するものでありまして、これが財源といたしましては、と畜場使用料等の増収見込み分、前年度繰り越し金その他一般会計よりの繰り入れ金を充當いたしました。

議案才百九号昭和四十一年度四日市市公共下水道特別会計補正予算才二号案は、施設管理費において阿瀬知、納屋の両ポンプ所及び日永処理場における電力料の不足見込み分と、建設改良費において日永、朝明両処理場の処理能力拡張計画について主務省に提出する認可申請書の作成委託料、日永処理区における枝管及び汚水枳設置工事による舗装復旧費等を追加計上したものでありまして、これが財源としましては、すべて一般会計よりの繰り入れ金をもってあてた次才であります。

議案才百十号は、昭和四十一年度四日市市立四日市病院事業会計才三回補正予算案でありまして、収益的収入五千二百十五万六千円、同支出四千七百八十一万七千円の補正をお願いするものであります。

その内容といたしましては、才三病棟増築工事が十二月中に完成予定でありますので、看護婦をはじめ医療技術員等二十四名の増員その他運営諸経費を計上いたしましたほか、患者数の増加等によりまして薬品、医療材料の購入費等の追加をお願いするものであります。

収入といたしましては、医業収益の増加をもってあてております。

議案才百十一号は、昭和四十一年度四日市市水道事業会計才二回補正予算案でありまして、収益的収入及び支出の増額一千百七十五万六千円の計上をお願いするものであります。

そのおもな内容を申し上げますと、収益的支出で給水の円滑化と老朽配給水施設の改修のための工事費七百二十八万円、道路用地の一部を市土木部へ所管がえしましたこと等に伴う固定資産除却費三百六十二万円を追加し、この財

源として水源地の動力費百万円、一時借り入れ金利息二百十三万円、予備費百三十五万円を減額し、収益的収入で料金の増収六百四十二万円を計上いたしましたが、このほか住宅公団団地造成工事の計画年次繰り延べ等による受託給水工事の収入及び支出の減額五千三百四十三万円があります。

資本的収入及び支出では、県工業用水の中村水源譲り受け等に伴う拡張事業費八百二十四万円、排水管布設工事費三百二十一万円の支出を追加し、この財源として排水管布設申込者からの工事寄付金三百三十六万円を計上し、支出に対し収入が不足する額八百三十八万円は、当年度及び前年度繰り越し損益勘定留保資金で補てんいたすものであります。

なお、債務負担行為につきましては、常磐地区の農業用水を確保するための大井手、松本町地内のかんがい用水施設工事の地元負担額のうち、地元が借り入れました百二十六万円の元利償還を、上水道三滝水源の取水に伴う補償として市水道局が負担する旨の覚え書きの締結と、去る十月三十一日の市議会全員協議会で御承認いただきました水道局庁舎建設資金として、市の一般会計の明年度予算で計上予定の補助金三千万円を含めて、本年度中に庁舎建設工事借負契約を締結することになりますので、その際必要な既決予算の範囲を越える債務負担の限度についての御承認をお願いするものであります。

議案才百十二号市役所出張所設置条例の改正案は、このほど塩浜地区の中里町について、町の区域の設定に関する県知事告示がなされましたので、塩浜出張所の所管区域に同町を公称町名として加えるものであります。

議案才百十三号職員定数条例の改正案は、市立四日市病院の増築に伴い職員の増員をお願いするものであります。議案才百十四号吏員退職料、退職給与金、遺族扶助料支給条例等の改正案は、恩給法の改正に伴いこの措置に準じて所要の改正を行なうものでありまして、概要は、退職料等の年額改定の場合の法令上の根拠を明文化したこと、増

加退隠料の受給者の扶養遺族に不具廃疾の成年の子を加えたこと、昭和四十年十月に改定された普通退隠料及び扶料について制限を解除したこと、昭和二十三年六月三十日以前の退職者に対する給料年額の改定等であります。

議案才百十五号市税条例の改正案は、去る三月の地方税法の一部を改正する法律のうち、明年一月一日から施行されます退職所得の課税の特例を中心とした改正であります。

その才一は、退職所得にかかる所得割の分離課税制度の創設でありまして、納税者の納付方法及び賦課、徴収面の合理化をはかっております。

次に、個人の市民税の申告制度について合理化をはかるため、申告書の提出期限を所得税の確定申告書の提出期限にあわせるよう改正しております。

才三は、低所得者等に対する本市独自の市民税の減免について、その対象者の範囲を拡大するとともに、分離課税制度の創設に伴う退職所得に関する部分の規定を整備しております。

その他市民税に対する減免申請手続き並びに地方税法の条項を引用する部分等について、規定の整備をしようとするものであります。

議案才百十六号青少年問題協議会条例の改正案は、根拠法律の題名及び条項の改正に伴い、関係部分について所要の改正をしようとするものであります。

議案才百十七号市営住宅管理条例の改正案は、従来の条例が地方自治法、公営住宅法に基づく市営住宅の管理についての規程であったものを、今回、地方自治法、公営住宅法、住宅地区改良法に基づき設置及び管理について規定することとし、住宅地区改良法の適用を受けて建設した住宅に関する規定を設けるほか、関係規定の整備をしようとするものであります。

議案才百十八号から百二十二号までの各議案は、地方公営企業の経営の現況にかんがみ、その健全化を推進するため、地方公営企業制度調査会の答申の趣旨に基づいて実施された地方公営企業法の一部を改正する法律及び同法施行令の一部を改正する政令等の公布に伴い、条例の制定及び改廃を必要とするものについて御提案申し上げるものであります。

まず、議案才百十八号市立四日市病院事業の設置等に関する条例の制定案は、病院事業の設置及びその経営の基本に関する事項について規定したほか、この条例に包含された現行の条例を廃止し、整備しようとするものであります。議案才百十九号市立四日市病院附属看護婦養成所設置条例の制定案は、現行の市立四日市病院条例を廃止いたしますので、地方自治法の規定に基づき公の施設として設置条例を制定しようとするものであります。

議案才百二十号水道事業の設置等に関する条例の制定案は、水道事業の設置及びその経営の基本に関する事項について規定したほか、従来各事項ごとに一部設けておりました現行の条例を改廃整備しようとするものであります。

議案才百二十一号職員給与条例等の改正案は、従来地方公営企業に従事する職員のうち、地方公共団体の長が政令で定める基準に従って指定する職員の身分取り扱いについて、一部地方公務員法によることとされていましたが、今回の法改正により企業職員として地方公営企業法によることとされたため、関係条例の一部改正を行なおうとするものであります。

議案才百二十二号水道事業管理者給与等支給条例の制定案は、今回の法改正に伴い地方公務員法才三条の一部改正が同時に行なわれ、地方公営企業の管理者が新たに特別職に加えられたので、その給与等の支給に関し条例の制定を行なおうとするものであります。

議案才百二十三号土地の取得及び処分案は、かねてより懸案でありました県立四日市商業高等学校校定時制の建設用

地につきまして、総合的な観点から富田地区の茂福地内に一六・一二二平方メートルの用地を価額二千七百十万円をもって取得し、三重県に寄附しようとするものであります。

議案才百二十四号中央緑地の譲り受け案は、市街地と塩浜石油化学コンビナートの中間に位置する大字日永及び寿町地内に大規模な植樹帯のほか各種運動施設、広場等を配し、市民の福祉増進の用に供する共同福祉施設を建設するにあたり、公害防止事業団に事業を委託し、これを市が譲り受けようとするものであります。

議案才百二十五号は、昭和四十一年三重県指令港才百三十七号をもって竣工認可のありました石原町一番地先公有水面埋め立て地について、新たに土地を生じたことを確認するとともに、同区域を新たに画して三田町と呼称しようとするものであります。

議案才百二十六号は、中野一色土地改良区が実施する土地改良事業の施行により、中野町字名前、小牧町字枳形のそれぞれ一部を中野町字東岡に編入し、中野町字東岡の一部を小牧町字枳形に編入しようとするもので、区域はお手元に配付しました図に示すとおりであります。

議案才百二十七号の市街地地域の編入及び住居表示の方法につきましては、別図に示す日永地区の一部約〇・一〇八平方キロメートルを昭和四十一年度において住居表示整備事業を行なう市街地区域に編入し、街区方式によって住居表示を実施しようとするものであります。

議案才百二十八号は、本市が実施しております住居表示整備事業により、お手元に配付申し上げました別図一に示す羽津、海蔵、常磐及び日永地区における約三・三九三平方キロメートルの町の区域及び名称を、住居表示審議会の答申を得て別図二のように変更しようとするものであります。

議案才百二十九号は、県道別名四日市線より四日市機械金属工業団地へ通ずる道路、桜町地内の近鉄住宅団地内の道路及び日永宮町市営住宅団地内の道路について、市道として認定をお願いするもので、所在につきましては、お手元の参考図に示すとおりであります。

議案才百三十号は、市道末永一〇号道の本郷町地内を四日市印刷工業（株）との交換に供するため、また赤堀七号線は、大字赤堀地内において四日市自動車学校の用地に供するため、それぞれ市道の一部についてその用途を廃止しようとするものであります。

議案才百三十一号の工事請負契約の締結案は、曙町地内において都市計画街路事業としての千才町・小生線道路改良工事でありまして、指名競争入札に付したところ、金額二千三百三十五万円をもって市内中浜田町生川建設株式会社は落札決定いたしましたので、同社と工事請負契約の締結をいたしたく、ここに御提案申し上げるものであります。

○議長（中島忠勝君） 提案理由の説明、お聞き及びのとおりであります。

議事日程に従いまして、本件に関する審議は留保いたします。
暫時、休憩いたします。

午後二時三十四分休憩

午後三時十九分再開

○議長（中島忠勝君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程才三十 議案才百三十二号公平委員会委員の選任について

○議長（中島忠勝君） 日程才三十、議案才百三十二号公平委員会委員の選任についてを議題といたします。
提案理由の説明を求めます。

市長。

〔市長（九鬼喜久男君）登壇〕

○市長（九鬼喜久男君） ただいま御上程の議案について御説明申し上げます。

議案才百三十二号は、本市公平委員会委員田中久吉氏の任期が本日をもって満了となりますので、後任の委員として乾達夫氏を選任申し上げたいと存じ、ここに御提案申し上げるものであります。

なお、同氏の御経歴につきましては、お手元に配付申し上げたとおりであります。

よろしく御審議のうえ御同意を賜われますようお願い申し上げます。

○議長（中島忠勝君） 質疑がありましたら、御発言願います。御質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）
質疑なしと認めます。おはかりいたします。本案につきましては、委員会の付託を省略し直ちに採決を行ないたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中島忠勝君） 御異議なしと認めます。

それでは、議案の採決を行ないます。

本案は、市長の推進者に同意することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中島忠勝君） 御異議なしと認めます。よって、議案才百三十二号公平委員会委員の選任については、これ

に同意することに決定いたしました。

日程才三十一 議案才百三十三号教育委員会委員の任命について

○議長（中島忠勝君） 次に、日程才三十一、議案才百三十三号教育委員会委員の任命についてを議題といたします。
提案理由の説明を求めます。

市長。

〔市長（九鬼喜久男君）登壇〕

○市長（九鬼喜久男君） ただいま御上程の議案について御説明申し上げます。

議案才百三十三号は、本市教育委員会委員笹岡つね氏の任期が、来たる二十五日をもって満了となりますので、同氏を引き続き委員として任命申し上げたいと存じ、ここに御提案申し上げるものであります。

なお、同氏の御経歴につきましては、お手元に配付申し上げたとおりであります。

よろしく御審議のうえ御同意を賜われますようお願い申し上げます。

○議長（中島忠勝君） 御質疑がありましたら、御発言願います。（「なし」と呼ぶ者あり）
質疑なしと認めます。おはかりいたします。本件につきましては、委員会の付託を省略し直ちに採決を行ないたいと思います。これに異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中島忠勝君） 御異議なしと認めます。

それでは、議案の採決を行ないます。

本案は、市長の推薦者に同意することに御異議ありませんか。

「〔異議なし〕と呼ぶ者あり」

○議長（中島忠勝君） 御異議なしと認めます。よって、議案才百三十三号教育委員会委員の任命については、これに同意することに決定いたしました。

日程才三十二 議案才百三十四号昭和四十年四日市市一般会計決算並びに各特別会計等決算認定について

○議長（中島忠勝君） 次に、日程才三十二、議案才百三十四号昭和四十年四日市市一般会計決算並びに各特別会計等決算認定についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

市長。

「市長（九鬼喜久男君）登壇」

○市長（九鬼喜久男君） ただいま上程されました昭和四十年四年度決算の概要を御説明申し上げます。

まず、一般会計では、歳入決算額は五十億七千二百八十六万三千八百三十九円でありまして、予算に比し五千三百六十六万八千三百七十二円の収入超過となり、予算に対する執行率は約一〇・一％になります。

調定額に對しましては、その収入割り合いは約九七・一％になりますが、不納欠損により五百二十四万一千六百九十円を処分しましたので、差し引き一億四千八百九十一万三千四百八十二円が収入未済額であります。

収入のうちわけは、市税収入が二十七億八千三百三十六万五千三百三十五円で、歳入決算額の約五四・九％を占め、税外収入が二十二億八千九百四十九万八千五百四円で約四五・一％になります。

なお、市税収入は予算に比し五千八百六万余円の増加をみましたが、税外収入では地方譲与税その他で二千四百一十一万余円の予算超過の反面、基金繰り入れ金その他で二千九百一十一万余円の予算不足を生じたので、これら増収額を差し引き五千三百十六万余円の収入超過になりました。

次に、歳出決算額は、四十八億八千二百二十九万四千四百四十四円でありまして、ほかに翌年度へ八百八十五万四千七百七十五円の事業費を繰り越しましたので、差し引き一億三千六十一万一千五百八十八円の予算不用額となり、予算に対する執行率は約九七・二％になります。

支出のうちわけは、別冊主要施策の実績報告書により御了承いただきたいと存じますが、各款の予算執行率は議会費九・一％、総務費九七・八％、民生費九六・八％、衛生費九八・一％、労働費九四・五％、農林水産業費九五・七％、商工費八七・七％、土木費九八・一％、消防費九八％、教育費九八・五％、災害復旧費九七・四％、公債費八九・六％、諸支出金九九・九％であります。

以上、歳入歳出差し引き一億九千二百六十三万四千五百九十四円の決算剰余金を生じましたが、このうちに翌年度事業繰り越し財源充当額八百八十五万四千七百七十五円を含みますので、実質剰余金は差し引き一億八千三百七十七万九千八百八十円になります。

次に、特別会計及び桜財産区の決算剰余金について申し上げます。

印刷所会計は、三百九十九万二千二百七十四円で、基金会計は災害救助基金分が十八万九千四百三十三円、小菅科学教育振興基金分が一千四百二十五円及び財政調整基金分が一千六百八十一万五千六百八十一円、計一千七百万六千四百四十九円であります。

公益質屋会計は、四万九千四百二十三円で、競輪事業会計は三千二百八十三万六千八百五十九円でありますが、ほ

かに一般会計へ一億三千万円の繰り出しがあります。

国民健康保険会計は、二千七百二十五万七千七百七十七円、と畜場食肉市場会計は五十一万二千三百五十八円、市営魚市場会計は二十二万二千五百十九円、公共下水道会計は六百二十二万六千五百四円、西浦土地区画整理事業会計は二十九万三千四百六十円、桜財産区は十万一千九百二十五円の決算剰余金であります。

以上のとおり一般会計、特別会計及び桜財産区の決算剰余金の合計は二億八千百十三万三千百七十六円になります。が、翌年度事業繰り越し財源充当額八百八十五万四千七百七十五円を差し引き二億七千二百二十七万八千四百六十一円の実質剰余金となります。昭和四十年年度決算を終了した次才であります。

どうかよろしく御審議のうえ、御認定を賜わるようお願い申し上げます。

以上十二月定例会に提出いたしました各議案の説明を申し上げますが、具体的なことにつきましては、議事の進行に伴い御質問に応じて御説明申し上げたいと存じます。

どうかよろしく御審議くださいます。御決議を賜りますようお願い申し上げます。

○議長（中島忠勝君） 議事日程に従いまして、本件に関する審議は留保いたします。

以上をもちまして、本日の日程は全部終了いたしました。

次会は、来たる十三日午前十時、会議を開きます。

本日は、これをもって散会いたします。御苦労さんでございました。

午後三時三十分散会

昭和四十一年十二月十三日

四日市市議会定例会会議録（才二号）

四日市市議会

昭和四十一年四月四日市市議定会定例会会議録 才二号

米田好兼速記

昭和四十一年十二月十三日（火曜日）

○議事日程 第二号

昭和四十一年十二月十三日（火）午前十時開議

第一 一般質問

○本日の会議に付した事件

第一 一般質問

○出席議員（三十八名）

酒井昌一	北村与一	錦安吉	藤谷祐一	安垣勇君
------	------	-----	------	------

○欠席議員（二名）

鈴木愛次君

伊早伊山渡山味訓谷永橋服笠高山
 藤川藤本部本岡彌口田詰部田橋中
 信正金權榮一也專利興昌七伊忠
 一夫一勝郎一郎男九郎隆弘衛祐一
 君君君君君君君君君君君君君君君

加前大須伊矢荒日野中坂宮伊志前喜岩坪
 藤川島藤藤田木比崎島上崎藤賀川野田井
 定宗武総泰繁武義貞忠長春太政辰久妙
 男雄雄郎一郎治平芳勝郎吉郎一男等雄子
 君君君君君君君君君君君君君君君君君

○議案説明のため出席した者

市	助	助	収	市	総	税	産	厚	衛	土	建	副
長	役	役	入	長	務	務	業	生	生	木	設	収
九	岩	庄	川	谷	平	伊	芝	山	中	三	園	村
鬼	野	司	崎	沢	井	藤	田	本	山	輪	浦	木
喜	見	良	祐	文	清	涼	敬	軍	英	喜	和	喜
久	齊	一	男	男	三	一	太	一	郎	代	己	代
男	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君

増山英一君

○市議会議務局

教	市	水	次	技	消
育	立	道	務	術	防
長	四	局	長	部	長
栗	日	長	長	長	竹
林	市	城	滝	加	内
武	病	井	藤	藤	鉄
男	院	義	弘	弘	雄
君	渡	夫	君	君	君

事	議	主	主
務	事	事	事
局	係	長	長
長	長	小	佐
菊	岩	坂	藤
地	谷	正	野
英	剛	靖	孝
也	君	君	君

○議長（中島忠勝君）　ただいまから、本日の会議を開きます。

本日の出席議員は、三十一名であります。

本日の議事は、一般質問であります。

お手元に配付の一般質問通告書一覧表のとおり、各会派から通告がまいっております。

発言の順序は、一覧表のとおりであります。

なお、議事説明者中教育委員長は裁判のため午前中欠席いたしますので、御了承願います。

日程第一　一般質問

○議長（中島忠勝君）　それでは、日程第一、一般質問を行ないます。

喜多野君。

〔喜多野等君登壇〕

○喜多野等君　社会クラブを代表いたしまして、十二月議会の質問をしたいと思ひます。

第一点は、質問通告の行政水準の向上について、本件の問題につきましては十二月六日の全員協議会等におきましても、中央遮断緑地の賛成に対しまして当クラブといたしましては、今後の行政にあらゆる一般の市の行政問題に対する水準を下げていかなければ、ということを経営的な条件といたしまして賛成を行なっております。本件につきましては、このような条件をつけたというのは、従来から財政担当助役等がわれわれのものに対して四十二年、三年時には、非常に四日市の財政はピークの状態にあるというようなことを言われております。このような関係で、われわれ

は四日市の財政というのを見てまいりますと、非常に大きな大規模償却資産税というようなものを見ましても、四十二年、四十三年以降には約一億弱の金の動きが見られます。四十一年度には市のほうでは六億近くの収入を持っておりますが、四十二年になると五億、なお、四十三年、四年というふうに変化をします。

このような財政の面から考えて、当市として当然、自然増の税収の傾向はあると思ひますが、今後の見通しといたしまして、われわれ市といたしましてはいろいろな諸事業を実施していかなくないと思ひます。公害の問題においても、都市改造の問題も出てまいります。なお、のちほど御質問申し上げる諸会館の問題、また民生部門の希望の家の問題、あらゆる財政を今後必要としてまいります。こういうような、今後の市としてやっていかなければならない諸種の事業があるわけでございますが、こういう観点に立って四日市全般の市の財政の今後の見通しという点につきまして、担当助役のほうから御説明を賜りたいと思ひます。

第二点、教育行政についての質問でございます。

教育行政の予算の問題につきましては、去年以来、社会クラブといたしましてあらゆる面から教育財政の向上という面で、非常に我田引水の形になるかも知れませんが、われわれ自身も歳費をなげうっても教育費の増額をはからなければならぬ。なおかつ、その中の教育費の需用費、備品等については、極力これを増大していかなくないという点を再々にわたってわれわれは本議会ですべてまいりました。今回の市長の予算説明の中には、このような説明内容が書かれてございますが、教育委員会として前会の九月議会には、公費をもってまかなわなければならぬ父兄の負担額は約五千万弱というような表現もされて教育長から説明もされております。これを教育委員会としてはほんとうに市民の父兄負担、税外負担というものをなくしていくために前向きな姿勢で、どのようにこの問題を解決していくかということについての御答弁を賜りたいと思ひます。

なおかつ、今後の計画はどのような計画をされていこうとするのか、という点についてもお願いしたいと思います。次に、教育行政の教育施設の問題に対する御質問をしたいと思います。

現在の四日市市の人口の動きは、海岸線の方面からやはり西部の山の手の方面に人口の異動が行なわれております。これは、一側面としては公害という問題もございます。しかし、新市街地の開発という問題も、非常に目ざましい傾向をもっておりまして、このような状況の中で一番よくこの人口の推移がわかりますのは、入学児童の傾向を見ればそれが非常によくわかると思います。一例をあげまして、このような面についての御説明を申し上げますと、三重小学校は四十一年度の入学児が八十五、それから三年後には百と、さらに四十六年には百五十三という傾向、高花平小学校をとらえて見ましても、四十年は九十二、四十三年は百二十、四十六年は百八十というふうに進んでおります。なお下野の小学校の傾向を見ますと、四十年は二十六、四十三年は四十二、四十五年は五十二というふうに伴っております。なおかつ下野小学校の場合は、これに併設されて朝明団地の開発等も加わって相当の社会増の傾向をたどるように推測されるわけでございます。

このような面から考えまして、教育施設の問題につきまして今後の展望及び対策をどのように教育委員会として考えていくか。こういう社会増に対する対策はどうか、という点についての御説明を賜りたいと思います。

第三点に移ります。

衛生行政について、水沢の赤痢の今後の環境対策という問題について御質問をしたいと思います。

水沢の赤痢は、県・市の努力によりまして、特に市の衛生部等の皆さん方の献身的な努力によりまして、集団赤痢は終息を見たわけでございます。この面につきましては、私たちはほんとうに市の衛生部門の方々に敬意を表するわけでございます。しかし、本件に対して今後このような問題が起こらないのかどうか、こういう問題についてなおか

つこのような大きな赤痢患者を続発し、本日の新聞等を見ましても病院等の関連におきまして、住民の不満、憤りというものは何らかのあらゆる抵抗の形になって出てきております。これは当然なことではないかと考えるわけです。赤痢期間中は、児童が学校に通学する問題においても、水沢地区で一番盛んな、お茶の製造においても、また輸出においてもいろいろな面において水沢地区の人たちは、実質的な大きな被害をこうむっておるからであると私は考えるわけです。だから、今後はどのようにしてこういう地区にこういう問題が起こらないように衛生の指導をし、また環境をよりよくしていくという面について考えておられるか、そういう面についての御答弁を求めたいと思います。

第二点、清掃し尿の地域拡大について。

昨年来、社会クシブの代表の議員が日々、清掃地域の拡大につきまして種々申し上げております。人員、車輛等、十分にこういうものを整備し、強化し現在の清掃地域をなおかつ広く拡大していく、そして一般の市民の利益に供するという面について、来年度の清掃地域の拡大についてはどのように衛生部門として考えておるか。現在の各農家にいたしましても昔と違いまして、肥料等は化学薬品をもちい、なお働ける人たちはほとんど各企業等につとめております。このような状況で、し尿等のくみ取りというものも、相当農村地帯までも進んでいかなきゃならないという、今後の現状の見直し等を考えてみますと、どのようにしてそういう問題について対処していくか、という点についての対策に対するおことばを賜りたい。

第四番目に移ります。

諸会館に関する答申について、四十年度に諸会館の審議会から答申が行なわれ、その結果、体育館については中央遮断緑地とあわせて計画してやられる段階に入っておりますが、そのほかの労働会館とか、中小企業センター、図書館等についての実施の計画案を御提示願いたい。

本件につきましては、社会クラブといたしまして御質問してただしておかなければならないことは、調査費までつけて実施する段階まで来ておった労働会館等の問題につきましても、中小企業センター、なおかつ現在の市民ホールでは非常に広すぎる、特に中間ぐらゐの会館が必要であるというようなことは、前市長の平田市長時代にも再三申され、そういう形は全般的にそれを集めて集中的に会館をつくる方法と、分散的につくる方法とある。だからそういう問題は、全部を総合的に審議会をつくり、諸会館の審議会によって検討し、なおかつ専門家のコンサルタントに頼んでそういう計画案をつくって、そしてその計画に基づいて実施をはかりたいというような答弁をされております。

しかし、現在、前市長は他界されて見えませんが、そういうような経過を考えあわせてみるときに、四年後の現在に至ってそういう計画の実施案の計画案すら出ておらない、このようなことでは百万べんここでいろいろなよりよい皆さんの意見を出しても、その実施計画については何らそこに価値のないものになってしまいます。本件についての具体的な実施計画についての御提示を賜わりたい。

第五番目。霞ヶ浦埋め立て事業及び工場誘致について。

霞ヶ浦の埋め立てについては、富田、富洲原、羽津地区より公害に関連する企業の誘致は反対であるというような陳情等も出てきております。なおかつ、それではそういうような工場地帯を見学して、十分理解してもらわにゃ困るというようなことで各自治会単位で見学はされたそうでございますが、やはり四日市市民の北部の方々は反対をいたしております。このようなことに對して、あくまで現在の産業発展の一環として、石油化学関連工場に關係をいたしました工場を誘致してこなければならぬかどうか。そのほかいろいろな産業もございます。公害を発生しない産業もございますが、そういうような面についての工場誘致ということは考えられないかどうか。もしも、多くの市民

の皆さんがそういうことを希求し、ほんとうに希望してあるならば、そういうような方向に前向きな姿勢をもって市長自身がそういう開拓を行なっていくべきではないかというふうにも考えます。

なぜ、私がこのような御質問をし、こういう問題をただすかといいますと、現在の南部の工業地帯を見ればその点は十分おわかりだと思えます。公害患者は以前よりもだんだん増加の一途をたどり、南部の地区の住民は困惑をいたしており、なおかつ何とかしてもらいたいという憂慮な気持ちで、心ある者は、金のある者はやはりそういう地帯から、やはり西部のほうへ変わっていくというような状況下に置かれておるわけでございます。現在の段階では、南部の条件といたしましては集団移住をしなきゃならない、都市改造をしなきゃならないんだというような、いろいろな今後なお解決していかなきゃならない諸種の問題をたくさんかかえておるといふ現在の状況にございます。

こういう状況を見たり聞いたりした中で、その北部の住民が判断する上に立って、それが好んでそういうものの誘致に賛成をいたすでしょうか。皆さんはこれに對しては、あくまで反対をしていくという方向を示唆いたしております。ほんとうに四日市市民を愛し、人権を尊重し、多くのしあわせを願うならば、やはりそういう点についての基本的な考え方を變えていくという必要があるんじゃないかと。本日はっきりと議会で聞いてみないとわかりませんが、やはりちょいちょい新聞紙上で見ておりますと、市長の意向がいろいろな面で漏らされておる新聞記事も載っております。そのような観点から、基本的に市長のポリシーとしてどのような方向を示唆するかという面についての方向づけを御説明賜わりたい。

六番目、労働行政に関する執行機関の設置について。

本問題につきましては、当市といたしましては専門的の部門もございませんので、非常に政治的な關係の問題になつてくるというふうに考えられますが、四日市市の状況から見ますと、他都市と比較いたしました非常に重化学工業

の中心地といたしまして、働く勤労者の層は非常に厚いわけでございます。この中で特に、本件についての労働行政の機関を本市に必要ではないかというような面につきまして、具体的な一例を御披露申し上げ、そういう点の市としての判断とその考案についてを御意見として賜りたいと思います。

それは、勤労者も若いうちはいいわけですが、やはり五十五歳、六十歳になりますと停年になり、そして老齢期を向かえてやはりむすこさんがおられる方はむすこさんに寄与されるだろうし、また、おられないところは自分で何らかの職をさがし、生活の糧を求めていかなきゃならないという現在の日本の段階でございます。いろいろな保険法等が拡充されて十分生活ができ、また子弟がない場合においては老人ホーム等も利用をしていただいて、生活の健全化がはかられておる状態であればよろしゅうございますが、そういう状態は、悲しいかな現在の日本にはないわけでございます。五十五歳になって、やはり失業保険をもらいに行きますと、ぐじゃぐじゃ、ぎゃあぎゃあ、あらゆることを聞かれ、いろいろなことを言われてなかなかもらえない、特に四日市においてはむずかしい。それがために、これは一例でありましてたくさんあるという問題ではございませんが、ある方はそれを苦にいたしましてガス自殺をするというようなこともあったような状況にございます。

しかし、他の都市に行きまして四日市と比較いたしましたして、そういうようなものがほんとうにそのようなきびしくやられておるかというところでもございません。よそのところでは八〇％、九〇％も失業保険をいただいておりますところもございます。しかし四日市とか、桑名とかいうところは非常にそういう面が政治的な配慮が足りないのか、強力にそこが重点地域になっておるのか、そういうことはわれわれの行政の範囲外の問題であるかわかりませんが、そういう面について、やはり今後高齢な方に対しての、やはりそういうものを掛け金をして掛けておるといふ状態が法的にはきまっております、そういう面についての何らかの政治的な配慮において、また、たとえば市のほうにもそういう

ような中間的なアドバイスする段階の部所があったならば、もっともっとより向上して、そういうものをなくしていただんではないか。これはひとえに市民の人たちがそういう面に、特に、勤労者の人たちが喜ぶそういうような今後においての問題ではないかという一例を申し上げて、やはり、労政行政に対する問題について執行機関としてもどのようにな後の対策として考え、なおかつ、市においてそういうものを考え、実施させ検討していくような方向を求めるかどうかという問題についての御答弁を賜りたいと思います。

概略、以上のような質問を申し上げましたので、よろしく御答弁をお願いしたいと思います。

○議長（中島忠勝君） 岩野助役。

〔助役（岩野見齊君）登壇〕

○助役（岩野見齊君） ただいまの御質問の第一問に答えさせていただきます。

過日の全員協議会におきまして、橋詰議員から、このままの状態では予算の弾力性が次第に減少してきて硬直性が加わるであろう、といったようなことを御指摘になり、また御憂慮になったんでございますが、その見通しにつきましては新しい工場等の進出がない場合には、そうした御心配はまことにごもっともであろうと、私もお答えをしたわけでございますが、特に、こういふことがなければ昭和四十二年度から四十六年度にかけて市税の、市の財源の大きなものになっております市税の収入は、大体、年間いろいろ変動はあるとは思いますが、新しい大きな会社の進出なり、あるいは設備拡張がない限りは、大体、一億円から二億円程度の増収にとどまるであろうと、こういうようなことが予想せられるのでございまして、その間、物価の高騰あるいは人件費、その他の義務的な経費の増大も当然、計算の中に入れて考えねばならないとしますと、決して楽観的な考え方はできないものだと考えております。

しかし、ただ明るい面といたしましては、消極的ではありませんけれども四十三年度ごろからは、かつて大きく予算の中で重い比重を占めておりました予算外義務負担の償還が、皆さまの御協力によりまして次第に減少しており、現在、御承知のとおり三億数千万、あるいは五億近い償還を行なっておるんですが、これが非常に軽くなつてくるとこの負担から解放せられるという見込みがありますのと、また、政府の起債に対する償還は、幸か不幸か数年前までは自治省や大蔵省がこの起債を財源の一部として考えておりました関係上、四日市に対する起債がかなり制限しておられましたので、あまり公債費というものは過大にのぼっておらない。したがって、その面からの圧迫が他の都市に比べますと比較的少ないと、公債費を払うために身動きができない、公債費を償還するために身動きのできないというような状態じゃないと、こういうような点もございまして、決して樂觀はできないけれども、どうもならないというような財政状態には、私はそんなに行政水準を下げなくてもおちいることはないと考えているのでございます。したがって、われわれといたしましては今後の対策としては、市税における大規模償却資産の限度額の引き上げ、この運動を強力に推し進める必要があると同時に、財源の培養といたしましては、公害のない工場を積極的に誘致なり開拓につとめるべきであらうと考えるのでございます。こうした見通しではございますが、現在、四日市といましては基準財政需要額に対する財政収入の指数は、確かに百六十人くらいになっておりまして、これは全国でも同格都市と比較いたしますとき、屈指の上位を占めておるところでございます。したがって、こうした長期償の返還等は考慮に入れないならぬのではございますけれども、決してどうもならないということは、私はないと考えております。

したがって、確かに当初予算のおりであつたと思いますが、四日市の財政を、私は赤信号からもう黄色に変つた、と申し上げた記憶がございますが、この状態が多少長く続くことにはなると思いますが、決して希望の

もてない財政状態、何にもできない、事業も何にもできない財政状態におちいるとは、私は考えておりません。したがって、できるだけ財源の新しい獲得に対する努力を進めながら、いろいろな施設が水準を落とさないようにつとめていきたいと、かように考えております。

○議長（中島忠勝君） 教育長。

「教育長（栗林武男君）登壇」

○教育長（栗林武男君） 教育行政のうち、四十二年の教育予算の編成についてという御質問でございますが、そのうちで問題を提起されておりますのは、父兄負担の軽減ということに限定されておるように思いますが、その点に限ってお答えを申し上げます。

現在、わが国の教育というものは、教育の爆発時代というような端的な表現で言われているのでありますが、その一つの大きなものは、父兄の教育に対する関心がきわめて高いということでありまして、そのことから父兄負担の増加というような問題が生じていると、こういうふうに考えております。したがって、この父兄負担の軽減ということは、国、地方を通じての現在の大きな問題になっていると、かように考えております。

したがって、この問題をどう解決するかというのが、教育行政の一つの現在の課題であるともいえると思います。ただそれらの父兄負担が、すべて公費をもってまかなうべき内容のものであるかどうかについては、これは検討を要する問題があろうというふうに考えます。

先ほど、喜多野議員から、私が公費をもってまかなうべきものが、当市において五百万ほどある、というような御発言でありましたが、私はそうは考えておりません、これは。当然、公費をもってまかなうべきものというのは、ほとんど私はないのではないかと考えております。当然、公費というものは厳密な意味では、これは地財

法で規制されてるものを私は意味しているわけでありす。

そこで、ただ将来前向きの姿勢で、これをどう解決するかということではありますが、その場合、一つは、現在、管理部門でどのような学校規模において、どのような基準で設備せなければならぬかということ。その中で、父兄がどんな負担をしているかというようなことははき出していくというようなこと。それから教科の経営で、教科指導の面で教材教具というものを基準をつくって、そういう基準をもって整備していくということが一つの前向きの姿勢で、解決方法である、そういうように考えます。そうでないという、いつまでも現在のように教育の水準が高まり、父兄の要望が高くなれば父兄負担というのはふえていくんじゃないかと。まあそういうことを考えましてやはり管理部門において学校、あるいは学級単位にどれだけのものが必要であるか、あるいは教科指導において教材教具としてどれだけの基準的なものをもって、学校の教科指導が充実していくかというような、そういう設定の問題になると思います。こういうことにつきましては、私どもも研究を進めてまいりましてそういう基準を設定し、それに近づくような方向へ努力していく。そしてその中で父兄負担の余分なものを排除していくと、こういう方向をとるべきであろうと、こういうふうに考えております。

第二番目の施設計画でございますが、この問題は、社会増の面についての御質問のように承りました。

現在、私どもの施設整備計画というのは、着々と仕事を進めておる次第ではありますが、その中で社会増の問題、たとえば、例をあげられて、下野とか、高花平とか、あるいは三重というような、あるいはそういう例をあげておったわけでございますが、社会増の問題は、一つは計画的な増加というものと、それからそうではなしに個人的に住宅をつくって移住をして来るというた自然的な増加と、二つの面で考えられると思います。

で、計画的な増加というのは、企業側とか、公団とか、開発公社によって住宅の計画が進められておりますので、

それはその移住の計画に沿って、家族構成からどのように学童がふえていくかということ推計することができまので、そういうようなことで推計をしております。

それから、自然増については、これは出生とか、そういうので増加を把握して、いずれにしても学童がどのようにふえていくかという、その災患をとらえて、そしてそれによって学校建設というものをしよう、こういうようにいたしております。ただ、学校建築をいたす上で計画的な増加というのは、ふえる数がきわめて多いので、これに対応しては非常にやりいわけでありすが、ただ自然的な増というのは一学級ふえるとか、あるいはその翌年さらに一学級ふえるというようなものになりますという、非常に建築の上で無理な問題がございます、まあそういう面ではブレハブとか、そういうようなものを作って、そして最も必要な年度に建てるというようなほうが経済的にはいいんじゃないかと、これは方法の問題であります、いずれにしても人口のそのような動態というものを把握して、そして建築を進めてまいりたいと、そういうふうに考えております。

個々の問題につきましては、これは別の機会にお話をいたしました、社会増そのものに對する一般的なことでお答えをいたしました。

○議長（中島忠勝君） 衛生部長。

〔衛生部長（中山英郎君）登壇〕

○衛生部長（中山英郎君） 衛生行政についての第一点の、赤痢事件の今後の環境対策についての御答弁を申し上げます。

先月の三十日に全日協議会におきまして、審議会の皆さんに水沢の赤痢事件の中間報告を申し上げます。さらに十一月の十五日に、総務衛生委員会の席上で中間報告を申し上げてきたわけでございますが、先々週の土曜日に

患者総発生数二百十一名発生いたしましたして、先々週の土曜日に全部、治癒退院という状態になったことを、まず報告申し上げます。

これらに対する予算その他につきましては、今回の追加予算をお願いを申し上げますので、よろしく願いたいと思います。

それで、お尋ねの件の水沢の赤痢事件と、それから地区の環境の対策の関連性でございますが、私どもといたしましては、赤痢事件を、二百十一名発生した事件と、それから水沢の御指摘にもございました病院の問題というものは関連性はございますが、一応われわれといたしましては、区別して考えるべきであるというのが私の考え方で、防疫対策もそういったことで患者収容、防疫第一優先であるということに進んでまいったわけでございますが、第一段の防疫対策は一応完結いたしましたので、次に残されてる問題は、地区の方々の感情と、それからそれに対象となる水沢病院という問題がございますが、基本的には先般も厚生省から医務局並びに防疫局からの係官が現地にまいりまして、また、私どもと助役もお会いしたわけでございますが、その間の事情は申し上げて本省の問題にもされてございます。これについては、行政当局の指示は県当局にされる、ということをはっきり明言されておりますので、病院の医療運営、設備の運営、会見の措置というものは、まず第一義的には、その責任である、また、権限を有する県当局の措置を待つのが当然である。その措置が不備な場合には、さらに上級の指導官庁である厚生当局がやると、その材料も厚生省に届いておりますので、そういうことに私どもが期待したいと、こういうふうに考えております。

しかしながら市といたしましては、私どもの現在の環境は、きょうの新聞にも載っておりますが、四十日間水沢におりましていろいろ感じたことは、相当、感情問題があるということで、冷静にこれを見守りながら、市といたしましては病院側につくとか、あるいは地元民につくとかいう、その指導的なことは差し控えるべきであるというふう

に、私は考えております。したがって、その成り行きを注していきたいというふうに現在は考えております。

先般も、県の疫学防疫調査班の報告が県政記者クラブのほうへ発表されたようであります。正本はまだ届いておりません。まあ、われわれが要求する筋ではないと思いますが、その正本を参考のためにもらいたいという申し出はやっておりますが、あの報告につきましても私どもといたしましては、事前にそのぐらゐのことになるであろうという想定をいたしておりましたので、少しことばが過ぎるかもしれませんが、あゝいゝものはあまり期待してなかったということでございますが、それで、そういうような観点からおりまして赤痢事件というものと、病院と、地区民の環境というものは、はっきり分けたいというふうに考えております。

それで、今後のあの地区の環境ということになりますと、幸い、御承知のとおり簡易水道があそこに本年三月末できる状態を見てますので、すいぶん井戸水の使用ということからは相当安心感もてるんじゃないかという、一つの明るい見通しがございます。これは非常にけっこうなこと、あの地区としては大きなプラスになるんじゃないか。現地におきまして、水のたくさんあるのにいらぬじゃないかというようにございましたが、あの赤痢事件を契機として未加入の人も入るといふような気運も伺われますので、非常に大きな安心感ができるんじゃないかというふうに私は考えております。さらに、あそここの地区へまいりまして、山紫水明と申しておりますが、防疫対策で、かけずり回っておりますと、川の中にゴミがたくさんあるというようにことを目撃いたしました。私は、防疫の委員の席上で水沢地区でこういうことでは、赤痢と関係なくとも困るんじゃないかということで、一つの考え方としては、町有地なり、そういうところでゴミの集積所を設けたらどうかというようにことを示唆をいたしました。考えてみるといふようなことが自治会長の間で議論されておりますが、具体的ににつきましては知恵をかそうじゃないかというようにことで、この赤痢事件を契機として、あそここの地区については公衆衛生上の配慮というものが非常にしみておったと

いうことを、私は考えております。

それで市といたしましては、あとで触れますが、あの地区は現在、特別清掃区域ではございません。まあ、赤痢対策といたしまして、患者の間から出るごみと、し尿の一斉くみ取りを実施いたしました。そういったことから現在直ちにあの地区を特別清掃区域にする考えはございませんが、そういう環境保持のための助言、その他、地域組織といったものをまずあいつたとこへ指導していきたい。これはまた来年度に全般になりますが、ああいう例を引っぱり出して全的に市民の方々と、特に地域衛生の組織化ということにつきまして強制はできませんが、話し合いによって盛り上げていきたいと、こういう考えをしております。具体化につきましては、新年度の方針、その他であらためて議会におはかりして御審議をわずらわしいと思いますが、そういったことで、ああいう一つの例を一応赤痢事件とああいうことは分けますが、そういったことで地域的な清掃組織といったようなことを考えたいと、こういうふうに考えております。

それから、第二段の清掃し尿地域拡大ということでございますが、本年度におきまして議会の御協賛を得まして、北から朝明川の水系並びに三滝川の水系、それから内部川の水系の三つの矢を奥地に向かって発進するというのを申し上げまして、人員的にも車輛的にも増加の予算をいただきまして実施いたしました。その結果、現在時点では、当初もくろんでおりました朝明川の水系のほうでは、県道の輻輳ということで予想よりは作業量が下回っておりますことを、はっきり告白いたします。これは、バイパスの道路の完成によって改善されていくものと思いますが、三滝川水系の保々、桜地区におきましては、予想以上の成績をあげております。特に、例といたしましては桜地区におきましては、住民の方がごみ集積所という立てふだもつくっていただき、一カ所に集めるということを話し合いによってきめてもらいまして、非常にスムーズにごみを集めております。こういった地区民の方の協力がありましたので、

予想以上の成績で、きまった日に入る、無理をしても入るということを現在実施しておりますので、そういった方向でこれからいきたいというふうに考えております。

内部川の水系のほうにつきましては、大体、予想どおりの成績でございますが、過去一年間ふり返りまして、やはり理屈でなく、ある程度の車輛と人員とをもって、しかも一方的でなしにわれわれの考えておる計画を、その地域へ入っていった話し合いによって市民の方に協力してこういうことをやってもらいたいと、そうすれば、思った日に入るということが一番手っとり早く確実でありました、喜ばれるということ、私は、しみじみ感じておりますので、来年度につきましては、すでに予想されております朝明団地の人口増加と、あるいは、ほかの本年度実施しました三つの矢の奥地への浸透を、人員、車輛の増加とともにあわせて考えていきたい。

この地区を特に指定するといった、単なる行政的な区画による色鉛筆で地図にこれだけをやるんだというようなやり方はしない、あくまで話し合いによって実施可能な、また、協力を得られる体制のところから始めていく。非常に消極的ではございますが、約束した以上はこの地区は何日に入れると、また、交通量もいけるといような段階で、手がない方法で来年度は実施していきたいというふうに私は考えております。

以上で終わります。

○議長（中島忠勝君） 市長。

〔市長（九鬼喜久男君）登壇〕

○市長（九鬼喜久男君） 第四番目の問題の、諸会館に関する答申についてをお答えいたします。

四十年度に体育館等を含むところの諸会館が建設されるよう、答申されております。この件につきましては、大体二十数億円の前算の規模をもって諸会館を建設されるということになっておりますが、まず、何も緒につかないでは

ないかとお話していますが、まず、体育館がようやく期を経て七十周年の記念事業として建設されようとしております。しかしながら、この百人から五十人ぐらい収容するところのホールをほしいというような希望も非常に強い当節でございますので、ぜひともそういうようなホールを含んだところの会館が必要だろうということは、非常に急を要する問題でもあらうと思います。

しかしながら、御意見にございましたように分散的か、集中的がよいかという意見でございますが、私は、やはり集中的にこれを建設して、市庁舎との新築との関連において解決すべきだと、そういう場合においては、この市庁舎の利用方法が考えられるのではないかと考えております。これは労働会館とも、あるいは図書館にも、あるいは中小企業会館としても幾多の用途があると考えるものでございます。

まあ、この答申案というものは、答申はされておりますが、私としましては別にこれを答申に基づいて、義務的にこれに縛られるものではないと私自身は判断をいたしております。

次に、第五番目の霞ヶ浦埋め立て地事業及び工場誘致についてでございますが、私は、この問題を論じますにあたりまして、単に工場を誘致するとか、霞ヶ浦を埋め立てをするというだけの問題ではなしに、これは四日市市の将来のきわめて重大なる未来像につながる問題であらうと、私は判断しております。

したがって、これは直接市民には、あるいは公害の出る場合には公害の問題として、また、働く場所として、あるいは商工業の関連として考えられます。また、企業にとりましては企業自身の体質改善であるとか、大型化であるとか、あるいは近代化していくというような面で企業にも関連がある、あるいはまた、先ほど岩野助役が答弁をさしていただきましたように、市の行政水準の向上にもつながるところの、市の財政の充実にもつながるきわめて大きな将来像につながる問題であると、私は判断をいたしておる次第でございます。

私は、たびたびこの席で申し上げましたように化成、モンサント、昭和石油等ができましたのを第一期といたします、合成ゴム、あるいは三菱油化が第二期の発展のコンビナートを形成した。続いて私は、この第三の発展期に入るのがこの午起、霞ヶ浦埋め立て事業につながっていく問題ではないかと判断いたしておる次第でございます。しかしながら、霞ヶ浦の埋め立て地という問題は、いわゆる公害等を含めましてきわめて大きな社会的責任の問題でもありそしてまた、市の将来像にもつながる問題でございますので、単に埋め立ての問題としてではなしにいろいろの用途判断からこれをやれば、四日市市の将来像をつくる姿として推進をいたしていきたいということを、たびたび申し上げておるとおりでございます。

昭和四十一年度は、不況克服策としていろいろの関連の地方債を認めまして、国は、市町村財政の充実というものをある程度みてきてまいったわけでございますが、この来たる昭和四十二年度には八千億の国債を発行されようといましております。この国債の発行下における地方財政のあり方というものは、私は将来きわめて重大な問題になってくるのではないかと考える次第でございます。昨今の新聞を見ましても、税制調査会小委員会において八千億の国債それに三兆七千億の所得等の国税三税のいろいろの地方の配分等が論ぜられておりますが、しかしながら、そのような交付金というものは、一般的な交付金は四日市市は財政がよいためにございせんが、しかしながら、国債が八千億発行されたならば、おそらくやこの公共事業の関連として、地方自治体には半ば強制的にいろいろの公共事業が推進されてまいります。そのようなときにそれを受け入れるということは、ますます市の財政に重み、苦しみを加えるということになるかと思いますので、私は、行政水準の向上ということと同時にそれは財政の充実であり、そしてこの埋め立て地事業を行ない、そしてまた工場を誘致することが、すなわち市の経済力を充実させることであり、それがとりもなおさず財政力の充実につながるかと判断をいたしております。

しかしながら、四日市市の企業は、大体できました当時から公災害に対して根本的な配慮が払われておらないということが、第一点の一つの特質でございます。

第二は、企業群が非常に過密である。ただいま造成されておりますところの他の工業用地が数百万坪であるに対して、十三のコンビナートが約百八十万坪のような狭い土地に押し合いこをしておるといふような状態でございます。したがって、第二の特質は、私は過密であるということではないかと判断をいたしております。

第三に、最近の非常な国際競争の激しい情勢の中では、四日市の企業というものはすでに小規模化しつつあると。また、技術的にもおくれつつあると判断をいたしておる次第でございます。そのような総体的な四日市市の三つの特質から、そうしてまた、現在第二埠頭が新設されつつございますが、ここに百五十万立米という土砂が出てまいります。この土砂の捨て場がございません。何といたしまして四日市市は港湾都市でありますために、港湾を整備し工業用地を造成するということが、私は先ほど申し上げました霞ヶ浦埋め立て地事業との関連におきまして、きわめて解決を要しなければならぬ問題でございます。

したがって、この百五十万立米の土砂をどこに捨てるかと、ただいまそれは工事は進んでおりますので、この土砂の捨て場と同時に霞ヶ浦にかねてからいろいろと御説明をさせていただいておりますところの埋め立て地を造成し、ここに従来のような公害のないところの企業を誘致し、ここで技術開発あるいは大規模化の進んだ企業を立地するのがよいのではないかと考えておる次第でございます。

したがって、霞ヶ浦埋め立て地事業、及び工場誘致につきましては、今後とも熱心にこれを推進させていただきまして石油化学等以外の企業についても誘致できるものについては、積極的に誘致をさせていただきたいと考えておる次第でございます。

○議長（中島忠勝君） 庄司助役。

〔助役（庄司良一君）登壇〕

○助役（庄司良一君） 市長にかわりまして、先ほど喜多野さんの御質問の労働行政についてお答え申し上げます。

この問題につきましては、かつて本議会において議論されたこともございますことは御承知のとおりでございますが、現在のところ労働行政につきましては、国から県の段階まであらゆる権限がおりてまいり、中には国みずからが労働基準局あるいは労働基準監督署等を通じて、直接行なっております部門もございます。さらに、県を通じて労働行政を施行されているのが現在の仕組みでございます。

ただいま例として御指摘になりました、職業安定所の扱っております失業保険の取り扱いが、お聞きするところによりますというたいへんサービスが悪い、まあこういうふうにお聞きしたのでございますが、こういった点につきましてはこれはもう私どもも決して無関心ではないのでございまして、できるだけ市民の方々のそういった点で自由のないようにしていただかなければならないことはいうまでもございません。したがって、私どもは市民であると同時に県民でもあり、県の機関の行なうサービスが悪いということ、たまたま有力な県会議員も本市からは出ておられることであり、悪いところは直接申し出もいたします。また、月に一回くらいの程度は職安と私ども打ち合わせ会をもっております。そういった機会を通じてでも本件につきましては十分御質問の要旨、意を伝えまして、将来もそういうことのないようにつとめたいと思います。

この問題につきましては、本市に課なり、あるいは係等を設ける考えはないかというような御意思かとも思うのでございますが、本件につきましては、なお先ほど申し上げたように固有の事務そのものをもっているわけでもございません。単に調査ということが中心になるかと思えます。そういった点については、あるいは商工行政の中の部門と

してでもやれないことはないかとも思います。

これについては現在まだ考えておられない。新設の係等は考えておられないということをお答え申し上げます。

○議長（中島忠勝君） 暫時、休憩します。

午前十一時十分休憩

午前十一時二十四分再開

○議長（中島忠勝君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

喜多野君。

〔喜多野等君登壇〕

○喜多野等君 ただいま六項目にわたりました、質問に対する御答弁を賜わったわけでございますが、第一番の行政水準の向上についての問題につきまして担当助役より非常にけっこうな御説明を賜わりまして、われわれとしても今後の問題に十分進捗できるというふうに考えております。

本件につきまして助役が申されました、四日市市は黄色な信号が続くんではないか、また、それによって決まってきたと大きく変化をした、行政水準の低下をするというようなことは心配しなくてもよろしい、十分現状維持の状態でいけるのではないか。しかし、その中で市としての拡大再生産の方向というものは、あくまで考えていかなきゃならないことである。これは後の市長の未来像としての霞ヶ浦の工場誘致の問題、また、その他の問題に関連性をもってくる問題でございますが、一つの方向といたしましてそういう方向を出されたということについて、四日市の市長として、今後の方向としてそういう方向を十分に踏んまえて、今後のあらゆる事業にあたっていただく。少なくとも

もそういう財政情勢であるということを考え合わせて、今後の全市の事業に十分行政水準を下げないで、進み得れるという方向のはっきりとした方向づけに対する財政はこのような状況で移行してあるので、今後の事業等についても十分やっていけるんだという方向に対する理解なる市長の方向づけを求めたいと思います。

第二の教育行政につきましては、教育長からいろいろ御丁寧なる御説明を賜わりまして、非常に感激をしております。うな次第でございます。（「ほんとうに感激したんか」と呼ぶ者あり。笑声）

税外負担等は一切あり得ないと、ありませんというようなおことばを賜わりまして、いろいろな人間、各立場立場によっていろいろな方向の考え方、進め方、見方というものがあるということをはっきり認識したようなわけでございます。このような教育財政の問題は、本質的には全般的に教育予算というものを増額していく中において、やはりこういう問題を種々解決していかなきゃならないということ、はっきりしておるわけでございますが、こういう面についてそういうような御答弁を賜わるといことは、非常に私としては残念に思っております。今後、再度もう一回この件については、真剣にやはり御答弁を賜わりたい。

二番目の教育施設の問題につきましては、今後の計画としてやはり前回、教育十カ年計画等いろいろな計画を出されておりますが、そういう施設の計画というもののについての展望はどうかという点についても御答弁を賜わりたい。

三番目の衛生行政につきましては、十分対処して、一番問題になっております簡易水道の施設というものも、今後できあがるという一つの方向も打ち出され、なお、その環境のし尿ごみ等、そういうような問題も十分水沢地区に配慮していただいて、十分なる衛生指導を行なって、今後二度とこういうような問題が起こってこないと、もっともと明るい、よりよい環境にさせていただくということをお願いしておきます。

なお、清掃し尿の地域の拡大につきましては、いろいろ衛生部長のほうから今後の発展について答弁がありました

ので、本件についてはこれをもってやめておきます。

四番目の諸会館に対する答申につきましては、まことに市長としての答弁としては非常に不満足な答弁であり、私としては満足できない答弁でありますので、再度御答弁賜りたい。

といいますのは、四日市の市民全部がやはり欲求し、希求し、そしてそういう意向をもったそういう条件があるから、やはり市長としても諮問委員会をつくり、そういうものを検討して進めなきゃならないという方向を打ち出してそういうものを検討しておるわけでございます。そして審議会をもったわけでございます。それでなかったら、高い金を払っていろいろコンサルタント等に依頼して、集中化がいいのか、分散化がいいのかというような問題について決して研究検討をしないわけでございます。そういう市民各階各層の、そういうあらゆる希望がそういう集積の形となつてあらわれてきている問題の、経緯の長いこういう問題について何もそんなものにこだわる必要はない。それはそうでしょう、市長がかわればおれが大将だ、(笑声)おれがやることに何をいうか、ということかも知れない。しかし、世の中はそういうものではありません。やはり前の平田市長が、現在ではなくられておりますが、そういう市民全般の意向、各階各層の意向、そういうものを集約した段階において、やはりこういう方向で十分審議をし、検討をし、そして進めていくべきではないか。そういう面についても専門家を委嘱し、検討をしてやっていくことが大切なことであるというような方向づけをし、審議会をつくり、現在の段階までの過程を歩んできた問題でございます。本件については、そう、かりそめな判断をもって処理されるということについては、いささか私としては、この市長の答弁では納得できませんので、それに対する明解なる答弁をお願いしたいと思ひます。

霞ヶ浦埋め立ての事業及び工場誘致の問題につきましては、近來にない、よい答弁がなかなかしたというふうに私は思つておるわけですが、(笑声)この面についての方向づけといたしまして、やはり未来像の財政収入との関連性

も合わせ考え、埋め立てを実施し、そして工場を誘致してまいるわけでございますが、やはりあくまで市長が言いましたように、公害に関連されない工場を誘致し、市民がこぞって今後の工場の誘致に賛成をし、やはり市民の中小企業者もほんとうに喜び、そして楽しい環境づくりをするというような、一つのよりよい条件ができる工場の誘地等をぜひとも進めていただくことをお願いするわけでございます。

いろいろな問題につきまして、財政収入の関係があるから、あくまでそういう関連工場が四日市には重化学工業、そういうものがあり、または国際競争の問題も出てまいりましたが、四日市の市長は国際競争は心配しなくても、やはり四日市の市民の生活をまず第一に心配をしてもらわなきゃ困ると思ひます。だから、そういう観点に立って考察をした場合、未来像としての行き方として、やはりそういう方向に対するはつきりとした確信の御答弁をしてもらわなきゃ困ると思ひます。

六番目につきましては、一つの政治的な配慮の問題もございしますが、御答弁を賜りましたのでこの程度にしてやめておきますが、そういう問題についての十分なる配慮をお願い申し上げたいと、このように思ひます。

○議長(中島忠勝君) 市長。

〔市長(九鬼喜久男君)登壇〕

○市長(九鬼喜久男君) 先ほど岩野助役から御答弁をいたしました、行政水準の向上についての再度の御質問でございますが、黄色の信号というお話がございましたが、黄色の信号でも黄色の信号のついたままの信号もございしますし、点滅するような信号もございします次第でございますので、点滅するつきの信号と御解釈願えれば、私はけっこうかと思う次第でございます。

まず、行政水準の向上と申しましても、何と申しましても水準の向上といつてただけでは、取らぬタヌキの皮の

ようなもので、やはり財政力の充実ということが根幹であろうと思います。そのためには、市の経済力を充実させることであると、市の経済力ということとは、つまるところ私は公共投資を適当にし、港湾を整備し、道路を整備するということに関連するのではないかと思います。また、もう一つは、市営の事業あるいは競輪というようなものを考えていただいてもけっこうでございますが、この市営事業というものの成績を向上させることである。そうしてまた、一般的に経済的な活動分野を広く含んだところの、企業誘致の結果の市に対するいろいろの経済的な動きというものの反映というものが、私は、経済力に出てくるのではないかと。それがつまるところ終局的には財政力の充実となってくる。いまからそういう心がけをするということは、私は五年先、六年先に必ずそれが市の財政力となって反映してくるかと考えております。

したがって、私は重ねて申し上げておりますように、行政水準の決して落ちないように格段の努力をいたしたいと思つ次第でございます。

諸会館に対する再度の御質問でございますが、やはり私は、体育館というものが最も一般的に広く利用される用途があると思つ次第でございます。また、若い人々の間にも体育館の要望というものがきわめて強いということも、やはりそういうことの反映ではないかと思つ次第でございますので、諸会館等につきましては、この市の庁舎、現在でございますところの市の庁舎というものの活用というものを皆さんとともに御検討していただきたいと思つておる次第でございます。私がかつてに、もう大將がかわったからおれのかつての判断だ、というような考え方は毛頭もっておりませんことをお答え申し上げます。

霞ヶ浦埋め立て地事業等に関する見解につきましては、先ほど申し上げたとおりでございます。公害のない事業を、工場を積極的に誘致したいと思つておる次第でございます。

○議長（中島忠勝君） 教育長。

〔教育長（栗林武男君）登壇〕

○教育長（栗林武男君） たいへん喜多野議員から、たいへん教育に対する御理解と御鞭撻のことばをいただいて、ありがたく思つておるわけであります。（笑止。「うっかりほめられへん」と呼ぶ者あり）

父兄負担を軽減して教育予算をふやしていくという、そういう根本的な考え方においては私どもも今後努力をいたしてまいりたいと、そういうように考えております。ただ、私が申し上げましたことは、現在、校舎とか、あるいはプールとか、あるいは運動場、あるいは教職員の給与というようなものについてすべて基準ができておりまして、その基準の中で仕事をしていると、そして国と府・県の負担なり、あるいは市町村の負担なりという区分がはっきりしているわけでございます。ところが、教材教具費という勉強するものについての国の基準というものはっきりしていないと。まあ、そういうところで具体的な例を申し上げますという、縦型のピアノでいいものがグラランドを要求されるというようなこと。あるいはまた、最近出てまいりますところのシンクロファックスというような教授用具が要求されるというような、そういう点できわめて品物そのものの基準とか、基準品目とか、あるいは規格というものが決定していないということ。そういうことが教育熱の高い父兄の要望から高まってくるという、そういうことは現実には争われない事実であらうと、こういうことであります。

したがって、私が申し上げましたことは、そういう基準になる品目とか規格というものを一応考えるということ、そして負担区分を明らかにすること、そして現在の充足度を測定して、そして年次別にその充足をふやしていくという、そういうような基準というものをつくらなければ、なかなかこの問題は解決せないのではなからうかというような方法的なお話を申したわけであります。根本的にはそのことは父兄負担をできるだけ軽くして、

そうしてそれによって校費をまかなっていくという、そういう方法の問題であります。したがって、根本的には教育費をふやすということについては、私は努力をして、そうしてそれによって父兄負担を軽くしていきたい、そういう考えてございます。

第二点の展望については、これはたびたび申し上げておりますが、現在、私どもの考えておりますのは七カ年くらいでないとおさまらないのじゃないかと、まあ、そういうようなことを考えております。それは、社会増に対応するものと、それから危険校舎とか、あるいは特別教室というようなもの、それからプール、体育館といううなそういう格差の是正というような問題、まあ、そういういろいろな問題と、それから社会教育の施設とかあるいは図書館とか、あるいは給食センター、あるいは幼稚園と、そういうものを総合的に考えてこれをもっていこうと、そういたしますという七カ年の中で年次的に施設の面でどれだけ金がかかるかといううな、たいへんに大きな問題でございますので、これは委員会だけでなしに市長部局とも十分に話し合って、そして市の財政というものの調整の上に立った計画というものでありますので、その点につきましては、できればこの三月の当初に、そういうような方向で市長部局とお話をしまして、発表できればそういう段階までもっていくといううな、いま努力をしておるわけでありまして、ただこれは、もう七カ年の通しての予算ということを一応展望せなければなりませんし、同時に、ただ施設だけでなしに、その他の学校運営に関する経費といううなものもありますので、そういうものと均衡というものもありますので、そういうような全般的なことを考えまして、できればこの三月の当初にそういうような方向を打ち出したいと、こういうふうに考えております。

○議長（中島忠勝君） 喜多野君。

〔喜多野等君登壇〕

○喜多野等君 市長から御答弁賜りました、本庁舎の計画と両々相まってそういう問題も考えていきたいんだと、決して大將がかわったからそういう考え方を要するという意向は私はないと。この諸会館の問題につきましては市長から御答弁を求めたいのは、庁舎の計画と併用するのめけ、こうだと思いますが、前々から行政水準向上の問題で助役等の財政問題、あらゆる面から総括的にわれわれ考えまして、財政が十分潤っておる場合だったらそういう問題もやれるものからやっていくとか、行き当たりばったりとかいう方法もけ、こうだと思いますが、財政がだんだん窮迫してくる段階においては、やはり計画経済、または計画の方向というものは当然考えられるわけでございます。ですから、やはりこういう段階においては、どういう事業を何年にどのように計画し、何年にどのように終わってどのような計画でもっていくのかという、総合的な一つの計画案というものは、財政が窮迫してくれば窮迫してくるほどそういう計画というものは欲求されるわけでございます。ですから、そういう計画をどのように立てて、どのような方向でそれを片づけていくかという問題が基本的な一つの問題だと思えます。

財政収入をはかって、やはり市の財政状態を強くしていくということはもちろん本質的な問題で、それにまさるものはないわけですが、だからといってそれを現在においてでき得る見通しというのは未来の形でございまして、現在やり得る形としてはやはり計画的にどのように実施計画を組み、計画を立てた上でつくり上げていくかという問題ではないかというふうに考えるわけでございます。ですから、私はこういう問題についてどのような計画を、年次的なそういうような展望、そういうようなものをはっきりと皆さんの中にお示し賜りたい。

抽象的なことを言っていられなくても、われわれはそれを、はいそうですか、ということではできませんので、何年にどのような計画をどのようにしていくという、少なくとも具体的な案を示してもらいたい、このように思うわけですから、以上。

○議長（中島忠勝君） 市長。

〔市長（九鬼喜久男君）登壇〕

○市長（九鬼喜久男君） 諸会館の問題でございますが、年次計画をもって建設を説明しろ。とお話でございますが前の議会におきまして岩野助役が市庁舎の建設庁舎費を、四十二年度においても考えてみてよいという意思発表があったと思いますが、われわれはそういうような新庁舎のまず建設の調査費をしてみた上で、いろいろ検討をして進めてみたいと思います。（「議長」と呼ぶ者あり）

○議長（中島忠勝君） 喜多野君。

〔喜多野等君登壇〕

○喜多野等君 再三に質問いたしましたしっこいようですが、しっこくならざるを得ません、四年越しの問題ですから。市長もかわりましたので、特にくどくは申し上げたくないわけですが、諸種の経緯を経てこういう形になってきておりますので、そういう問題についてあやふやの答弁で逃げられると思ったら大間違いだと思います。少なくとも四年越しに考えてきて、十分再三にわたってやってきた問題ですから、相手が考えておらなろうがこちらは十分つねに考えておる問題で、検討を進めてきた問題であります。

だから、当クラブとしては本件については常にどのような状況に推移しているか、市の理事者はどう考えてどう進めているのかということについては十分把握もいたしております。ただ、企画立案をし、それを実施計画にうつしていく。計画的な方向というものを全然打ち出さないで、抽象的なことをいわれて検討します、検討しますということでは何年たっても同じことですので、その点についてやはり市長として何らかの方向を今議会において求めようといたしませんが、次期の議会には方向づけをして、やはり方針を明確に打ち出して、一つのはっきりとした計画案を発

表していただきたいと、このように思うわけでございます。

以上。（「議長、関連」と呼ぶ者あり）

○議長（中島忠勝君） 前川君。

〔前川辰男君登壇〕

○前川辰男君 財政問題にしばって再質問します。

先ほど助役から、四十二年以降の問題につきまして具体的に説明があり、さらに市長からですね工場誘致をするこ
とによって財政の健全化をはかると、こういう勇敢な方向が出されたわけですが、いずれもこれらは現在の制度、現
行制度の上に立ってものが考えられているんじゃないかというふうに考えるわけです。しかし、われわれは過去の歴
史の中からそういう現行制度の持つておる欠陥というものを、十分に認識しておるはずす。すなわち、そう遠い過
去でなくても昭和三十年程度からこちらへ、この全国の都市、あるいは自治体の進んできた道というものを振り返っ
て見ますと、どうであつたか。つまり、国の税制によって地方財政が圧迫を受け、憲法並びに地方自治法によるとこ
ろの地方自治というものが存在しながら、その実態は三割自治というふうなことがいわれているわけです。このこと
は一体何かというと、主要財源というものを国のほうに吸い上げて、そうして非常にやりにくい条件のもとに地方財
政を置いておると。つまり中央集権化をはかったような、そういう方向での制度であるはずなんです。したがって、
そのつじつまが合わないために昭和三十年当時、市町村合併というものによってお互いの市町村を合併させ、そして
その赤字をおのおのの相殺することによって解消させるという方法がとられたと、このことは周知の事実であるはず
です。それからまた、工場誘致をやることによって財源を求めると、これも全国的にずいぶん熱病のような形で蔓
延をしておったはずす。こういうことが四日市だけではなくしてですね、全国各都市においてずいぶんたくさん進

められて、そして当座ですね、矛盾というものがそこでごまかされてきておったと、このことをはっきりつかまなければ、いま市長の言われたような工場誘致をすればいいんだという、そういう単純なものの考え方で問題の解決はできないんじゃないかというふうに考えるわけです。

まあ、このことを工場誘致の是非についてここで申し上げると、たいへん時間も長くなりますから、省略いたしますが、これは、市長が新しいから知らないんだというようなことで済む問題ではありません。少なくとも市にはそれぞれ市長を補佐するスタッフがあるわけですから、それらのところは十分研究をし、そして結論を出しながら方向づけをしていかなければならない。そうなってくると、一体、財政の健全化というものは一体どういうふうに進めればいいのかという、もっと根本問題に触れてものを考えていただきたいと思う。

かりにですよ、その市長の言われることを是とした場合にでも、全国五百六十近くある市の中でですね、四日市だけがそういうことをやるんじゃないんですよ、全部の市が同じような方向でやっていると。お互いに取り合いをやっているだけのことです。同じ狭いどんぶりの範囲内での取り合いをやっているだけです。国の税制調査会のほうでもすでに地方財源に対する矛盾についてはずいぶん指摘されてるはずですよ。このことも知ってるはずですよ。そういう点についてですね、視野をかえてそうして当たらなければ、これは百年河清を待つのとえで、以外に四日市をほんとうによくしですね、市民の福祉を増進するという方向には向かないと思います。

ここで私は、工場誘致の是非は一応横へ置きますが、とにかくそういう点で一べん考え直していただきたい。たとえば消費税の配分の問題もごさいます。それから地方交付税の矛盾もあります。あるいは租税特別措置の廃止という大きな問題もあります。これら、どれ取り上げてみましても四日市の将来の財政をよくするための、非常に大きな手がかりになるはずですよ。あるいは、いま都道府県等で問題になっておりますガソリン税の問題もごさいます。

これらの問題は、四日市だけじゃなしに全国の都道府県、あるいは市町村すべてが共通して持っておる大きな課題であるわけです。これを国との関係を調整することによって、自治体の存在というのが非常に健全な形で、しかも自主的な形になっていくわけですから、地方六団体共通の問題として、特に、まあ四日市のようなところでは率先してその問題に取り組んで、ほんとうの市民の福祉をはかる方向にもっていったきたい。このことに対して研究し、取り組む必要があるかどうか、それだけをお伺いいたします。

以上。

○議長（中島忠勝君） 市長。

〔市長（九鬼喜久男君）登壇〕

○市長（九鬼喜久男君） ただいま、財政力の充実が企業誘致のみにあるようなお考え方の御意見でございましたが私は、さようには申し上げておりませんので。

三つのことが考えられると、それは市の公共事業を盛んにして港湾をよくし、道路をよくする等の公共事業の関連のものと、あるいはまた、企業を誘致し、また、その企業の技術水準が非常に激しいスクラップ・アンド・ビルドの時代に入るような行き方をするというようにこの関連において申し上げておりますので、そればかりで申し上げておるわけではございません。

また、先ほど申されたところのガソリン税等もこれは目的税になっておりまして、道路財源、日本の道路の建設費の七二・八％がガソリン税によってまかなわれておるという事実を見ましても、そのガソリン税の重要さというものは、そう軽々には変わるとは思いません。

したがって、われわれも大規模償却資産につきましては、もう少し市に有利になるように考えてもらうという

ようなことを、大規模償却資産の都市協議会において絶えず主張しておるところでございます。

また、たばこ、あるいはその他、電気ガス税等におきましてはこれはよくなれば、それだけ皆、総体的に潤うことでございまして、四日市だけの問題ではないと思いますので、やはり四日市は四日市の将来の姿を考え、私は対処していくべきではないかと考えておる次第でございます。

○議長（中島忠勝君） 前川君。

〔前川辰男君登壇〕

○前川辰男君 ちよっといまの答弁ではすね、何か問題を少しそらされたような気がするので、念のためにもう一つ申し上げておきたいと思うんですが、いわゆる市長の答弁では、現行制度そのものは是とした考え方の中ですべて律していくというふうに、私は解釈したわけですが、そうじゃなくして、世の中というのはやはり流動しているわけなんです。だから、また法律というものはこれは人間がつくるわけです。したがって、つくった時期において、かりにそれが非常にいいものであったとしても、世の中の変遷に従って、やはり法律というものはたして適当であるかどうかということ、これはわからないわけです。そういう点についてですね、やはりいまの四日市の事態の中で、こうであるべきだという一つの結論が出た場合には、勇敢にやっぱり法律を改正するという方向にたって進めるべきだということを私は申し上げているのであって、いまの制度の中ではどうしても工場誘致をしていかなきゃならないんだと、これは非常に大きな問題なんです。それだけであるというふうには私も解釈しませんが、しかし、どうもやはり市長の考え方の中には、それが非常に大きくあると思うんです。

そうすると、現状の中で工場誘致をし、財源をふやし、それから市政を繁栄させていくということは、現に四日市はもう実験済みであるはずで。で、それに従っていい面も出ておりますけれども、非常に不調整の面がたくさん出

ておると。こういう不調整の面を改善をせずにそのままを進めるとすれば、さらに悪循環を重ねるだけであって何もの得られないと、ますます苦しくなると。財政的にも苦しくなるし、また、生活の面においても苦しくなるし、その他いろいろと大きく、まあ影響を及ぼしていくはずで。そこを申し上げておるのであって、まあ、あと答弁があれば、こうですけれども、なければやむを得ませんけれども、そういう面で四日市は、やはり勇敢に全国の大平洋ベルト地帯におけるところの先進工業都市として、一つの大きな実験をやったわけです。この実験の結果ですね、実験という市民はたいへん迷惑をこうむりますが、これ現実の問題です。その中から出てきておる問題を取り上げて、勇敢に六団体の先頭に立って税制の改正をするというそういう方向を出していただきたい、そういうふうに要望しておきます。

○議長（中島忠勝君） 訓堀君。

〔訓堀也男君登壇〕

○訓堀也男君 市長が、ある席上で言ったことなのですが、その点、少しただしておきたいと思います。

行政水準の向上ということで財政力を強化するという、これはまあ一応そうですが、ある席上で言ったということは、市の発展のために、あるいは企業が発展するときには、住民は少々の犠牲になってもやむを得ない、こういうことを言うておりますが、確かに、いままですぐ飲めた水が飲めなくなるとか、あるいは静かな町がちょっと音が大きくなってくるとか、そういった意味の犠牲ならば現状としてはやむを得ないにしても、人体に影響を及ぼしている現状で、少々のこと人体に影響を及ぼしてもやむを得ないというふうな、そういう犠牲を言うておるのかどうか。公害患者の前でそのことを言ったということで、非常に憤慨をしておりますが、私も、人体に影響を及ぼすようなそういうことも含めて、少々の犠牲はやむを得ないというふうに市長は考えていないと思いますけれども、その辺をお伺

いをしたい。これが、霞ヶ浦の埋め立ての問題その他にも関係するわけですから、はっきり確めておきたいと思ひます。

次に、水沢病院の問題でございますけれども、本日も新聞をにぎあわしておりますが、確かに、あそこにはその病院の施設と住民との間に紛争があり、感情的な問題があるということは承知しております。それを今日までほっておいたために、ああいうふうなことになるてきたのではないかと思います。これに対して何らかの解決のあせんなり、解決するための考えを用意しておられるかどうかお伺いしたい。

安定所問題でも、失業保険の問題でもそうですけれども、県と市との関係で、病院は県の行政の区分の中に入るのでも市はうっかり口出せないということも、また、事実だと思います。しかし、水沢地区の市民が、県の許可認可事項にある水沢病院の問題との間に紛争が起きたときに、四日市の市長としては、やり方はいろいろあると思います。

県を無視するという意味ではありませんが、やり方はいろいろあると思いますが、早く解決の手を打つ必要があると思ひますが、それに対してどう考えておられるかということですが、

その二点、市長にお伺いします。

○議長（中島忠勝君） 市長。

〔市長（九鬼喜久男君）登壇〕

○市長（九鬼喜久男君） 公害の問題でございますが、私が公害、ある程度の公害はやむを得ないと公害患者の前で言ったというお話でございますが、私は、それをどこで申し上げたか覚えはございませんが、ただ、私は、かつての日本の産業が低賃金の上に成り立ち、そうして、また、今日の日本の経済の発展は公害の上に成り立っている、ということをお願いした、そういうことを言っておる学者があるということは申し上げたこともあります。そうして、そ

の（「政治家は、言わぬのか」と呼ぶ者あり）公害というものがあるときには、人体にそう大して影響のないものならば、ある程度においてはやるべきではないか、ということはお聞き上げしております。みそ屋の前を通ればみそのおいがしますし、酢屋さんの前を通れば酢のおいがするように、ある程度の人体に影響のないようなおいのすることはやむを得ない場合もある、ということはお聞き上げしております。したがって、私は、そういうおいのせぬことを、もとより一番大事なことであらうと思ひますが、しかしながら、ときにはパイプから漏れるようなこともあらうかと思ひます。まあ、そういうような程度ならやむを得ないと申し上げておるのでございまして、私は、公害はやむを得ないと申し上げたことはありません。

水沢病院につきましては、地元がたいへん県並びに病院に対して不信の念を深めておりますので、この上とも私は県とも折衝いたし、先日も県当局に対しても強い要望をいたしまして、また、県の衛生部長も私のほうにまいりました。この円満に解決いたしますように今後とも努力をいたすつもりでございます。（「訓綱也男君「了解」と呼ぶ）

○議長（中島忠勝君） 暫時、休憩いたします。

午後零時五分休憩

○議長（中島忠勝君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

岩田君。

〔岩田久雄君登壇〕

午後一時八分再開

○岩田久雄君 公友会を代表いたしました。御質問申し上げます。

第一に、母子寮について伺います。

日本が近代国家になるためには、もっとも社会開発の面に努力しなければ近代国家としての資格に欠けるのではないかと思います。国の施策が十分でないためか、社会福祉事業がいろいろの面で行き詰まり、これがために泣いている人が多いのではないかと推定されます。

この一つの例は、この正月、四日市の未亡人会が主催となって、市民ホールで寄席の大会が開かれると聞いております。この目的は、御承知の前田町にあります母子寮が非常にいたんでいるので、この改築のための基本金づくりだと聞いております。これは、ここで申し上げるまでもなく、社会福祉法人厚生会という会によって運営されているので、市とは直接関係がないのでありますが、この母子寮に入っている人は皆、四日市の市民であり、また、この五十世帯の中の半数の二十五世帯は生活保護家庭であると聞いております。またこの会の理事会を構成しているメンバーは、四日市の各層を代表した人たちばかりで、名前こそ厚生会ではありますが、市に準ずるものであろうと解してもよいのではないのでしょうか。

この母子寮は、私が申し上げるまでもなく非常に破損いたしておりますし、当然、改築しなければならぬ状態であるため、こうして未亡人会がそのための協力を始められたのであります。四日市の市民のための施設を、このまま市としてながめていることはできないと思われまので、これに対して市は、これを考え、どう対処していかれるのかお伺いいたします。なお、また、この施設に協力できないというのであれば、各市で建設いたしております母子住宅あるいは母子アパートを市営住宅として建設し、これら不幸な人たちのため住宅を考えていただくことも一つの方法であらうと思われまので、これが建設には、国庫の補助金も出ていけるとのことですが、これに対する考え方も

お伺いいたします。

次、市有財産の維持管理について。非常に膨大な市有財産がどう管理されているかということは大切な問題でありますので、各方面にわたってこの財産管理の内容を御説明願いたいのですが、あまりバツトした問題になりますので、次の項目について御説明願いたい。

第一に、道路の維持管理。

第二に、学校関係の建物の維持管理。

第三に、保育園関係の建物の維持管理についてお願いいたします。

次、都市計画について、都市計画中の街路網について二点質問いたします。

第一に、りっぱにできている幹線街路網の建設を実行に移す場合、既設住宅、並びに農地の転用に関し、至るところで支障を生じている事実であります。これは、計画当時の不用意並びに指導性の不足、PRの不徹底からくるものと考えられますが、今後は、部内の調整をはかり、連絡を十分に計画の妥当性、普遍性を確保していただけないものでしょうか。また、計画線上に建築申請のあった場合、これを指導するとか規制するとか、あるいは予定線のくい打ちを行なうとか、将来の工事に支障のないようにできないものか、当局の心がまえをお伺いいたします。

第二点目、幹線と幹線を横につなぐ連絡街路網の整備であります。

集団住宅地の設定には、周到なる区画整理が行なわれ、街路網も整然としておりますが、市街地周辺地帯では肝心な区画街路網がどうなるのか一切不明であり、かつ農道と交錯すると混乱をきわめておりますので、住宅建設または商店経営者の便宜と、隣接地住民に安心を与えるためにも、適当な諸街路網計画をあらかじめ明示していただき、無用な摩擦と苦情とを防止したらと存じますが、当局の考えを承りたい。

第三点、四日市都市計画街路用途地域図によりますと、昭和三十七年、霞ヶ浦地区は工業地域となっておりますが、四日市市計画構想図には同地区は緑地となっております、用途地域図と構想図が食い違っております。この点について伺いいたします。

次、農道問題について。農業生産工場のためにする農地改良上、回収すべき農道を都市計画中に包含するの可否については、議論の余地がありますけれども、準農村地帯と異なり耕地の転用はなほだしく、市街地周辺農村は、すでに都市計画区域中に編入されておりますので、これを耕地課や農業委員会の手にのみゆだねず、この地帯の農道は将来どうかされるべき住宅、もしくは諸工場の建設によって早晚、市街地街路として市道に編入さるべき性格を多分にもっておりますので、現在のごとく、用地の寄付、工事費の半額地元負担というような苛酷な受益者負担を緩和して他日に備うる必要、大なるものがありと存じますが、よい方法がないものか伺いいたします。

以上、御質問をいたしました、関係者の御答弁をお願いいたします。

○議長（中島忠勝君） 厚生部長。

〔厚生部長（山本軍一君）登壇〕

○厚生部長（山本軍一君） 岩田議員の第一問につきまして、市長にかわりましてお答えいたします。

現在、母子寮に入っている世帯は四十四世帯でございます。御指摘のように、そのうちで生活保護世帯が二十五世帯でございます。この定員は八十世帯でございますが、だんだん減っていく現状でございます。これは、三重県の同じ施設の充足率と同じでございます。

現在、私たちとしましては、母子世帯から外へ向いて出たい人のために、特定入居につきまして、それから特に、生活保護者の特定入居につきまして、市営住宅の低家賃のところがあきましたときにはそれをお願いして、だんだん入っていったらもらってある現状でございます、少しずつ、まあ少なくなっております、こういうことでございます。

しかしながら、御指摘いただきましたように、非常にここは荒れておりまして、なかなか住むこと自体がどうかと思われたような環境でございますし、また、入りたい人があそこへ来て見てみて帰っていくということでございますので、厚生会自体でこの改築案を立てましたときに、前例もありますので、私たちとしましては相談ののっていきたいと思っております。

○議長（中島忠勝君） 庄司助役。

〔助役（庄司良一君）登壇〕

○助役（庄司良一君） 第二点、御質問の市有財産の維持管理について、たいへん広範な御質問でございますが、このうちの道路関係をどう管理しているかと、まあ、こういう点について、まずお答え申し上げたいと思います。

現在、市が維持管理しております道路は、御承知のようにたいへんばく大なものでございまして、必ずしも管理が行きわたっているとは思っておりません。かねて、よくおしかりをこうむっておる次第でございます。これではならないと、こういうつもりでいつもおることはもちろんでございます。御承知のように市におきましては、道路維持、補修のために特別の道路パトロールを行なっております、これが単に修理を要すべき箇所あるいは大補修をしなればならない場所等の発見のみならず、これを不正に利用している者の発見にもつとめておりまして、その都度、それに対する対策を講じているわけでございます。なお、私ども不十分な点が多々あることを非常に残念に思っております。次第でございます、今後とも一そうこの点については努力いたしたいと思っております。

それから第三点の都市計画についてでございますが、都市計画の幹線街路が一応ひかれていますが、その計画を実施

するにあたりまして、必ずしも当を得ない場合があるようである。そのために無用なる摩擦を引き起こしているというようなことのないようにせよと、こういう御質問かと思うのでございますが、この点につきまして、まことに弁明がましくなる場合もあるんでございますが、御了承いただきたいと思ひます。

都市計画の用途地域及び街路の決定をいたしました途上に、これが引かれていることを御承知のとおりでございますが、都市計画の用途地域なり街路指定等のことは、将来十年さらに二十年、こういった将来をも予想して作製されているわけでございます。それが現実に実施に移される場合、実施設計を決定いたします場合、局部的にかつて引かれました計画路線をもってしては不適当であるというような場合も起こってくることもまれにはあるわけでございます。そういった際、十分、地元とも連絡申し上げて、新たな実施計画につきまして円滑に事業を行なっているわけでございます。

なお、PRの不徹底等のそしりを受ける場合もあるわけでございまして、その点、非常に私も申しわけなく思っておりますが、将来ともそうした点につきまして十分、横の連絡を密にし、都市計画の關係個所の連絡の不調整あるいはそういったことから住民の皆さまに御迷惑がからないように、今後とも十分、注意をさしていきたいと思ひます。この点、御了承いただきたいと思ひます。

次に、霞ヶ浦地区が都市計画の用途地域の指定の図を見れば工業地域である、一方、将来の四日市市の都市構想の図によれば緑地になっていると。こういう矛盾がどうしてあるのかと、こういう御質問かと思ひます。

この点につきまして、私も少しく軽はずみに将来の構想図を発表したために、かえって皆さまに混乱をおさしているのではないかと、こう思ひます。現在、霞ヶ浦地区は重工業地区に指定されているわけでございますが、これにつきましては、あの三十七年用途地域決定の際に、皆さま御承知のようにその前後したときには、八

幡製鉄が霞ヶ浦地先に立地すると、こういう前提が強く取り入れられてまして、あの地域、名四国道以東の線を工業地域として指定いたしました。これについて皆さんの御協賛を得たわけでございます。その後、事情は一変いたしました。そこで、この地域に対しましては、何らかの別個の考え方がされなきゃならないような時期にもなりました。そこで、その後われわれ及び私どもが委託して調査いたしました学会の方々の考え方もまとまりまして、名四国道以東については緑地帯による構想のほうが今日としてはより正しいんではないか、こういうことにわれわれの考え方が一応なっておるわけでございます。それを皆さまに少しく早くお示しし過ぎたと、こういうことから混乱がしているのであらうと思ひます。いま申し上げましたように、現在きております用途地域といたしましては、霞ヶ浦地区は確かに工業地区でございます。

ところで、これはどうするかという御質問かと思ひますのでございますが、いま申し上げましたように、最近の機会のうちこれについて根本的な考えをわれわれとして固めさせていただきました。皆さまに御提示申し上げ、御相談申し上げたいと思ひますのは、今日としては緑地帯としてあの地域を変更するほうが正しいんではないかと、こういうふうに考えをまとめつつある状況でございます。用途地域と構想図との差が、そういった点から混乱を巻き起こしているわけでございまして、今後とも構想図を発表するときには、もっと十分に御説明をつけ加えて発表する必要があると思ひます。そのように御理解いただきたいと思います。

次に、農道についてでございますが、都市近郊の農村地帯、特に、ただいま申し上げております都市計画上の用途地域にも指定されているような農村地帯は、やがて都市化する必然性にあると、そういう意味からいって、当然、市道に編入すべきではないか。さらに現在、耕地課の所管する農道整備という考え方からいえば、かりに市単独事業でいきますれば五〇％の地元負担がつくと、これは一般市道に比べて不公平ではないかと、こういう御質問かと思ひます。

でございますが、この点につきましては、再々、本議会でも御質問があったわけでございまして、九月議会でも市長が御答弁申し上げましたとおり、交転の非常に激しい当市といたしまして、まことに農道としてこれを取り扱うのには、あまりにも実情と離れているというような事実がございましたならば、その場合、場合に応じまして一つ一つを検討させていただくと、一般的には、その道路の利用の公共性、頻度等から考えまして、いま直ちに全部を市道に編入する、あるいは市道に認定することとはどうい困難であろうと思うわけでございます。その特例によりまして、その場合を十分検討させていただきまして、市道に編入すべきものは編入させていただいて、市道としての処理をさせていただきたいと思ひます。そのように御了承いただきたいと思います。

○議長（中島忠勝君） 教育長。

〔教育長（栗林武男君）登壇〕

○教育長（栗林武男君） 市有財産の管理の中で、学校関係の維持管理についての御質問にお答えをしたいと思います。

学校の管理は、これは校長の一つの職務になっておりますので、その補助機関である教員あるいは用務員、そういう者が日常の管理においては公共の施設を愛護するという、そういう精神において管理をしておるわけであります。それともう一つは、破損個所の修理、修繕という問題があると思ひます。この点につきましては、委員会におきまして建築の關係の技師を派遣しまして、年度の当初に派遣しまして、年度の補修計画を立てて実施をいたしている次第でございます。四十年におきましては、外装、主として屋根とか、あるいは腰板とか、そういう建物の維持に必要な面につきまして修理をする。本年度におきましては、主としてさくを設けるとか、外來の侵入を防ぐためのさくを設けるとか、あるいは排水とか、あるいは電気配線とか、そういうようなものについて主力を置いて補修をいたしてまいっております。

大体、予算的に申しますというと小、中、幼稚園を合わせて千八百万程度になるかと、かように考えております。

○議長（中島忠勝君） 厚生部長。

〔厚生部長（山本平一君）登壇〕

○厚生部長（山本平一君） 岩田議員の第二問の市有財産の維持管理のうちで、保育園関係についてお答えいたします。

保育園におきましても、小修理につきましては危険の及ぶ、小さい子供でするので危険のないようなふうにいたしたいということで、それをまず第一に取り上げて小さい修理はやっておりますけれども、何ぶん古い施設もございまして、これらにつきましてはあらためて改築の線を打ち出すために、各園とも老朽度、耐久度、そういう調査をいたしておりますので、これにつきましては来年度から改築の線を打ち出していききたい、こう思っております。

○議長（中島忠勝君） 早川君。

〔早川正夫君登壇〕

○早川正夫君 公友会の岩田議員の質問に関連いたしまして、特に、霞ヶ浦地区に関するこの都市計画の問題について、それと重要な関連性を持つ公害問題について再度質問いたしたいと思ひます。

先ほどお聞きしますところによりますと、庄司助役は、現在のこの霞ヶ浦地区に対しての都市計画街路用途地域図それから四日市市計画構想図の矛盾点を釈明いたされました。その中で、将来近いうちに根本的な考え方を打ち立てると、そうして、しかもその地帯をもって緑地帯にしたいんだと、そのほうがむしろいいんじゃないかということをおっしゃいましたが、私は、この緑地帯計画について再度、市当局がもう一度考え直す必要がありはしないかと、

かように思うわけでございます。といいますのは、この四日市市の都市計画街路用途地域図において示されておりますように、昭和三十七年一月二十四日に、この建設大臣の告示でもって工業地域指定が行なわれ、特に、重工業地帯としての専用地域の指定が行なわれております。この際、もちろんこの都市計画審議会にはかられて決議せられたものと思いますが、十分に地区の皆さま方におはかりした上で工業地帯の、この専用地域指定をなさったのかどうかこれをまずひとつお聞きしたいと思います。

そうして、現在こうした工業専用地域指定が、どうも矛盾を起こしてきたと。したがって将来のことを考えれば、緑地帯に計画し直したほうがいいんじゃないかなろうかということについて、いささか疑念がございます。ということは緑地帯の計画と、これは住宅地域指定との問題はおのずから別でございました。緑地帯にするということは、当然、将来この埋め立て地に関する工場誘致の問題がひっかかってきはしないかと危惧する次第でございます。そうした場合に、現在、霞ヶ浦にお住まいになっておられる五十何戸の皆さんが、やがて工場誘致のためにほかの地帯へ移動しなきゃならぬ、移転しなければならぬという意味を、この緑地帯計画は含んでおるんじゃないかと。この点について私は、はなはだ関心をもつものでございます。それについての詳細な説明を求めたい。

特に、さらにこうした過去の経緯によって都市計画街路用途地域のこの工業指定地域が、専用地域指定が矛盾を来たしたということであれば、現在、霞ヶ浦地区の皆さんがお求めになっておる住宅地域への指定に、再度やり直す必要がありはしないかと。先ほど来、市長からの答弁を聞いておりますと、とにかく市の大きな発展というものは、非常に大きな構想でもって訴えられて答弁せられておられますが、どうもその点に何か割り切れないものがある。市の将来も、もちろん発展というものは大事な問題ではございますが、それは中央政治はさりながら、地方政治において特に、この住宅地域あるいはその居住民の将来の福祉というものを勘案してこそ、初めて細心にわたる地方政治のき

めが出てくるんじゃないかと思えます。そういう意味で、現在のこの霞ヶ浦地区に対する緑地帯計画を、さらに一歩進めて住宅地域指定とするわけにいかないか、これをお尋ねしたいと思います。

そういう意味におきまして、現在、霞ヶ浦の地域の皆さん方が、実はたいへんな苦しみにあっておられる。といいますのは、こうした工業地域指定というような結果によって、土地へ入って来られる方々がほとんどないということでございます。そうして、さらに家を建てようと思ってもこれが建たない。したがって、地価もだんだんと下落していくと、その嘆きは非常に大きいように私自身、聞いております。で、そういった罪滅ぼしの上からも再度、住宅地域指定にすることはできないものか。これは、地域の皆さん方の切実な声でもあろうかと私は聞いております。ところが、それに先立ちまして先般、市長が霞ヶ浦地区のほうへ皆さんにお話に来られた際に、私はこの工場誘致は何としてもやるんだ、というようなことを発言なさったのかどうか。聞くところによりますと、市長は、非常に頑固な態度でそれを訴えられたというのを聞いておりますが、この緑地帯計画あるいは住宅地域指定との問題にからみ合わせまして、地区民のほんとうに希望する、こうした公害の町、自分たちの住む土地というものを再度つくり上げる心があるかないものかどうか、それを市長に直接お尋ねしたいと思えます。

以上について、適切な御回答を賜りたい。

○議長（中島忠勝君） 庄司助役。

〔助役（庄司良一君）登壇〕

○助役（庄司良一君） 市長に御質問の個所もございますが、まず、私の先ほどの答弁に対する再質問の点だけお答えさせていただきます。

三十七年に行なわれました用途地域指定につきまして、事情変更のもとに今日としては霞ヶ浦地帯は工場地域とし

ては不適当であると、こういうお答え申し上げ、これは私どもだけできめられるわけではございません。議会の皆さまにも御提案、御説明、御協賛をいただき、さらに都市計画決定という大きな手法を行なわなきゃなりません。建設大臣の諮問による都市計画審議会の議も経まして、変えるなら変えるということになるわけでございます。

霞ヶ浦地帯が工場地帯として、地元の皆さまの了承も得ずしてやったというようなお話でございますが、おおよそ都市計画を行なう場合に、全市をながめまして最も理論的、实际的、かつ合理的なその場において、そのときにおける最も最善と思われる案を策定いたしまして、これを議会に提案申し上げ、その御協賛を得まして、さらに都市計画審議会の議を経まして、大臣の認可によって決定されるわけでございます。一応、手続的には一戸一戸お回りして御了承を得るということも実際問題として不可能でございますので、そういった手続を経て決定されるものでございますので、この点は御了承いただきたいと思えます。

次に、この地帯を緑地帯にしたいというような考えのようであるが、住宅地帯にすることはできないか、する考えはないか、こういう御質問のようでございます。

御承知のとおり、すでにあの地先につきましては、埋め立てについて皆さんは御了承されました。これについて事業団を県・市共同で設立することについても御了承をいただいている地帯でございます。そういった意味から、あの地帯は将来とも最も住宅にふさわしい地帯だとは私ども考えられないわけでございます。最も望ましいのは、緑地帯として将来あるべきが当然の姿ではないかと、こう思うわけでございます。

ところで、緑地帯にすれば現在の方々を追いついて他に移転させるんじゃないかと、こういうような御懸念があるようでございますが、決してそういう考え方を前提としているわけではございません。緑地帯といえども、現在の方々がお住みになるについては何ら差しつかえないわけでございます。さらに、現在あいている土地があれば、それに

建築するということも私どものほうで承認、許可をすればいいわけであります。ただ、その際、たとえば一番街のよう防火地域に指定されてるようなところ、百坪の土地があったら、その百坪の面積一ぱいに住居を建てる、建築をするというようなことが行為的に規制されるわけでございます。大体、私ども考えますのに、百坪のところへ五十坪あるいは六十坪の家を建てるということには何ら差しつかえないはずでございます。その点、また、緑地帯にしたからといって、いまの方々が住むのに困ると、あるいは新たに建築物を建てるのにも困る、こういうお考えは、これはもう非常に杞憂でございましてそういうことはございせんことを御承知いただきたいと、こういうふうに思うわけでございます。

○議長（中島忠勝君） 市長。

〔市長（九鬼喜久男君）登壇〕

○市長（九鬼喜久男君） 霞ヶ浦埋め立て地と工場誘致の件でございますが、午前中、喜多野議員の御質問に詳細にわたりましてお答え申し上げましたので、再度申し上げる必要はなからうかとは思いますが、私は、目先きに申し上げておるのではなしに、市の将来の姿はこうあるのが四日市市の将来のためにも、また、すべての住民のためにもなるような計画でやろうと申し上げておるんでございまして、公害のない工場を誘致しようという計画には変わりがございせん次第です。

住宅等につきましては、浜寺等の公園あるいは浜寺等の住宅地をごらんになっていただきましたらおわかりのように、運河を隔てた対岸に工場があって、こちらに緑地帯と住宅があると御想像していただきましたらけっこうかと存じます。

○議長（中島忠勝君） 早川君。

〔早川正夫君登壇〕

○早川正夫君 先ほどの助役と市長の答弁によって、決して霞ヶ浦地区の住民を追い出す意図はもってないということとは、これで明確になりました。私も安心でございます。

ところが、安心であると同時に、もう一つ不安が出てまいりました。というのは最初、喜多野議員の質問に答えて市長が、とにかく公害のない企業を誘致しよう、という意図でおります、という答弁の中に、どうも市長のこの政治に対する姿勢がにじみ出てくるような気がいたします。私は、今回初めてこういうことを申し上げます。といいますのは、市長が言っておるその内容は、いわゆる昔からいいますように、政治は術にあらざる、心であり、と、そういうようなものが政治じゃなかろうかということをおっしゃいます。私は政治の容体は、そこにあると思います。ところが、市長が答えておられるその答弁は、術に終始して心を訴えておられないと、私が、それははなはだ残念に思う点でございます。

先ほど、なぜそういうことを言ったかといいますと、公害のない企業誘致ということばの中には、それじゃ公害がないというのは、もう石油工業はもってこないんだという意味なのか、もってくる石油工業の中には、多少とも公害は出るがこんなものは公害と認められぬ、だから、それは公害のない企業として考えてもいいんだという意味合いの石油産業誘致ならば、私は、市長の人格を疑いたい。なぜなれば、こうした神聖な議場において、公害のない企業を誘致いたしますという以上は、少なくとも現在の科学技術の水準でもって解決のできない問題が多々ある。先般も新聞紙上におきまして大協石油でございましたが、直接脱流装置についてはきわめて自信がないので、これを間接脱流装置に切りかえるというようなことまで新聞紙上で発表しております。なかなかもって、この公害発生の問題は解決できない、それをいともたやすく公害のない企業誘致をいたしますといいながら、その背後に伏在する意味を私、考

えますと、はなはだおそろしいものを考えざるを得ない。かくして、市長は、もっと術を勞せず、心でもってわれわれ代表議員に訴えていただきたい。ほんとうに石油産業は誘致しないんだと、石油産業は誘致しないから安心してくれと、ただし、市将来の発展の問題もあるがゆえに、工業立地ということから四日市へ来させなければならぬ。それにかわるしかるべきこの工場は誘致したいと思ひます、こういうような発言がなぜできないか、私は、再度、市長にお尋ねいたします。

○議長（中島忠勝君） 市長。

〔市長（九鬼喜久男君）登壇〕

○市長（九鬼喜久男君） 私は、特におぼれて心がないというお話しでございますが、（笑声）私自身は、そうは思っておられない次第でございます。

また、石油化学を誘致するという点につきまして、六月の市議会等につきましても十分、御説明申し上げておりますので、詳細にわたることは御速慮さしていただきますが、石油化学には、公害はないと申し上げておることはもうたびたびでございます。それは三菱油化と日本合成ゴム等をごろんになつていただきましたもおわかりのとおりでございます。（「どないなつてんねん」と呼ぶ者あり。（笑声））

○議長（中島忠勝君） 早川君。

〔早川正夫君登壇〕

○早川正夫君 先ほど市長も非常に自信のある答弁をしておられます。

かりに、石油化学を誘致したとしても、絶対、公害は出ない、こう言明しておられますので、もう今日の質問についてはこれ以上追及する必要はないと思ひますが、もし、それが出たときの市長のお覚悟は、よほどのものでない

たいへんなことになる、かように考えます。

で、何はしても、こういったことを質問し上げるのは、やはり地域に住まれる霞ヶ浦なり羽津地区、あるいは富田、富洲原の人たちが非常にこの公害問題について神経質になっておられる、あるいは実際にそうした公害問題が出たときに、一体、おれたちはどうしたらいいんだろうと、これはあちらこちらでその声が形になって出てまいっております。そうした心配を私、含めて質問いたしましたので、この市長の自信ある答弁によって、私も救われるような気がいたしますが、将来の長い目でもってこの経過を見たいと、かように思いまして私の質問を終わらしていただきます。

○議長（中島忠勝君） 伊藤君。

〔伊藤信一君登壇〕

○伊藤信一君 たいへんかどうかというのでございますけれども、早川議員に関連してもう一度申さしていただきます。

それは、この前の全員協議会のときに、私は、質問をいたしたいと思ひながら声が小さかったので質問できなかったこととでございますけれども、この問題は、大協との関係が非常に深いと考えております。この前の市長の御説明の中に、大協とたびたび話し合いをしている、しかしそれは地価の問題でないと、こういうような説明がございました。では、地価の問題でなければという問題を話し合っておるか、こういうことに疑問を抱いております。というのは、先ほど早川議員が申されましたように、霞ヶ浦の埋め立てという問題は、当然これは公害に係るある石油工場は誘致だというふうになれしも断定いたします。市長は、これに対して絶対に公害はないと、こう言われますけれども、私自身もこれは了解できません。もちろん、早川議員もこの問題は了解いたしております。だからこの問題がたびたび出てくるのであります。きょうの説明の中でも、公害のない工場を誘致したいということを二回目に言われ

た。初めには、公害のない工場も誘致したいと。初めのときには、公害のない工場も誘致したいと、あとのときに、公害のない工場を誘致したいと、こういうことばの綾が非常に問題だと思ふんです。

おそらく第三コンビナートをつくらうとする意思の、市長の意思がよくわかるわけですが、しかし、この市長の四日市に対する未来像というものに対して、私は疑問をもっております。石油工場でなければ四日市の工業は発展しないかという問題でございます。これは、かつて十年ばかり前に保々それから大安町、それから菰野、あの地帯をつないだ三十万坪ばかりのところへ、豊田の自動車工場を誘致する話がありました。四日市の発展というのは、工場、石油工場でなくていろいろの産業がまじって初めてこれは未来像が描けるんじゃないかと思ひます。もし、石油産業が、言われているように三十年の寿命であったとしたならば、三十年たった場合に四日市市はどうなるかと。これがたして市長の言う未来像であるかどうか、こういった問題からやはり石油工場一本やりのやり方というものについては、非常に私は疑問があると思ひます。

この点について、一応、市長の御意見を伺いたいと思ひます。

くだいので、この問題はこの辺で終わっておきます。

それから、岩田議員の質問に関連いたしました二、三ただしてみたいと思ひます。市有財産の管理と申ししても、非常にこれはよくとした問題でございます。これを質問いたしましてもこれにどう答弁していいか非常に困られると思ひますので、具体的に私は質問をいたしたいと思ひます。

最初に申し上げたいことは、市有財産がもし私有財産であつたら、四日市の財産をこのまま見のがせるか、という問題です。あとの、し、は私です。私、の財産であつたならば、私有財産をこういったような維持管理の方法でいいかという問題。私、自分の立場で市の財産をよく考えてほしいということが主眼であります。

庄司助役の、道路パトロールの問題も、あるいは破損個所の発見も、あるいは不正選挙の問題もこれはよくわかっております。これも抽象的な問題でございますので、具体的に申し上げてまいりますが、こういったような市のばくとした財産に対して、ともすれば等閑に伏されているかの感じがするが、あるいは人手の足りないためか、あるいは予算のないためか、つい放任にされているのではないかと、そういうような、そういう感じをもちます。それでありますから重ねて御質問を申し上げるわけですが、大きいものは庁舎、小さいものはくい一本、これでも一つは市の財産でございますので、これの保管維持につきましては十二分に、まあ注意をしていただきたいと思いますが、その私が、こういったような市有財産の質問をいたしますその前提の気持ちを申し上げたいと思いますが、先ほども岩野助役から説明がございましたように、四日市の市財政は一六〇％である。同じ同格の都市と比べて非常に優位にあるというふうに四日市の財政は非常に豊かであるということをお話しましたが、他の都市が非常に財政が伸び悩んでいるときにおきまして、岩野助役の説明のありましたように、きわめて四日市の財政は順調に進んでおるように思いますが、ところが、この非常に財政の豊かに進んでおりながら、私たちの住んでいるまわりをながめて見た場合に、どれほどその財政が豊かであっても私の町が、私たちの環境がそれほどよくなっているかどうか。こういったことに非常に疑問を抱くわけでございます。

その疑問が、きょうの関連質問となったんでございますが、道路の問題あるいは下水の問題、諸施設の問題あるいは文化的な新しい施設とか、いろいろながめて見た場合に、ああ、四日市はよい町だ、とどうしても心から思えない点があるのでございます。私は、こうしたことについて平素から疑問を抱いておりますので、こうした点からも関連質問をしておるわけでございます。その前に、こんなささいなことを申し上げることは、まあ市会議員の言うことではないと三輪部長は言われましたけれども、そうしたことをわれわれが言わなければ、だれが言うかということも考え

られますので、これは一つの例として申し上げます。

私の町の小川の石垣が四つ五つこわれておりました、それで、まあ人夫で使えば三十分ぐらいで済む問題でございしますが、出張所へ連絡して、早く直してくれと、こう言っておきました。それから二、三カ月経ってそこを通過してみるとまだそのまま、むしろその石垣がまた四つ、五つ落ちてこけております。それでまた、すぐ土木のほうへ連絡して、すぐ直しておけ、といいましたが直っていない。また二カ月ばかり経ってまだ修理してないので、電話をしてもっと傷を大きくしなければ修理しないのなら、おれが行ってくわでならして、そして大きくしたるか、と、こういうことを言っただけありますが、まあ、それでやっと最近、修理されたのでございますが、一つのこれは事実であります、四日市内のあらゆる道路につきまして、だれがこういった小さい問題を監視しているか、先ほどの説明で道路パトロールを云々ということがございましたが、道路パトロールで、はたしてこういった小さい問題でも監視しているかどうか。市会議員が監視人か、われわれが言わなければだれが言うか。市会議員は、これは管理人でございませんでこういう管理をどういう形でいくか、（「くわでこわしたのは、だれだ」と呼ぶ者あり）主要幹線で一ぱいでございますが、いま、この管理体制というものを検討する必要があるんじゃないかと。傷は非常に小さいのでありますけれども、小さいうちに修理することが非常に大事でございしますので、そういったところに管理の体制、維持の体制、そういったものが十分にできてない。

それから、たしか舗装工事の始まるまでは、土木の係が北部にも四、五人おって、そしてこれを修理しておったようでございますが、そういった場合にそういった人が、すぐにそういったものを直してくれますけれども、今日ではそういったことはやってくれません。ブルトーザーだけでかいて、それで削り取って、そして道はよくなるわけでございますいせんので、一度、雨が降ったら、もう流れてしまっただけでそのままになってしまふ。そうすると、またかえていく

それでは道を維持し、管理していくということはいえないのでございますから、十分この点についても管理体制を考
えていただきたい。もし、そういう道路でもございまして、砂利をもらって砂利を流して、そしてそれで修理い
たしておりますけれども、しかし、砂利屋にいたしましてもトラックの上から流しただけで、だれもそれを必要な個
所へあけていくことではありませんので、ますます、まあ道は悪くなってまいります。非常にこまかい具体的
な問題でございませうけれども、こういった点につきましても十分に考えていただかないというと、市民からの批判が
非常に多いのでございます。

なお、また舗装された道路におきましても、かえって舗装したために修理をしないために道が非常に悪くなつた
と、こういう問題がございますので、パトロールも十二分にして、そしてまあ、やっていただきたい。舗装も大事で
ありますけれども、舗装を考えないところの道路の維持管理というものはございませうので、この際、一応この維持
管理につきましては、十二分にひとつ考えていただきまして、道路が少しでもよくなるようにやっていただきたいと
なお、また今日の交通対策の点も考えまして道路の問題も非常に重要でございしますので、この際ひとつ土木部に道路
課といったようなものを新設いたしまして、監視あるいは修理、あらゆる面につきましまして維持管理を考えていく方法
を考えていただきたい。

次に、学校の建物その他の維持管理の問題でございすけれども、昭和四十一年度には幼稚園、小学校、中学校の
ほうから要求された修理費が約八千万円、その中で予算化されたものが一千六百万円、昭和四十二年度には、約九千
万円要求されていると聞いておりますが、どれほど予算化されるかはわかりませんが、学校側の要求はあ
まり大きなサバは跳んでないと思います。むしろ、きわめて良心的に要求されておりますので、かりにこの半分がほ
んとうに必要だといたしましても、なおかつ予算化された額はその二分の一にも満たない状態でございます。これで

校舎の管理や維持を、どうしてやっていけるかと、これは無理な話でございす。

便所の戸がこわれているとか、あるいは教室の入口の戸がガタガタであるとか、あるいはとゆがこわれてぶらぶら
になっておると、かわらは破れて雨が漏る、こういった風景は学校に見られないでしょうか。一方では新築、増築と
このために予算の大半を奪われて、そして便所の戸、一枚も修理できないような状態になって、荒れるにまかせると
非常に表現はきいようでございすけれども、そんな感じのする場合もございす。

最近になって先ほども教育長が説明いたしましたように、ワクもされ、ちょっと締まりもついてまいりましたが、
水沢中学校とか、あるいは大池中学校などはとても校舎といえないような状態でございす。（「質問をせい」と呼
ぶ者あり）新しく建設することをつけこうでございすますが、古いものも修理して一日も早く、一日も長もちのするよ
うに考えていただきたいと思ひます。

それで、来年度は思ひ切つて社会増による教室不足の新設は別といたしまして、新設は中止して市内の全校舎を大
修理する考えがあるかどうか、そうでもしなければ修理はできないんでございす。

なお、民生関係におきましても、先ほど厚生部長からお話がありました、昭和四十一年度の建物の修繕費の要求
額は百四万円である、予算額は三十五万円・器物の要求額十九万円、予算額五万円。工事請負要求額八十一万、予算
額二十九万と、これも教育委員会と同じように要求額の三分の一で、どうして校舎の維持ができるかと、こういった
ことを考えてみまして、校舎あるいはいろいろな建物、こういったものの維持管理には相当の費用を要するようでご
ざいすが、こういった点も市の財産でございすので、十分にひとつ考えて、これの維持管理を考えていただきた
い。

保育園におきましても、父兄会が寄つて、そして各保育園を回つて、そして校地とか環境とか校舎とか、そういっ

た点を点数であらわして、そして民生課のほうへ要望を出しておるということを聞いておりますが、父兄からそういったことを言われなくてもいいように十二分にお考えをいただきたいと思ひます。

非常にこまかい問題であり、しかしこの問題を、しかもうしろ向きの問題でございまして、前向きでなくてむしろうしろ向きの問題でございまずけれども、四日市の大きな財産でございまずので、この維持管理には十二分に注意をしてやっていただきたいと思ひます。（「一般質問やから、ちゃんとせい」と呼ぶ者あり）

○議長（中島忠勝君） 市長。

〔市長（九鬼喜久男君）登壇〕

○市長（九鬼喜久男君）二点の御質問にお答え申し上げます。

中央緑地の件で、地価の話し合いがなかったと、地価の話し合いを除いてというようなお話でございましたが、地価の話し合いを残してという意味でございまして、地価の話し合いをしたということでございまず。地価の話し合いのみをしておたという意味でございまして、ほかのことは何にもございまずです。

それから、将来像を石油化学のみにたよるのは非常に危険ではないか、また石油化学でなくともいいのではないかというお話でございまず。もとより、さようにわれわれも存心していろいろの運動をしておりますが、なかなか自動車工業といい、四日市に来ようという産業はいまのところございまず。加うるに軟弱地盤でございまずので、重い重量のかかるものはまいりません。ただ、これまでございまずしたところの石油化学というのがコンビナートを形成して、そしてこれがまた、すでに約十年近く経過しましたために、すでに技術改良あるいは規模拡大等の段階に達しておりますために、これをスクラップにして、また、新しい形に発現しなければならないという段階にきておると思ひます。ともかく、石油化学というのはコンビナートを形成することによって、総合的にむだのない企業経営をす

ることになっておりますので、どうしてもコンビナートの形式をとるということでございまず。もとより、その他の企業が来たいということがございまずしたら、われわれは積極的にこれを誘致する考えでございまず。

たとえて申しますと、ある車輛会社であるとか、また、合成繊維のような会社は、ぜひとも誘致をいたしたいという考えでおる次第でございまず。

石油がなくなるのではないか、というお話でございまずが、四十一年度の全産業のエネルギーに使われておる石油エネルギー源というものは五五割でございまずが、昭和四十五年度にはこれを七五割にもっていくと、また、なるであろうということが通産省によって策定をされております。また、世界の航空事業を見ましても、ほとんどは石油によって動かされておる。また、国内の自動車を見ましても、トラック輸送、タクシーを問わず、ほとんどのものがガソリンによって動いておるという事実を見ましても、そのような石油がなくなるということは、ことごとく熱エネルギーというものがもうすでになくなり、そしてまた、輸送関係においてもすべて大きな変動は来たすということでございまして、まあ、そこまでわれわれは考えなければならぬかどうかは非常に疑問に思ふ次第でございまず。（「休憩、休憩」と呼ぶ者あり）

○議長（中島忠勝君） 三輪部長。

〔土木部長（三輪喜代司君）登壇〕

○土木部長（三輪喜代司君） ただいまの伊藤議員の道路の維持管理につきまして、先ほど庄司助役から御答弁がありましたんですが、それにわれわれが平素行なっておりますことを補足してお答えさしていただきたいと思ひます。

現在、道路の修理班といたしましては二班ございまして、一班五人づつで補修をいたしております。これは、主としていわゆる防じん舗装しております、こういう舗装道路についての修理でございまず。それから砂利とか、橋

道路その他の緊急修理等につきましては、一応、臨時の人夫を必要に応じて雇い入れて補修をしておるわけでございます。

なお、また最近、特に市道延長が現在、約、市内で千四百キロ程度ございまして、これの維持管理につきましては非常にわれわれも気を配ってはおりますものの、最近の交通事情のようなひんぱん化、その他によりまして破損率も高うございまして、市民の皆さんに御迷惑をおかけしておることは重々、承知はいたしておるのでございますが、なかなかそれが十分にできないのを遺憾に思っておる次第でございます。それと同時に、最近、特にそういうような関係で警察とも連絡いたしました、特に、警察の交通関係からの巡査あるいは駐在の方、その他が絶えず回ってみえますので、そちらからも連絡票をいただいて、それに基づいて修理も行なっておるような次第でございます。

しかしながら、資材、労務費等の値上げ等もございまして、予算もいただいておりますものの例年どおりもっていくには、非常に努力を要するというようなことでございますので、今後は、この辺につきましても十分留意して、できるだけ市民の皆さんへ御迷惑をおかけしないようにもっていきたいと、このように思っておりますから、どうぞよろしく。

○議長（中島忠勝君） 教育長。

〔教育長（栗林武男君）登壇〕

○教育長（栗林武男君） 伊藤議員の御質問にお答えいたします。

明年度において、社会増による新築は推進するがそれ以外の建築については見合わせて、そして市内の教育関係の建物の維持修理というようなものに予算を回してはどうか、というような御質問のように思いますが、一つの、まあ考え方としてそういうこともあり得ると思いますが、建物の中では社会増によって当然建てなければならない面もあり

ります。それから同時にもう一つは、危険校舎というようなものもございまして、危険校舎の場合その点数によっては国の助成がきますので、そういうような依存財源によって新しく建てていくことも一つの方法であろうかと思えます。これは、危険の点数の度合いによるものと考えるわけであります。ただ、御指摘のような小修理の面につきましても、これは使用する面においても十分考えてやれば、ある程度ふせげる面もありますし、同時にまた。先ほどお話をございましたように、早期に修理をすればその損害も軽くて済むというようなそういうこともございまして、使用する側においても十分、管理をすると同時にそういうような小修破については早期にこれを修理しましてそうして、破損が、破損の度が大きくならないようにつとめていきたいと、こういうふうに考えております。

ただ、根本的に社会増以外のものの建物を押さえて、そして修理をしようというようにすることについては、これは一つの有力な御意見ではあります。もうしばらく検討してみなければならぬことであろうというふうに考えております。

○議長（中島忠勝君） 伊藤君。

〔伊藤信一君登壇〕

○伊藤信一君 ちょっとこまかい問題になりましたので、要点がはずれたようでございますので、（「だいぶ、こまかい」と呼ぶ者あり）いまの問題に對しましてもう一度、御質問申し上げます。

市長のコンビナートの考え方はよくわかっております。しかし、石油工場から公害が生じないと市長は言いますけれども、私はそういうふうに感じない。でなくて、おそらく市民の方々もそういうふうと考えておられるから、霞ヶ浦の問題が何べんも何べんもここで問題になってくると思います。これは、むしろ市の側が公害のないということをもう少し具体的にPRする必要があると思います。そうでなければ、この問題は次の議会にもまたこの問題を持ち上

げてまいります。その点ひとつ十分にお考えいただきたいと思ひます。

それから、石油工場の三十年という考え方は、市長と私の考えと違うだけでありまして、具体的には原子力の問題が起こつてまいります。あるいは最近、電気の自動車が出てまいりました。これは経済上の問題もございませうけれども、石油を一応ある見限りをつけたという考え方もございしますので、これは議論の余地じゃございせんのでそれだけ加えておきます。

それから、土木部長のほうに申し上げてた問題は、一般市民は一番大事なことはいい道路で、ごみを毎日取つてもらつて、そして、し尿をたまつたら取つていただく。まあ大体そういうことさえしていただければいいわけでございますが、それだけに道路の問題は非常に大事な問題でございしますので、非常に大事な、その道路の問題が、いま申しましたように舗装だけが道路であつて、舗装してないところは道路でないという考え方、この考え方に問題があると思ひますので、いさ少し、道路が重要であれば重要であるだけに交通問題ともあわせて、道路課の新設というものを考えたかどうかということをおつたわけでございます。

教育長の修理の問題は、これはあまりにも荒れているから、何とかしてもう少し大修理を加えたらどうかと、こういうことを申し上げておるわけでございます。少しずつ直してみても、これはとても及びませんから大修理を加える必要があるということを申し上げたわけでございます。（「休憩」と呼ぶ者あり）

○議長（中島忠勝君） 暫時、休憩いたします。

午後二時二十二分休憩

午後二時三十七分再開

○議長（中島忠勝君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

矢田君。

〔矢田繁郎君登壇〕

○矢田繁郎君 市政クラブを代表いたしましたして、五項目にわたり質問をいたします。

第一に、市財政の将来性と予算の運営について、本市の経済的繁栄と市民の文化活動の向上に伴い、市民の市行政に対する要望はますます高度化してまいりましたことは、最近の請願、陳情の傾向で明らかであります。これが解決の市財政の将来性については社会クラブからも質問に対し、岩野助役から答弁がありましたから重複を避け、違った立場からお尋ね申し上げます。

市財政の中心である市税の伸長率の推移を見ますと、三十八年度は二一％、三十九年度は一八％となつております。四十年度は七％であり、岩野助役の答弁によりますと四十一年度以降は、四十年代とほとんど大きな変化はないようであります。これで今後の本市の財政運営に反省を加え、財政の合理化をはかることが大きなことと思ひますが、これに対して考え方をお尋ねいたします。

なお、本市の行政事務の拡張に伴い、市職員の定数がふえ、一面、給与のベース・アップに伴う人件費が増加されつつあると思ひますが、本年度並びに来年度の人件費はどのように膨張いたしますか、お尋ねいたします。時世の進歩に伴い人件費の増加は当然のことではありますが、また一面、市民の要望いたします高度な生活事務を遂行していく上に、これをどのように調整をはかるかということは、今後の市財政運営上、重要な課題であります。市長は、この重要課題である人件費の増加に伴う人事管理と、市民の福利を促進する行政事務の諸経費の増加との調和を、どのように遂行していこうとしておられるか、お尋ねいたします。

なお、来年度は普通の年度と異なりますから、市長は、来年度の予算編成をどのように考えているか、お尋ね申し上げます。

次に、土木行政について。都市づくりの基本である道路問題が、一向に進展していないように思えます。予算においては相当、組まれておりますが、いまだ発展の先を行く状態に相なるにはほど遠いように思われます。幹線の道路の修理をちょっとでも行なえば、車はたちまち立ち往生となり、延び延びなる行列はひどき果てるかと思われまふ。これが解決は、何といっても幹線道路の整備拡充の早期完成こそ第一と思われまふが、このようなことはいまださら申し上げるまでもなく、十分、御承知のほうだと思います。

まず、一例をあげて参考に供したいと思いますが、塩浜・大治田線の立体交差の工事状況、子酉・八王子線の進歩状況、千才町・小生線の進歩状況、いずれも計画完成時期までまだ日程がありますが、その日程も延期された日程であつて、当初の計画よりは皆おくれれております。中でも、子酉・八王子線の国道以東は近鉄八王子線との関連もあり時期までにはぜひとも完成させなければならぬ問題であります。もちろん内容においては県との問題もありますがこれが完成時期等に責任を持っていますか、お尋ねいたします。なお、このような状態について、各幹線道路の早期完成の御計画があればお知らせ願ひたい。その他、今後、交通緩和のため御計画の方針があれば承りたい。

次に、従来、たびたびお聞かせいただいて、きめのこまかい施策を行ないたい、と言われていますが、そのため公害パトロール、また、道路パトロール等、毎日、各地を回っておられることをお聞きいたしますが、それにしては一向に道路整備ができていないように思われます。アスファルトが破れたり、道路補修工事がなかなかなされません。

また、一般下水等にて排水施設の整理または、わずかの予算にて市民に喜ばれる事業がたくさんありますが、年末年始を控えて道路補修くだされ、整備等これを要する予算が少ないように思いますが、これが対策についてお尋ねい

たします。

次に、教育施設充実と設備格差の是正について、教育十カ年計画も最終段階に入り、本市の教育施設も年々充実されてまいりましたが、静かに全市をながめて見ると都心部と山間部においてかなりの不均衡のあるようなことがあります。校舎は、もちろん完備され、体育館、プールまでも整っているかと思えば、一方、依然としておんぼろ校舎であつて、たびたび陳情の繰り返えされている学校さえあるのであります。理事者側では、新五カ年計画を立てて、おいおい完備されることと伺っているが、現在では生徒は卑屈になり、先生さえも赴任することを喜ばない状態で、ますます教育上おもしろくない結果となるので、予算編成時期も間近かなこととありますので教育長はどう考えておられるのか。

なお、設備の点であるが、PTAその他の働きで学校によりかなりの格差のできていることであるが、教育上、必要備品についてはつとめて格差のできないよう、市で予算を計上されるよう要望いたします。

次に、農林水産業の奨励補助について。第一次産業に従事しておられる農家の収入と、第二次、第三次の産業従事者に、その収入には相当な格差がありますことは御承知のとおりであります。

しかし、第一次産業従事者は市民の大切な生鮮食糧品を低廉に給与されるのでありますから、第一次産業の振興奨励並びに農家の負担を軽減し、その収入の増額をはかることは今日の重要施策の一つであります。このような立場から、公友会においては、農道問題について発言されました事項に、わが会派も賛成するもので、土地改良事業費の負担率の現在の五対五を三対七まで、来年度の予算において引き上げされるよう、強く要望いたします。

わがクラブは、さらに次の事項についてお尋ねいたします。

一つ。主産地育成事業として、本市の各種の農業生産物に対し助成金の新設及び増額と、あるいは各種の病虫害予

防対策として補助金等を当初予算に計上して、貧困農業の振興に対処せられる御意図について、お尋ねを申し上げます。

次、農業後継者育成対策は、今日の重要課題でありまして、政府においてもいろいろの施策を、対策を講ぜられており、本市においては小学区単位で有志の農業青少年がグループを組織して、農業技術の向上に努力しており、このクラブ組織を基本として四日市農村青少年連絡協議会を結成にまで発展し、各種の専門部会をつくり盛んに研究会を重ね、本市の農業推進に大いに活動しておることは事実でございます。理事者には、これらの農家の有志の青少年が自主的に仕事を計画して、真剣に取り組んでいる各種の事業活動に助成される意思があるのかないのかお尋ねいたします。

次に、南部丘陵の開発について。森林公園と泊山墓地の整備計画について、お尋ねいたします。

市長は、森林公園をつくりたいとの御意向を発表されたこともありましようが、泊山墓地は今後いかにお考えになつていただけるか、お尋ねいたします。

それは、祖先をととおことは昔もいまも変わらないことと思われませんが、今日、全国有名都市では皆りっぱな墓地公園ができております。当市にも泊山霊園と名前だけにつくられたが、その後、一向、進展しておりません。現在の状態は先祖の墓参りするのに、大かた老人が墓参りするのが通例であるが、あの急な坂道にて、よほど若い、じょうぶなものではなければ登れせん。だれでも参拜できるような墓地公園に造成する御意思があるのか、この際、七十周年記念事業の中に何カ年計画として計画、立案される御意思がありませんか、お尋ねいたします。

なお重複の点があるかと思しますので、その点は理事者において適当に御回答を願います。

この質問に対して、全部、市長から御回答をお願いいたします。(笑声。「最後がええな」と呼ぶ者あり)

○議長(中島忠勝君) 市長。

(市長(九鬼喜久男君)登壇)

○市長(九鬼喜久男君) まことに申しわけありませんが、私、ちょっとぼおっと思つておりますので(笑声)聞き漏らした点があるかと思いますが、その点、あるいは数字につきましては助役あるいは担当者から説明をさせていただきます。

市財政の将来性等につきましては先ほど申し上げたとおりでございますが、市税の伸長率が非常に落ちておるのではないかとこの点でございます。この点につきましては、数学的に岩野助役から説明をさせていただきます。

人件費等につきましては、大体四十一年度が十三億五千万円ぐらいであろうと思いますが、四十二年度には十四億四、五千万円程度にふくれるだろうと思います。その他、人事管理費、諸経費等につきましても岩野助役から説明をさせていただきます。

予算編成方針でございますが、四十二年度の予算編成方針でございますが、これは市議会の改選もございまして、でございますので、明年度は当初予算は骨格予算を組まさせていただきました。その後、順次、新しい選良の手によって肉づけされるのが適当ではないかと考える次第でございます。

土木行政につきましては、塩浜・小治田線あるいは子西・八王子線、千才・小生線等が一部の難航しておるところがございますが、これらの点につきましても実際の進みぐあいを土木部長から説明をさせていただきます。

教育施設の整備充実あるいは格差の是正につきましては教育長から、農林水産の奨励費等につきましては、主産地育成につきましてはできるものは助成費あるいは補助金を出さしていただきまして、少しでも主産地が育つようにしたいと思ひます。

農業後継者育成対策につきましては、これは非常に重要なことであろうかと思っておりますので、いい方法がございましたらこの方面につきましても努力をさせていただきたいと思う次第でございます。

南部丘陵地の開発につきましては丘陵公園あるいは泊山墓地と一緒にしまして、南部丘陵公園としてりっぱに整備をして、市民に親しまれるようむ公園にさせたいと思っておりますが、何ぶんああいいう土地柄でございますので砂防工事がたいへんむずかしいために、すぐ測溝等が埋まって水があふれるというような欠陥がございますが、順次、これはよくさしていただきたいと思っております。

なお、七十周年事業としてこれを取り上げて計画的にやろうという計画はただいまのところございませんが、できる限り南部丘陵公園が市民に親しまれるような公園になりますように努力をいたします。

○議長（中島忠勝君） 三輪部長。

〔土木部長（三輪喜代司君）登壇〕

○土木部長（三輪喜代司君） ただいまの御質問に対し、市長の答弁に補足をさせていただきます。

まず、道路問題でございますが、その中の幹線道路の整備拡充。塩浜・小治田線につきましては四十二年度に完成を予定しております。これにつきましては特に、御承知の追分バイパス、追分からの塩浜・小治田から国道一号線へ抜ける追分バイパスの完成が四十二年度でございますので、これと歩調を合わせましてこの四十二年度に完成が得るよう、目下、建設省当局のほうへも折衝を重ね、大体四十二年度完成の目途でございます。

次に、子酉・八王子でございますが、これは非常におくれておりまして申しわけございませんが、特に、国道一号線から以西への、いわゆる県事業につきましては、先般も陳情等も出、御質問もありましたように非常に問題も残っておりますので、現在その問題を解決するように県当局と、ともども努力をしておりますような次第でございます、国

道から以東、すなわち国道一号線から関西線を立体で越えまして、近鉄を立体で越えて泉道の昌栄・楠線に結ぶ道路でございますが、これにつきましては本年度はほぼ用地の買収を終わりました、来年度からはいまの計画といたしましては関西線の立体工事にかかりたいと、このように事業を進めておる次第でございます。

それからもう一つ、千才町・小生線でございますが、これにつきましても議会等へ四年ほど前でございますが、陳情が出まして、町アバートの問題もいろいろと問題がございましたんですが、ようやくにして御関係の方々のお力添えを得て解決をいたしましたので、この議会に契約の議決を、御承認をいただくように議案を提案しておりますがこれにつきましては、大体四十二年の、来年度の四月舗装を残しまして公用開始にもっていくように、現在、努力をいたしております。

なお、舗装につきましては四十二年度中に完成するように、建設省の街路課のほうへも折衝をしておりますのでございます。

それからもう一つ、金場・新正線でございますが、これにつきましては来たる十九日に、御案内のように蓬萊橋が完成いたしますので一応この七十メートル、中央通りから新浜町のところまでを開通して、道路として三滝川を通じて、これへ通けるというふうになるわけでございます。

それからもう一つ、都市計画街路といたしまして六地蔵・中川原橋でございますが、これにつきましては現在、職業安定所のところ、それから浜田小学校の南からこの中間につきましては現在たんぼで、いま下水の工事をやっておりますが、一時これにつきましても四十二年度に一応十月ないし、四十三年の三月ぐらいまでには開通するようにもっていききたいと。そういたしますと、あれから職業安定所の前を通りまして、あの都市改造でやりました塩浜へ行く道路と、それから鵜の森の前まで、鵜の森の南の道路まで結べるわけでございまして、鵜の森の南から先につきましては

は西浦のほうで計画を進め、事業をやっておる次第でございます。

それからもう一つ、蓬萊橋でございますが、これにつきましては四十一年末に舗装だけ残しまして、一応四十一年度、一年度末でございますから四十二年の三月まででございますが、大体、開通はもう少し早くできるようにいま工事を進めておる次第でございます。

それと、新しい道路といたしましては、この議会にも予算の補正を御提案いたします新山分橋の問題もございまして、山分・松寺線としてこれもいよいよ事業に着工する予定でございます。

大体、幹線道路の概要につきましては以上でございますが、とにかく本年度から御承知のように景気立て直しの対策の一環といたし早期発注、早期着工で公債等の発行がなされこれに伴って起債等もふえてまいりましたので、このまま来年度約八千億円のそういう公債等が出されて、これが建設事業費のほうへ回されるならばわれわれの予定どおり進むのではなからうかと、このように考えておる次第でございます。

また、道路補修、排水整備等につきましては、本日も他の議員のほうからも御質問がございましたが、この、特に年末年始を控えまして私たちといたしましては、未舗装部分につきましてはできる限り機械力を導入して、極力、御要望にこたえるように努力をいたしたいと思っておりますと同時に、舗装の修理につきましても修理班を全力投入いたしまして年末年始につきましては特に御迷惑をかけないようにいたすつもりでございます。なお、これにつきましては、年末年始を問わず、来年度につきましても同じような考え方で、市民の皆さまに御不便をかけないように努力をいたしたい所存でございます。

それから次に、森林公園と泊山基地の整備計画でございますが、これにつきましてはすでに、この御質問の森林公園というのは、おそらく自然を生かした泊山公園であろうかと思っております。これにつきましては四十年の八月二十八日

に事業決定いたしましたして、約三万七千坪、事業費八千三百七十万円で自然美を満喫していただくために、幹線道路、遊歩道これが二千八百メートル、幹線が幅員六メートルから四メートル、遊歩道が幅員一・五メートルで工事に着工しておるわけでございます。この中には、広場四カ所というふうなものも考えております。で、四十一年度までの進捗状況といたしましては、全体の約五割、現在進んでおります。事業費といたしまして四百万円、これは用地面積として百二十三坪、それから道路築造といたしまして二百四十メートル、橋梁が一カ所でございます。今後の計画といたしましては、四十二年度に対しまして国に対し千八百六十八万八千円の要望をいたしておりますが、これについての程度の補助がいつくるか。それに従いましてこちらのほうも事業を進めていきたいと、このように考えておりますと同時に、ただいま市長からの御答弁の中にありました泊山の基地につきましては、現在、県の戦災復興のほうで管理をいたしておりますが、戦災復興は近く終了するだろうと思っております。

と申しますことは、先月の、日は忘れましたが桑名市の戦災復興の月掛け事業が一応完工式をあげておりまして、その次は伊勢、その次は四日市ということで、来年あるいは再来年、おそくともここ二、三年のうちにはこれが全部完成して、完工式ができると思っておりますので、そういう時点に立ちましたならば私のほうといたしまして、また、これに市としての計画を策定いたしましたして、ただいまお話のありましたような、できるだけ自然を生かした、ほんとうにわれわれの安住の地でございますので、その辺は十分、意を注いで、極力みなさまの御期待に沿えるように努力をいたしたいと、このように考えておりますので、どうぞよろしく願います。

○議長（中島忠勝君） 岩野助役。

〔助役（岩野見齊君）登壇〕

○助役（岩野見齊君） 命によりまして先ほどの第一問につきまして、市長の説明に補足さしていただきます。

第一点におきまして、市財政の運営が窮屈になってきた場合には、どういう処置を取るつもりか。この御質問につきましては、なるべくそうした窮迫におちいらないように私たちも努力するつもりではおりますが、そうした場合、

そうした問題が現実に取りました場合、当市の財政のもって行き方、運営のしかたといったしましては、私は、補助金、負担金の整理をまず第一に行なうべきであると考えております。市の財政の窮乏した状態に依じて法令に基づかない補助金、負担金を四日市として逐次、整理していただくだけの決心をいたしましたならば、まだまだ私は、四日市の財政には弾力性はかなり残っており、ものと考えております。

次に、人件費につきまして予算の、これを四十年度の結果で見ますと予算におきまして、人件費の占めておる割合は大体二七・七%でございます。六大都市を除く全国都市の平均が大体二八・四%と、大体、近いのでございますが、四日市市の場合、歳出に占める割合は全国平均よりは約一%ばかりは低くなっております。そうして大体三十六年から四十年ごろまでの状態を見ますと、市の歳出の中に占める人件費の割合は大体二七%から二八%とこういった程度で、私は大体、安定しておると考えておるんでございます。

ただ、先ほど御指摘のございましたように、税収との比較におきましては税収の伸びが鈍化したわりあい、人件費だけは遠慮なく進んでおるといような現象も見られておるんでございますけれども、人件費の伸びと申しますものは、これは大体、地方公共団体ではございますけれども、国に大体準じた伸びをしておるんでございまして、税の皮の伸びが鈍ったからといって、この人件費の増加というものはこれはちょっと押さえ切れなんでしょうかと考えております。むしろ、四日市市の場合には、不安定な要素が税制の中に含まれておるんでございまして、換言すれば償却資産税が、非常に大きな大規模償却資産の税収の占める割合が大きいということで、この大規模償却資産が税の中へ入ってきた年には非常に税の伸びが大きくなり、新設がなかった場合には非常に伸びが少ないと、こういった市

税の構造上の欠陥に基づいて生じておりますので、人件費としては私はそんなに伸びた歩みを毎年続けておるとは考えないのでございます。

そうして、大体、市職員の定数も市政が発展しておるわりあいに、私は、市職員の定数の増加は低いと考えております。三十六年から以降四十年まででは市長部局におきましては、三十六年度を百といたしました場合、四十年度は百十六の指数でございまして、年間の平均の伸びは大体二・三%、百人について二・三人ぐらいしかふえておらぬとこれと歳出の伸びよを比較いたしました場合に、三十六年度の歳出を百といたしますと、四十年年度では百六十八になっております。歳出は百から百六十八、まあ、この間に物価騰貴は織り込まなければ、物価が高くなったということは織り込まなければならぬのでございますけれども、歳出は百から百六十八に伸びておると、職員の数数は百から百十六になっておると。こういった点から見ますと、人員の増加というものはかなり私は抑圧せられてきておると、かように考えておるんでございます。そうして、米年度、大体、人件費の伸びは、市長部局におきましては約一億四余りになると私は考えております。

当市の職員の給与につきましては、国を百といたしますと、大体この初任給基準は百十四と一割四部ばかり高くなっております。六大都市を除きました全国都市の平均といたしましては、最高が百三十五、最低が七十六と、高いのは東京周辺あるいは大阪の周辺が高くなっております。ただこれにつきましてはどれが高いとか、どこまでが高くてどの辺が平均であると、こういったことは申しにくいんでございますけれども、国に比して、私は、初任給の基準は高いと、こういうふうに考えております。

しかし、そうして昇給の割合と申しますと、大体、昭和三十六年から四十年までの間に、昭和三十六年を百といたしますと四十二年度には一六二・八%と、こういったような伸びを示しておるんでございますけれども、国民所得の伸

びがちようど一六二・七％で、大体、国民所得の伸びとここの職員の俸給の伸びとは一致してあるような状態でございます。

地方財政の窮乏を打開していくためには、先刻、前川さんから地方税制度の改革が必要であるというような御発言もあつたんですが、これにつきましては、全く私もそういった感を深くしておるのでございまして、国におきましては、かつてシャウブ勧告によって、あり余るほどの財源を国はかかえ込んで、その余ったのを県と市町村に分配して、国はいつも余剰の財源をかかえ込んでおつたんでございまして、この二、三年来、そのあり余るほどの財源をかかえておつたほどの国さえも財政が窮乏してまいりまして、ついに昨年から公債政策に転換せざるを得なくなったということは、これはすでに皆さんもよく御承知のことと思います。もちろんこのことには不況を打開するという人為的な作爲はあるにいたしましても、国のあり余るほどの、毎年毎年あり余つておつた財源を国にまず取つておつたと、その国が公債政策に転じたのでありますから、地方団体が、初めから窮乏しておつた地方団体の財政が苦しくなってくるのは、これ、当然のこと、国の公債政策を正面から地方団体がこれを受けとめるわけには、とうてい、これからの状況にもよりまずけれども、国がどんな公債政策をとってきた場合には、私は、とても地方団体がこれを受けとめることはできなくなつてくると思います。

したがって、地方制度の改革なり、あるいは地方の県・市を通ずる地方制度の機構の改革あるいは税制の改革なんかが、当然必要になつてくると。あるいは地方団体に対して起債を許し、その元利を補給するといったような政策でもとらない限り、地方団体はこのままではやっていけないというようになることは、私は、ほぼ想像がつくような気がいたすんでございます。幸い、窮乏しておる地方団体の中では比較的、富裕な団体に属しておる四日市でありますから、あまり大きな間違いさえ起こさずに、大体、堅実な方向をとっていくならば四日市だけが破綻するということ

は、私はないと信じております。

かような次才でございますから、ここしばらくは相当堅実には運営していかなければならぬと思いますが、多少そうした補助金とか負担金の面におきましては、私け、余裕もあると考へますので、こうしたことを心にもちながらあまり破綻を来たさないような財政を運営していきたいと、かように考へる次才でございます。

○議長（中島忠勝君） 教育長。

〔教育長（栗林武男君）登壇〕

○教育長（栗林武男君） 教育施設の整備充実と格差の是正というようなことで、三点ほど質問があつたようでございます。

その一つは、都心部と周辺部に格差があるということですが、一般的に、ある時点で学校の校舎の施設等々がめつた場合には、格差があるというのは免れがたい事実であるというふうに考へます。しかし、それをそのまま放置するんじやなしに、やはり計画的にその格差をなくしていこうというところに、まあ、私どもの努力がなければならぬと、こういうふうに考へます。ことに、一般的に町村合併によって新しい都市を形成しているところにおきましては、それぞれの学校が、学校の建物がその町村の財政なり、あるいは建てられる年代が相違しておりますので、これは都市合併をしましたところで、やはりそれぞれの建物に格差ができておつて現在、問題になつているところであります。

たとえば、社会増によって新しい建物ができると、あるいは災害によって新しい建物ができると、戦後の古材利用によるところの中学校の校舎の建設が意外にも早く老朽化して、そして新築するとか、いろいろなことによつて建物というのが新しく更新されてくると。したがって、そういう新しくできる建物がその時点にながめれば非常にいいと

いうことは事実であります。

そういう点で校舎をなめる場合、それが一定の期間において教育としてどのように利用されるかというふうに考えないという、この問題はいつまでも格差というのは尽きないもんだというふうに考えます。したがって、私も、いま考えておりますのは、普通教室、特別教室の必要数とか、あるいは体育施設、プールというようなもの、それから構造の面におきまして、鉄筋かあるいは木造、鉄骨というようなもの、あるいは建物の様式等、そういういろいろな要素につきまして、建物を建てるとき考えまして、各学校にできるだけ格差のないように考えます。まあ、そういうような方式で、とにかく一定の年間の計画をもって学校を建てていくという、そういうようなことでやってまいっておりますので、すでに十カ年計画も済みしましたので、そういう立場で校舎の計画というのを進めていきたいと、そういうふうに考えております。

ただ、周辺部と都心部というものの格差というのが、そういうような一般的な新しい町村の合併によって生じたものか、あるいはまた、伊勢湾台風等そういう災害にもよります、いろいろな事情にもよると思いますが、それは別に意図的なものではないに、そういう一つの歴史的な背景のもとでそういうようなことが起こっているんだと、そういうように考えます。そして、そういうことをできるだけ早く早い期間に是正していきたいというふうに考えます。

それから、二番目の問題はたいへんむずかしい問題でありまして、建物が悪いために生徒や先生がひけ目を感じたり、そういう心理的な影響を及ぼすということについて十分、留意してほしいよ、こういうことでありますが、この点に関しては、確かに現在の施設、設備というのは教育を遂行する上での一つの大きな要素になっておりますけれども、しかし、妨げになるというんじゃないに、まあ古いとか、そういうようなことでありますので、そうい

うことで子供たちにひけ目を感じたり、あるいは先生の面においてはこれは生徒ほどじゃないと思いますが、別の教育の指導の面でそういう施設を補うような方法を講じて、子供たちが学習意欲を十分もやすような方法を考えなければならぬというふうに思っております。

それから設備の点であります、これはPTAの支援によって格差が出てくるということですが、この問題はたいへんにむずかしい問題でございます、PTAの数の多いところと、いわば学校規模によりまして集まるところの同一の会費でありまして、集めるところの総額に違いがあるというようなことで、確かに学校規模によって格差というものはありますので、そういう点につきましては十分考えまして、午前中にも申し上げましたように、やはり標準的な一つの基準というものをつくって、その基準によって充足していくように方途を考えたい。そして、学校間にそういう格差がないような両成としての努力をせなけりやならぬ。

ただ、PTAのほうのことにつきましては、これを押えるとか、そういうことはなかなか困難なことだろうと思いますので、その点についてはさらに検討をしたいと、こういうふうに考えております。

○議長（中島忠勝君） 芝田部長。

〔産業部長（芝田敬太郎君）登壇〕

○産業部長（芝田敬太郎君） 才四間につきましては市長から御答弁があったんですが、一部お答えがなかった分と、若干、補足をさせていただきます。

御要望のありました耕地事業に対する地元負担金を、五、五を七、三に引き上げよ、という御要望でございますが、全事業につきまして一律引き上げということはなかなか至難でございます、が、四日市の発展に伴いまして耕地事業、特に、農道等につきましては農道の性格が失われて、市道的性格をもってきておるところもございますので、重

要度、必要度に応じまして考えたいと思いますから、しばらく研究をさせていただきたいと、かように考えます。

なお、主産地育成事業につきましては、農政審議会におはかり申し上げまして成案ができたのでございますが、これはお答えにもありましたように、今後の農林課の中核事業として推進をはかってまいりたいと、かように考えております。

なお、病虫害防除対策費の予算計上の意思ありやどうかという点でございますが、この問題につきましては、四十年度予算におきましても病害虫防除予算は計上をいたしておりますので、御質問は、平素の御主張等から推案をいたしまして、害虫の緊急発生に対処する防除事業だよ、こういうふうに考えましてお答えを申し上げますが、害虫の緊急発生に対しましては初期防除が非常に問題でございます。初期防除いかにによりまして大発生、ウンカのごとき状態を現出をいたしますので、緊急防除対策事業費というものにつきましては、らかの考えを入れて対処いたしていきたいと、こういうふうに考えております。

なお、後継者の対策問題でございますが、適当な事業につきまして考えていくという市長のお答えでございますが、非常にむずかしい年齢層の方々ばかりでございますので、せっかくの意見が失墜といえますか、失われないように、特に、新しい組織づくりをいたしました向きに対しましては、相談に応じて、実は私も四十一年度におきまして、特に、後継者対策事業として予算化はいたしておりませんが、既決予算の中から援助をして事業推進をはかっておりますが、それにつきましては若い人たちでございますので、当初から何らかの援助といえますか、そういったことを望んでおりますので考えてまいりたいと、かように考えますので、よろしく。

○議長（中島忠勝君） 矢田君。

〔矢田繁郎君登壇〕

○矢田繁郎君 ただいま答弁を受けたんですが、私、はっきりとしておりまして（笑声）新年度の予算については議員がかわってからはっきりした予算を組む、こういうふうに関き取ったんですが、そういう予算の組み方は、自治法の才何条にあるのかないのか、ちょっと市長からお願いします。

○議長（中島忠勝君） 市長。

〔市長（九鬼喜久男君）登壇〕

○市長（九鬼喜久男君） 基本的なものを示していただくと申し上げたんですが、基本的な予算編成をして追加予算の形で肉づけをしていくという意味でございます。

○議長（中島忠勝君） 矢田君。

〔矢田繁郎君登壇〕

○矢田繁郎君 五項目にわたって質問いたしましたんですが、それについて御答弁をいただきまして、申すまでもなく予算は市民の予算でございます、御承知のとおりだと思いますが、事なかれ主義な市長とは、私思っておらないのでございます。市政を思う一念に一大決意をされて、実行予算を組んでいただくように要望いたします。

○議長（中島忠勝君） 暫時、休憩いたします。

午後三時三十四分休憩

午後三時五十三分再開

○議長（中島忠勝君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

藤谷君。

〔藤谷祐一君登壇〕

○藤谷祐一君 市政クラブを代表方面にわたって御質問申し上げましたところ、詳しくいろいろと御説明いただきまして十分、納得はいたしました。御答弁の中で市長、助役のことばの中でちょっと気になることがありましたので補足いたしまして御質問申し上げます。

岩野助役の財政通がいろいろ財政の将来に向かって御説明がございましたが、非常に堅実でけっこうでございます。しかし、四日市はこのままいっても、おそらく窮屈になるときは来ないだろう、財政についてはだいじょうぶだろうという見通しでございます。しかし、もしもその場合には、たとえば補助金とか交付金とか、義務負担のない規則に載っくらぬものについては、一応それは削減するんだという答弁でございます。しかし、補助金、交付金というのは、四日市の市政を高めていくためには最少限、必要ものであって予算に組まれておると思います。これは、むだなものが組まれておるとは思いません。これによって四日市はやはり発展していく要素になっております。

こういう点からいまして、もしもその場合にはこうするんだというよりも、私は、もう一歩前進いたしました、たとえば、四日市の市政をさらに伸ばしていくためには借金をしてでもやるとか、または、ある場合は起債をしてでもやるとかという積極姿勢がほしいと思います。こういう点。

それから、四日市は幸い相当大きな義務負担を入れて、年に四億、五億という借金を返してきておりますので大きな財政負担にはなっておりませんが、これも計画によりましてだんだん減ってきております。しかし、新しく遮断緑地が決定されますよ、二年後にはやはり一億ばかりの負担がついてきます。

さっきの説明にいきますと、来年の税収の見通しは約一億二、三千万円であらうと、まあ増収になるんですが、それに対して人件費の伸びからいまして、やはり一億二、三千万は要るんだと、そうしますと差し引きゼロです。物

は上がってきております。市政を伸ばすためには、やはり一割、二割のものは上がっていますから、予算をそのまま組んでも二割の金はたくさん要ることになります。これは概算でございますが、そういうことになります。そうしますと、その分はすでに足りません。このままいくと足らぬはずで、それはどうして確保していくのか、私はいつもこう思うんですが、償却資産税がだんだん減ってきております。これは四日市がいま言われたように、工場を誘致せん以上はやはり減ってくることは普通ですが、この場合、昭和四十五、六年には県に償却資産税が八億あって、四日市が二億になります。いまちようど八億四日市があって、県が二、三億ということですが、逆になるらしいです。こういう時期がいま見えております。だんだんそういうものが減ってくると、私は、財源確保の方法としてそれに對して、たとえば、国に運動をし、償却資産税のワクを十億から、たとえば二十億にする運動を起こすとか、これも一つの財源確保の方法だと思います。こういうことも残されております。まだ、そういう方面に、新しい財源確保にもう少し道をあけてほしいと思います。

もう一つそれに関連いたしました、市長は、さっき来年度予算はできるだけ骨格予算にして、新しい議員が出てから予算を組むんだ、という御答弁でございましたが、これはちよっとおかしいんで（笑）四日市は年々計画を立てて仕事をしております。来年度だけひとつ変えるという方法にはいかんと思います。たとえば、道路をつける場合でもいま土木部長から説明がございましたが、子西・八王子線はどうとか、松本・昌栄線はどうとか、いろいろ塩浜・小治田線はどうとかいう説明がありました。これも年次計画で四十二年には終わりますというのを答えております。こういう、きまった予算は削減することはできません。

現在、組まれておる予算は、いま言いましたように最少限に必要な予算が組まれておると思います。年がかわって議員が改選されるから、予算を変えるわけにはいかんと思います。これは、できるだけやはり、ことしのような予算

を組んで方針どおり進むのが四日市の市政を発展さす一つの道であります。

こう簡単に変わることはないと思うんですが、逆に申し上げれば、おまえらの時代には予算を組むよりも、新しい議員が来てから予算を組むのだ、と言われてる、これはどうかと思います。（笑声。拍手）それはちよっとおかしいんで、やはり基本方針は立ててもらいたいと思います。

私も初めて議員に出たときに、昭和三十年でしたか来ましたが、四月の選挙がありまして五月の初めての市会るときに本をもらいました、一冊の本を。前の人がちゃんと予算を組んでつくっております。私も予算を組んだ覚えはありません。やっぱり骨格でなしに、はっきり予算が組まれて、予算書を読んだ覚えが全部のっております。その後、私も議員になってからも、変わっておりません。それは追加されたでしょうが、国の財源とかそういうようがはっきりしてから追加はされましたが、基本方針は全然かわっておりません。ところが、市長は、来年は方針を変えて予算を組まれるのか、ちよっとこの辺、気になりましたのでお尋ねいたします。（笑声。拍手）

○議長（中島忠勝君） 市長。

〔市長（九鬼喜久男君）登壇〕

○市長（九鬼喜久男君） ただいまの御質問にお答え申し上げます。

補助金あるいは負担金等の話もございましたが、それはやむを得ないものは残す、積極的にこれはプラスになるというようなのはやる、というように御解釈していただいけっこうかと思えます。ただし、積極財政と申ししましても、国家財政にいたしましても八千億からの国債を発行しなければならぬという現状でございます。私、それと同じように市町村財政にいたしましても、将米というものはそう裕富な財源というものをさがすことはできないと。そういう考え方から、やはり基本的には堅実財政を目ざすためには、やはりどうしても小型のものを組んでおいてそ

れに肉づけを、財源あるいは国からの補助であるとか、財源であるとか、あるいは税收の伸び等を勘考しまして、それに肉づけをするという考え方でございまして、明年度の予算をそういう考え方で対処いたしたいということを申し上げた才でございます。

○議長（中島忠勝君） 岩野助役。

〔助役（岩野見齋君）登壇〕

○助役（岩野見齋君） お答えいたします。

ことばが足りなかったようでございますが、私の午前、午後二回にわたりまして申し上げましたのは、想像できる限りの最悪の状態を予定して申し上げているんでございまして、財政を持つものといましては、私は、一番悪い場合を考えてそこから出発するのが普通じゃないかと考えておるんでございます。

藤谷議員から御指摘のありましたように、税制の改革について、あるいは償却資産の限度の引き上げ、これはまあ前川議員からも午前中お話しがあったんでございますが、こうした面につきましてはもちろん努力はいたしますが、まだ確定的な要素としては、これが来年、必ずできるというような保証もございませんので、まあ私といたしましてはどういう悪い場合がきても耐えられるだけの見通しだけはもって、その上へ肉づけしていきたいと。

また、いまおっしゃいましたように、税制の伸びが、それでは人件費の伸びだけで一ぱいになってしまいうじやないかと、そういうお話しでございますが、確かに私はその点についても心配はしておりますが、これは一番悪い場合のことで、本年度から来年にかけては長い間の不景気も底入れしておりますし、法人税なんかにも多少、私は期待できるんじゃないかと思えます。この景気の下よくなるとか……、私は、まあ来年については今年に続いてまだ多少上昇するであろうと思うんでございますが、こうした上昇の期待も私は若干もってはおるんでございますけれども、それは

織り込まずに、一番無いところ、一番ひどいところをとって、それでなお耐え得るんだということを申し上げたつもりでございますので、そうした点を御了承いただきまして、決して私に、それだから予算についても最低の、最も最悪の予算を組もうと、かようにはお考えを承知のほどでございます。根本精神として低い、悪い状態を予想しながら、その上へ組み立てていきたいと、こういうような考え方を申し述べた次第でございますので、御了承願いたいと思います。(藤谷祐一君「了解」と呼ぶ)

○議長(中島忠勝君) 永田君。

〔永田利一郎君登壇〕

○永田利一郎君 日は忘れましたが、十二月になりましたから、十二月の二日やと思います、最初に。玉ねぎの腐ったようなおいでまことに、くさいくさい一ぺん出てこいというので出ていきましたら、もうほんとうに目の回るほどくそうてしやうがなかった。そのときにむすこが公害課へ電話をかけて、一ぺん見てもらいに電話をかけるというてかけました。それで公害課は、パトロールというものですぐ見にこられた、それが一回と。

最近においては十日の日に、またくさかったもんですから、また電話を掛けて、公害パトロールがやっばりやってきました。なるほどこれくさいな、というて、工場の前でいうて、それでその後がどうなるねのということ私のクラブの坂上先生に聞いたんですけれども、それから、それ保健所がいうのやろとか、何とかいう言うだけで、市の公害課の行くえがそれからどういうふうにやられるのや、私ら、とんとわかりませんのやが、これが一市民としまして、えらい幸いに市議員をさしてもろうてますのやよって、なまいきに公害課へも電話かけて、来てくれというやうなことが言えますが、これが一市民の場合にはそれからどうするとなえのや、まあ自治会長であった場合でも、言うたら少しぐらいは、これは会社のほうが、大協が無いのやろで、この玉ねぎにおいては石油精製から出る

ねやろで、そこへ言うてやめてもらいうに言うてきたとか何とか報告がありそうなんやけども、何にも言わんとこれはくさいな、これはええこっちゃ、というてすぐに言うただけで、もうそこでしまいでございましたが、(笑声)その後のやり方を一ぺんどういうふうに、一体、市の公害課はやっていただくものやら、ちよっとその方法を教えていただきたいんですが、衛生部長のお答えをお願いします。

それから、二日の日、わたしとこの石屋が、くさいで仕事ができやんというて三十分ばかり仕事をやめて店の中へすっ込みました。この間にも、これ旧害があるんですが、この公害に關しての補償はもらえんもんやろか、えらいよくの深いことやけど、そういうこともちよっとお尋ねにします。

私は、意見やあらしません。どうぞよろしくお願いいたします。(笑声)

○議長(中島忠勝君) 衛生部長。

〔衛生部長(中山英郎君)登壇〕

○衛生部長(中山英郎君) 公害に關する苦情といったことの手順、ということについてお尋ねがございました。

一応、公害に關するいまの事例で示されたように、くさいとか、あるいはどうだという連絡は、大半の場合、自治会なり、あるいはいろんな方から市のほうへ連絡のあることと、それから保健所へ同時にいっております。そうしますと、保健所へ早く入ったものは、公害課のほうへいまこういうことが入ったので、保健所の公害パトロール車を出動する、という場合には、市の公害課の職員と保健所の職員が同行することを原則としております。で、それでいて現場へ行きまして、その場でわかる事象につきましては発生源に対してその場で要請するといったことがございますが、大半といたしましては公害のパトロール車に公害課の職員と保健所の職員が行くということで、総合的に、お互いに通報する制度をもっております。

それからお尋ねの、その後の結果報告といったことにつきましては、大半の事例といたしまして手に合うと申しますか、後刻、調べて御返事をするといった場合には返事を差し上げたり、あるいはまた、もう一ぺん説明会をしてくれといった場合にはそういうふうに出かけておりますが、大半の事例といたしましては、そういう通報に基づいて発生源がわかった場合にはその箇所へ行くと。しかし、広い範囲で大半の事例といたしましては、相当な悪臭の場合は相当な範囲から、あるいは塩浜あるいは曙、あるいは橋北といったように大体、一斉に入ります。その場合には広い範囲の事件といたしまして手分けしていく場合もございますが、小さな範囲の苦情といった場合には単独行動でやっております。

もう一つの、十二月二日の件でございますが、これにつきましては、私はいまちょっと記憶にないわけでございますが、十日につきましては塩浜浜辺において硫配のプラントが三十分間に故障を起こしたということで、その故障につきましては住民の方からの連絡によって、その故障した会社のこともわかっておりますので、そこへ行って善処方を要望すると同時に、その事故の旨を自治会長の一つの案で、住民に知らすといったやり方をされたという報告を私は受けています。

それで、このこういう苦情の性質なり、それからそういうものによって、まあ一定のルールはございませんが、あと始末がわからぬ場合が抜けるというようなことでございますが、できる範囲その結果なりそれから措置というものを知らすようにするのがほんとうだろうと思いますが、ただ、現在の県の体制、市の体制では十分なる知識なり、それから機械というものが不足しておりますので、まあ、いろいろ今回も県会に予算上程されておるようでございますが、そういった県の手当の機械類、また、市のほうの手配といったこともおいおい即応できるように計器なり、それから足、それから知識といったものをぐあいよう積み重ねて対処していきたいと、こういうように存じます。

○議長（中島忠勝君） 本日はこの程度にとどめ、あとの方は明日お願いすることといたします。
本日は、これをもって散会いたします。

午後四時十分散会

昭和四十一年十二月十四日

四日市市議会议定例会會議録（才三号）

四日市市議會

昭和四十一年四月四日市市議定会例會會議錄 才三號

米 田 好 兼速記

昭和四十一年十二月十四日（水曜日）

○議事日程 才三號

昭和四十一年十二月十四日（水）午前十時開議

才一 一般質問

才二 議案才一〇五号 昭和四十一年度四日市市一般会計補正

予算（才四号）……………質疑：委員會付託

才三 議案才一〇六号 昭和四十一年度四日市市競輪事業特別

會計補正予算（才一号）……………：

才四 議案才一〇七号 昭和四十一年度四日市市国民健康保険

特別會計補正予算（才一号）……………：

才五 議案才一〇八号 昭和四十一年度四日市市と畜場食肉市

場特別會計補正予算（才二号）……………：

才六 議案才一〇九号 昭和四十一年度四日市市公共下水道特

別會計補正予算（才二号）……………：

才七 議案才一一〇号 昭和四十一年度四日市市立四日市病院

事業会計才三回補正予算……………質疑：委員会付託

才八 議案才一一一号 昭和四十一年度四日市市水道事業会計

才二回補正予算……………：〃

才九 議案才一二二号 四日市市役所出張所設置条例の一部改

正について……………：〃

才一〇 議案才一二三号 四日市市職員定数条例の一部改正につ

いて……………：〃

才一一 議案才一二四号 四日市市吏員退職料、退職給与金、遺

族扶助料支給条例等の一部改正につ

て……………：〃

才一二 議案才一二五号 四日市市税条例の一部改正について……………：〃

才一三 議案才一二六号 四日市市青少年問題協議会条例の一部

改正について……………：〃

才一四 議案才一二七号 四日市市営住宅管理条例の一部改正に

ついて……………：〃

才一五 議案才一二八号 市立四日市病院事業の設置等に関する

条例の制定について……………：〃

才一六 議案才一二九号 市立四日市病院附属看護婦養成所設

置条例の制定について……………質疑：委員会付託

才一七 議案才一二〇号 四日市市水道事業の設置等に関する条

例の制定について……………：〃

才一八 議案才一二一号 四日市市職員給与条例等の一部改正に

ついて……………：〃

才一九 議案才一二二号 四日市市水道事業管理者給与等支給条

例の制定について……………：〃

才二〇 議案才一二三号 土地の取得及び処分について……………：〃

才二一 議案才一二四号 中央緑地（共同福利施設）の譲り受け

について……………：〃

才二二 議案才一二五号 市の区域内にあらたに土地を生じたこ

との確認並びに町の区域の設定につ

て……………：〃

才二三 議案才一二六号 町及び字の区域の変更について……………：〃

才二四 議案才一二七号 住居表示整備事業を実施する当市にお

ける市街地区域の編入及び当該区域に
おける住居表示の方法について……………：〃

- 才二五 議案才一二八号 町の区域及び名称の変更について……………質疑：委員会付託
- 才二六 議案才一二九号 市道路線認定について……………〃
- 才二七 議案才一三〇号 市道路線の一部廃止について……………〃
- 才二八 議案才一三一号 工事請負契約の締結について……………〃
- 才二九 議案才一三四号 昭和四十年四日市市一般会計決算並
びに各特別会計等決算認定について……………質疑：特別委員会設置：委員会付託

○本日の会議に付した事件

才一 一般質問

- 才二 議案才一〇五号 昭和四十一年度四日市市一般会計補正予算（才四号）
- 才三 議案才一〇六号 昭和四十一年度四日市市競輪事業特別会計補正予算（才一号）
- 才四 議案才一〇七号 昭和四十一年度四日市市国民健康保険特別会計補正予算（才一号）
- 才五 議案才一〇八号 昭和四十一年度四日市市と畜場食肉市場特別会計補正予算（才二号）
- 才六 議案才一〇九号 昭和四十一年度四日市市公共下水道特別会計補正予算（才二号）
- 才七 議案才一一〇号 昭和四十一年度四日市市立四日市病院事業会計才三回補正予算
- 才八 議案才一一一号 昭和四十一年度四日市市水道事業会計才二回補正予算
- 才九 議案才一二二号 四日市市役所出張所設置条例の一部改正について
- 才一〇 議案才一二三号 四日市市職員定数条例の一部改正について

- 才一一 議案才一二四号 四日市市吏員退職料、退職給与金、遺族扶助料支給条例等の一部改正について
- 才一二 議案才一二五号 四日市市税条例の一部改正について
- 才一三 議案才一二六号 四日市市青少年問題協議会条例の一部改正について
- 才一四 議案才一二七号 四日市市営住宅管理条例の一部改正について
- 才一五 議案才一二八号 市立四日市病院事業の設置等に関する条例の制定について
- 才一六 議案才一二九号 市立四日市病院附属看護婦養成所設置条例の制定について
- 才一七 議案才一二〇号 四日市市水道事業の設置等に関する条例の制定について
- 才一八 議案才一二一号 四日市市職員給与条例等の一部改正について
- 才一九 議案才一二二号 四日市市水道事業管理者給与等支給条例の制定について
- 才二〇 議案才一二三号 土地の取得及び処分について
- 才二一 議案才一二四号 中央緑地（共同福利施設）の譲り受けについて
- 才二二 議案才一二五号 市の区域内にあらたに土地を生じたことの確認並びに町の区域の設定について
- 才二三 議案才一二六号 町及び字の区域の変更について
- 才二四 議案才一二七号 住居表示整備事業を実施する当市における市街地区域の編入及び当該区域における住居表示の方法について
- 才二五 議案才一二八号 町の区域及び名称の変更について
- 才二六 議案才一二九号 市道路線認定について
- 才二七 議案才一三〇号 市道路線の一部廃止について

才二八 議案才一三一号 工事請負契約の締結について

才二九 議案才一三四号 昭和四十年年度四日市市一般会計決算並びに各特別会計等決算認定について

○出席議員（三十八名）

中	坂	宮	鈴	伊	志	前	喜	岩	坪	安	藤	錦	酒
島	上	崎	木	藤	積	川	多	田	井	垣	谷		井
忠	長	春	愛	太	政	辰		久	妙		祐	安	昌
勝	十	吉	次	郎	一	男	等	雄	子	勇	一	吉	一
君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君

山	味	訓	谷	永	橋	笠	高	山	加	大	須	伊	矢	荒	日	野
本	岡	覇	口	田	詰	部	田	橋	中	藤	島	藤	藤	田	木	比
栄	一	也	専	利	興	昌	七	伊	忠	定	武	総	泰	繁	武	義
一	郎	男	九	郎	隆	弘	衛	祐	一	男	雄	郎	一	郎	治	平
君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君

○欠席議員（二名）

○議案説明のため出席した者

消防局長 竹内鉄雄君	技術部長 加藤弘君	水道局長 滝井義夫君	市立四日市市長 渡部一臣君	教育委員長 栗林武男君	教育委員 杉浦西太郎君	副収入役 村木喜代次君	建設部長 園浦和己君	土木部長 三輪喜代司君	衛生部長 中山英一郎君	厚生部長 山本軍一君	産業部長 芝田敬太郎君	税務部長 伊藤涼一君	市長公室長 谷沢文男君	収入役 川崎祐男君	助役 庄司良一君	助役 岩野見齊君	市長 九鬼喜久男君	前北川宗雄君	伊藤信一君	早川正夫君	伊藤金一君	山本勝君	渡部権太郎君	増山英一君
---------------	--------------	---------------	------------------	----------------	----------------	----------------	---------------	----------------	----------------	---------------	----------------	---------------	----------------	--------------	-------------	-------------	--------------	--------	-------	-------	-------	------	--------	-------

○市議会事務局

事務局	長	菊地英也君
次長	岩谷剛君	
議事係長	小坂靖君	
主事	佐藤正俊君	
主事	芳野孝君	

午前十時十九分開議

○副議長（渡部権太郎君） ただいまから本日の会議を開きます。

本日の出席議員は、二十五名であります。

本日の議事につきましては、議事日程才三号により取り進めたいと思っておりますから、よろしく願います。
なお、議事説明者中、庄司助役は公務のため、また、教育委員長は裁判のため午前中欠席いたしますので御了承願います。

日程才一 一般質問

○副議長（渡部権太郎君） それでは日程才一、一般質問を昨日に引き続き行ないます。

伊藤太郎君、どうぞ。

〔伊藤太郎君登壇〕

○伊藤太郎君 民政クラブを代表いたしまして二、三御質問を申し上げたいと思います。

昨日来、同僚皆さんの御質問に対して理事者の御答弁がありまして、その点と重複する項はできうる限り割愛を申しまして、お尋ねを申し上げたいと思います。

才一問、公害防止対策についてでございます。

今会、市民の皆さんから出されております請願・陳情をずっと見ますと、公害対策に関係するものが実に五件を数えておるのであります、これがいかに市民の切実な課題であるかということがはっきりいたしておるのでございます。たびたびこの壇上から私がこの項についてお願いをしお尋ねを申してきたんですが、何度もこの壇上からこの項をお願いしなければならぬというものは、その実が上がっていないからでございます。もちろん、この公害なるものは発生源があるから起こるのであります、発生源対策さえ十分にされているならば、私は本市の行政施策のうえにもすごい前進をするものであると確信をいたしております。公害防止の抜本的な対策は、この発生源対策になければならぬのであります。

これから派生いたしました各種の問題が、その後羽津地区、あるいは富田地区、富洲原地区もこの件に不安を感じていらっしゃるからであろうと考えるのであります。

さて、六月の定例議会にも、当議会におきましては、この公害防止対策への意見書を万場一致で可決されまして、都市公害対策委員会もその線に沿って政府の要路に陳情をいたしたものでございます。その才一項に掲げておるのがこの発生源対策への施策の強化であったのであります。こうして議会は打って一丸となって政府要路にその対策を迫っておりますので、市長におかせられてもこの議会の意見書に呼応して各企業に設備の改善などを強く御要請にな

っていることと存じます。その点につきまして、どのような御要請をわずらわしたか。どのような施策ができたか、その点についてお尋ねを申し上げたいんですがございます。

次に、才二項の都市改造についてでございます。

都市改造というものは、都市がだんだん発展いたしてくるにつきまして、当然いろいろ考えなければならぬ問題であることは、十分承知をいたしております。これが協力にやぶさかなものではありません。ところが、去る十月三十日の全員協議会の節に配付されました中央遮断緑地建設計画書というあのパンフレットをいただきまして、それを再読、三読いたしたのでございますが、その前書きのところにこういうような意味が取られたのでございます。

公害がひどいのは、工場群に隣接、あるいは混在した住宅が悪いのや、こういうような意味が指摘されております。これが私は、非常に奇怪至極なことばであると、私は考えたのであります。私一人ではございません。関係地区には相当な反響を起しております。こうした環境に追い込んだのは、一体だれなのか。関係地区民に対しては、工場を誘致につきまして当時一回の公聴会も開かれておらず、意見を求められたこともない。いわば県・市がその財源を求めるために誘致されたのであるにかかわらず、この件について、その施策が間違っったというような反省が少しも見られないのは、私は非常に遺憾に存じております。この点、理事者はどのようにお考えになっていらっしゃるのかお伺いをいたしたい。

才二項の二つ目でございます。そこで、いま考えられていられます都市改造につきまして、私は次の諸点についてお伺いを申し上げます。

もちろん、都市改造は、私が考えておるのには、これは公害防止のためである、次は、災害防止のためであろう、次は、都市整備のためであろう、この四点を考えておるんですが、かりに才一項の公害防止のためとするな

らば、公害の最激基地であります磯津町がいつもマスタープランとか、そういうようなものからも省かれておる。かつてSO₂が一・五PPMを記録したことがある磯津町が、なぜこの緊急対策から省かれているのか。都市改造から省かれているのか。公害患者すでに八十に近い数を出しておる磯津地区が、なぜ検討をされていないのかという点が才一点。

次に、災害防止のためだとするならば、道一つで工場と近接しておりますあの稲葉町のあたり、あるいは千才町のあのあたりなんかにはほとんど緊急切実な計画が見い出せ得ないように思いますが、その点いかがでしょうか。

さらに、都市改造を計画する場合、住宅だけを対象としていられるように私は見受けるんですが、加害者にあたるどころの企業敷地というものには一指も触れないでいるということが、関係地区民の最も遺憾としておるところであります。都市改造というのは、最小限において企業敷地をも私はそれに参画させるのが至当でないかと考えるんでございます。

才四項目には、さらにもっと重要なことは、こういうような重大施策を行なおうとするときには、その前に関係地区民の声を十分に把握し、この声を十分に検討し、これを分析し、これを底辺として計画すべきものだと考えておりますが、どうでしょうか。その四件についてお伺いを申し上げます。

次に、才二項の大きい三となりますが、霞ヶ浦の埋め立てと工場誘致についてでございますが、この点につきまして、きのう一般質問の中に非常に意を尽せられたように思うんですが、さらに簡単に次の二点をお伺い申し上げます。

発生源対策を十分に推進して、その実を上げることが私は関係地区民の心をぐっと引きつけて協力していただく道と考えておるんですが、ただ市長があつた土地へ行って市長御自身がそういう点について了解を求められる、説得をさ

れるというだけでもなお不足じゃないかと。私は、常にいままで再三、四日市もこれだけの工場をもったんやから、横浜の公害対策センターのように工場の施設を指導するに足るような権威者を市においておかえになり、そうしてその専門家の頭を通して市民の方々にも御了解を願ひ、工場の施設をすることにも相談に打ち込んで乗ってあげることでできるという人を、私は置くべきではないかということをつたひと提唱いたしてきただけです。そういうような進み方をなさる御意思はないかどうか。横浜市についてそれをいろいろとただしてみますという、それが非常に効果的であるということをお聞きするが、その点についての御見解を承りたい。

次に、才四番目になりますが、平和町の問題についてでございますが、御承知のように平和町は昭和三十七年から五年越しの懸案でありましたが、どうやら理事者の皆さん方の非常な御努力によりまして、やれやれ一段落と思つたのもつかの間で、どうやら最近はまだ住宅地区改良法の適用を中心いろいろな訴訟問題が提起されておるやのうに承っております。で、これについての真相、これらに対するところのこれが市の対策、将来の見通し、こういう点について承りたいのでございます。

才二点目でございます。教育行政についてでございますが、その教育予算についてでございます。毎会の請願・陳情をずっと見ましても、この教育行政に関するものが多いのでございます。公害対策に劣らないほど多いので、今会も陳情・請願二十一件のうち六件出されておるのであります。こういうような点をずっと目を通さしてもらいますと結局教育予算の実質面、ほんとうの教育行政、義務教育に使われる教育予算の不足ということから端を発しておるかにように考えるのでございます。いつの議会でも小中学校、PTAの税外負担の軽減というようなことが問題にならないことはないくらいでございますが、いっこうにその実が上がっていない、まことにこれは残念なことでありまして、私は、行政視察ごとに同等の都市に行くならば、かならずともいいくらいその実体を探っておるわけでござ

います。多くの都市は教育費に予算の二〇%ないし二五%を入れて、先ほどの問題を解決しようとしていることがよくわかれるのでございます。

で、最近、ある小学校について私はいろいろとその実情をお聞きいたしました。大体市内の小学校は、これに準じておるように思われるのでございますが、月にどの学年にも大体基本として百十円を各学級で取っていらつしやる、PTAの会費以外でございます。あるいは理科の実験費なんか十円、それから体育のボールを買つたりなんかするの十円、それから図書が子供に共同で使わす図書の購入費が十円その他掃除道具を買うのに、バケツを買う、あるいはほうきを補充するのに二十円、それからフィルムを借る貸が十円、あるいは給食のバケツとか、あるいはいろいろな用具を買うのが三十円、なお学校で使われる紙とかその他教授用のいろいろなこまかい消耗品を買われるのが三十円極めて百十円を取ってなさるが、この前後がいずれの学校も同じようなことらしいのでございます。そうして大体考えてみますというと、小学校に大体二万の児童がみえます。中学校に一万二千ぐらいの生徒がみえます。そういうことから考えると、私はこのほんの一部分をながめてみただけでも、教育費がいま最小限にみて小学校において五千万円、中学校において五千万円、そうして幼稚園なんかについて二千万円というような、いわゆる需用費方面の増額がないという、この問題の一端さえも解決されないと思うのでございます。

つきましては、来年度予算編成期を迎えまして教育委員会には、こういう点についてどのような御計画があるのか、その点についてお伺いしたいのでございます。

その才二項、教育施設整備計画についてでございますが、この点につきましては昨日教育長からる御説明がありましたので、その点について了解をさしていただこうと思ひます。

三項の社会教育についてでございますが、社会教育の点でございますが、文化都市を建設するということは、地方

自治団体の最も大きな願いであり、目標でございます。で、健全な文化生活を樹立するということは、市民にとりましても大きな願いでございますが、これを社会教育に私は期待するところがその大きな点であります。この観点から社会教育をいまながめてみますのに、どうもその社会教育の実績が末端にまで浸透することがきわめて少ないかのよう考えるのでございます。青年学級とか勤労青年学級、あるいはグループ活動、こういう点、あるいは成人教育とその点に相当御努力は願っておるのでございますが、一般の底辺にまで浸透する社会教育がどのように行なわれ、どのように届いておるかということをみるときに、何か一まつさびしさを感ぜずにはおれないのでございます。いつかの議会でも申し上げたことがございますが、ずっと過去の私のこの方面の経験を考えてみますというと、地区に社会教育があったころ、はなはだ失礼でございますが訓諭議員が塩浜辺に指導者として来てくださったあの当時のころが非常に地区をあげて社会教育に団結し、地区でいろいろな文化財を集めたり、あるいは展覧会をやったり、自主的な活動が行なわれて、私はいろいろな、たとえば納税意識の高揚であるとか、あるいは衛生知識の普及であるとかというような点がそれにまじって行なわれまして、非常に私は効果があつたと思います。

そういうような目で、行政視察の折、上田に行きましても、あるいは長野に行きましてもいろいろと行くたびに聞いておりますと、やっぱりそういうような形式をいまも取っていらっしやって、各地区に社会教育の熱心な方を集めて、その人に市費半分の手当、地区が半分の手当を出して、そうして社会教育を進めていらっしやる、そういうところがどうもこう効果が上がっているように思いますので、その点について検討していただきたいと思うが、どうでしょう。

給食施設について、が才四項でございます。給食問題につきましては、現在何がよい何が悪いということではございませんが、いろいろこれは、私はこの現場を見たことございませんが、北海道の帯広ですかあの辺をこらんなっ

た方々から集中的に給食施設をすることによって、非常に衛生的でしかもあたたかいものを運ぶことができると、こういうことをたびたび聞きますが、その件について御研究があり、今後の施策の計画があるならばお伺いを申し上げます。たいと思います。

才三番、土木行政についてでございます。

よく行政視察のことを申し上げますが、私は行政視察に行くと、ところどころこまかく歩いてきます。ということ、どのくらいそのわれわれの四日市と市民の期待する舗装関係ができておるかということをよく見たいからであります。四日市の現状は幹線道路、主要道路の舗装は理事者の非常な御熱意でだんだんと進められてまいりました。きのう土木部長の御答弁にもあるように、まだ未完成の分についても早期に完成しようという御意図が十分うかがわれます。ところが、日々生活しておる市民、日々生活しておる一般社会人が歩いて使こうておる、あるいは自転車を使っておる、リヤカーを引いて使っておる三メートル前後の道がまだはるけきといったような感じでございます。これが非常に市民に便益を来す件でございますので、この方面について普及浸透さす御意図があるならば、その計画を承りたい、これが才一項でございます。

次に地盤の沈下、これも今会の陳情の中に富洲原の漁港の件があげられておりますが、これはただに富洲原の漁港に限らないのでございます。南の端にあるところの、いや楠地内に突っ込んでおりますところの磯津の漁港についても同じことがいえますので、磯津の漁港につきましては私もよく存じておりますが、できた当時は満潮時におきまして約一メートル三百ぐらいの高さがあつたものでございますが、現在はもう満潮時はほとんど、もう三メートルも五メートルも、ときにはちよつと大潮になりますと十メートルもこの上に上がってきておるのが常態でございます。おそろくあれができてから今日まで一メートル五百ぐらいの沈下がしろうとにもよくわかるのでございます。それが

ために、磯津町におきましては東町あたりは盆の大潮がありますという、道に一尺（約〇・三メートル）ぐらい潮水が下水の口から吹いておる状態でありますので、非常に御無理を申してそういうときにおろす、何といいますか遮断する装置をつけてもらったらようなことでございますが、私もかつて磯津に生活したことがあるんですが、そういうことは全然過去においてはなかったものでありまして、これは地盤の沈下を顕著に物語るものであります。

この原因は、自然沈下であるのか、地下水のくみ上げ、過当くみ上げにあるのか、これは私にはわかりませんが、かつて建設省の倉田技師は、これは地下水の過当のくみ上げであるということを申しましたので、私がこの壇上からお願ひしたことがございます。これについてどのような対策が講じられておるのか、その点をひとつ明快にお教えを願ひたい。

以上が、私の質問をさしていただく要点でございます。

どうかよろしくお願ひを申し上げます。

○副議長（渡部権太郎君） 市長。

〔市長（九鬼喜久男君）登壇〕

○市長（九鬼喜久男君） 伊藤議員の御質問にお答えを申し上げます。

まず、公害防止に関連いたしましたして、発生源対策でございますが、どのような勧告をし、どのように行なわれたかそしてその発生源対策の現況はどの程度のものであるかということについて、まず御説明をさせていただきます。

まず、この発生源対策といまして、われわれの考えておりますオ一一のもの、大気汚染対策でございます。大気汚染対策に関しましては、まず拡散の効果というものがオ一であるという考え方から、煙突を高くしていただくということを願ひいたしております。したがって、昭和石油が二本、三重水力が一本をすでに完了いたしております。

まず、また、御承知のように現在大協石油が百二十メートルの煙突を、四十二年着工で新聞に報道されましたとおり計画をいたしております。その他、特にSO₂が濃度に流れるときは、緊急時に備え緊急時対策といたしまして企業協力を十分お願ひするように、絶えず要請をしとる次才でございます。

次に、降下ばいじん並びにスモッグ対策でございますが、これにつきましては、チタンのミストが一部では大きなながらうかと思ひます。それにつきましては、チタンにつきましては六基ございます。チタンの燃焼炉に一基二基がすでに完了いたしましたのは御承知のとおりでございますが、残る四基につきましても昭和四十一年度中に完成いたしますように、ただいま事業団にも融資を申請をいたしておりますので、計画されておりますので、チタンにしましては硫酸ミストのコットレルが完成いたしますので、非常に効果があるのではないかと、われわれは期待いたしておる次才でございます。なお、そのほかにも燐安、あるいは過燐酸等につきましても白煙が出ないように対策が講ぜられるということ、われわれは聞いとる次才でございます。

オ三番目には、悪臭対策でございますが、悪臭対策というのはたいへんむずかしゆうございまして、いろいろの臭気がまじります関係上、その正体がつかみにくい。そのおもしろいものはメルカプタンであるとか、あるいはオクタノールであるとか、その他アクリルサンエステルというようなものが考えられるわけでございますが、その対策といたしまして公害課のほうでガスプロマトグラフという機械がございますが、この機械をぜひひとつ買つて悪臭の分析をしたいという要望がございますので、ただいま検討中でございます。

なお、そのほかに樹脂の関係の企業であるとか、あるいは石油精製、あるいは石油化学等におきましてこのような悪臭が漏れる危険のないように、あるいは漏れるところの危険性の多いところは改良していただくように、そしてまた、特に煙突の低いというようなのは、少なくとも二十メートルから三十メートルのかき上げをしていただくよう

に要望をいたしておる次才でございます。

才二番目の都市改造に関連いたしての問題でございますが、都市改造と申しますものは、単に公害防止という観点だけではなしに、災害の防止という対策からわれわれは非常に重要なものではないかと考えております。しかしながら、現法体系下における都市改造というものは、住民の意向を無視しては絶対できないということは事実でございます。どのようなりっぱな都市計画にいたしましても、また、都市改造計画にいたしましても、住民の意向を無視しては成り立たないというのが現在の姿であらうかと思えます。したがって、住民の意向を全く聞くこともなくこのマスタープランというものができたという点につきましては、私は非常に欠陥があるのではないかと、いま痛切に反省をいたしておる次才でございますが、しかしながら、住民の意向をいろいろ伺って、それを底辺といたしましていろいろの理想像を組み立てるということは、きわめて困難なことでございますので、住民の意向とマスタープランというような理想の姿をどのように結びつけるかということとは、たいへんむずかしい問題でございますが、考え方によってはやはりこのようにするのがやはり理想的であると、このような姿にするのが住民の福祉からもっともいいというやはりマスタープランという理想像というものがあってもよいわけでございますが、しかしながら、そのマスタープランを実行に移しうるものでなければならぬという点からするならば、やはりなんといいたしましても住民の意向を無視しては実行できないというのが現在の姿であらうかと思えます。

したがって、おそまきながらわれわれは県・市で調査委員会を発足させまして、ただいまこの都市改造というものがどの程度実現しうるものであるかどうかというために調査委員会を発足いたしましたので、ただいま調査中でございます。その調査に基づきまして、マスタープランの実際の現実的な歩みというものをつかみたいと考えとる次才でございます。

なお、企業用地、企業の土地も当然都市改造等には関連してこれを活用し、マスタープランに組み入れるべきではないかというお話でございますが、すでに昭石、あるいは平和町等も企業用地になるわけでございますが、それらの点につきましては、御承知のように直接生産に関係のない安全な施設をしていただきますように、すでに契約をいたしましたような次才でございます。

才三番目に、假ケ浦埋め立て地に関連しての問題でございますが、公害対策センターというようなものを置いてはどうかと、置く意思はないかどうかということでございますが、御承知のように石油化学というものは、たいへん高度の技術を要しまして、きわめて時代の先端をいく産業でございますので、したがって、これを対象として扱う専門家はきわめて高度の技術をもった専門家である必要があります。また、技術の進歩もたいへん早いために、それだけの設備もなければできない。したがって、四日市市がrippな公害センターを持つということは、ただいまの状況ではちよっとむずかしいのではないかと考える次才でございますが、横浜にも公害センターというものがございしますが、やはり何といたしましても企業は生命をかけてその企業の盛衰をかけて事業をいたしておる関係上、どうしてもそれだけの専門家がおり、また技術者がおるわけでございますが、横浜市におきましてもそれだけの技術者はおらないわけで、やはり企業に協力していろいろ知識を得ておるというようなのが現状であらうと思えます。したがって、われわれは国の機関として公害研究所をひとつ設けてもらいたいということを要望しとる次才でございます。

四番目に、平和町の問題でございますが、その真相、対策、あるいは将来の見通しはどうかという点でございますが、現在、昭和四十一年度予算並びに現在の移転しておる戸数といえますものは、当初におきまして千八百万円の予算で四十二戸を移転させる計画でございましたが、ただいまの執行予定額並びに移転戸数は千八百七十八万円、四十戸でございます。四十一年度の執行は四十戸でございます。

したがしまして、二戸減り金額におきまして五十万程度増加いたしておりますので、五十二万六千円の年度末追加予算の計上をお願いいたしたいと思っております。次才でございます。

なお、現在執行済みの額並びに戸数は、土地が六百六十五万四千四十戸、建物が百八十八万四千三百七十七戸、住宅協力基金いたしましては二百六十万円十三戸、動産移転料いたしましては五十七万円十九戸でございます。予算額に對しまする執行済みの比率は、土地につきましては七二％、建物につきましては六八％、住宅協力基金につきましては五二％、動産移転料につきましては四六％、執行予定額に對しましては約六〇％の執行済みでございます。なお、当初におきまして四十二戸の移転につきまして同意を得ましたのですが、その後も地区の住民の移転につきまして積極的な説得につとめておる次才でございますが、何分営業、商業関係の方がございまして、たいへんその点につきましてもめまして、平和町人権擁護同志会というものが組織されまして、その同志会の中から若干の脱落者が出ております。また、地区改良適応の中止を求めまして建設大臣を訴えるというような現状の姿でございます。そのような次才でございますので、今後まだ困難が予想されると思いますが、われわれはともかくグリーンベルトの建設というものにつきまして、ここに最初の遮断緑地というものを建設したいと思っておりますので、積極的に努力をいたしたい所存でございます。

教育行政につきましては、教育長から説明をさせますが、何分教育予算につきましては長期的観点から見まして住宅地帯、あるいは団地の造成がございしますので、社会増対策を重点として考えなければならぬと考える次才でございます。

土木行政につきましては、土木部長からお願いたしますが、特に地盤対策につきまして御報告申し上げておきたいことは、七万トンから十一万トンの深井戸を掘っていいということが、勧告は、答申はされておりますが、しかし

ながら、先ほどお話のように漁業基地であるとか、あるいは磯津の漁港であるとか非常に沈下しておるのが現状の姿でございます。やはり深井戸がいいとかどうというよりも、はたして七万トンから十一万トンの地下水をくみ上げて本当に地盤沈下に対して科学的な見地から地盤沈下との相関関係がないのかどうかということが、私は大切な問題であらうかと思っておりますので、先日も助役とともに通産局長にそういう点につきましてお話しし、また、知事につきましても深井戸の規制をゆるめよという要望が企業群からなされておりますので、そのような判断はすべて科学的根拠に基づいて地盤沈下対策の観点から許容をしてもいいということを知事に対しまして、要望いたした次才でございます。

○副議長（渡部権太郎君） 教育長。

「教育長（栗林武男君）登壇」

○教育長（栗林武男君） 教育行政について、お答えを申し上げます。

教育予算の増額について、請願とか陳情の件数がきわめて多くて、実質面におけるところの予算の不足というようなことがあって、一向にその実質が上がってないと、こういうような御指摘でありまして、その中で一つの例として学校におけるところのPTA以外の徴収の費用などについて御指示があったわけでありましたが、これらの点につきましては、私どもも十分検討をいたしまして、そしてそういうようなものの軽減をはかるように努力をしてまいりたいと、こういうふうに考えております。ただ、PTA以外の会費につきましては、これは個人の受益負担になるべき性格のものもございまして、それからさらにその学校におきましては、いま御指摘になった以外に、技術のような、そういう面のももございまして、たとえば、ある学校におきましては、いまだ御指摘になった以外に、技術の実験費といったふうな徴収をしている費用もあるわけでありまして、いわば体育に重点を置くと、あるいは情操教育

におけるところの音楽に重点を置くとか、あるいは技術課程に力を入れるというような、そういう一つの一般の教育の充実の上にかき上げるような、そういう特色をあらわすような、そういう面でPTA以外の会費を徴収してる面もあるわけであります。

さらに、その他共通などとしても学校の管理、あるいは学習のうえで共通なものとして取られてる面もあろうかとそういうふうに考えます。したがって、そういう内容につきましても十分検討をして、教育水準の上がるような努力をしないと、まあそういうふうに考えております。

次に、社会教育についてでございますが、御指摘になった点は、社会教育の実績が末端に浸透してないので、それについて十分考慮を払うようにというような点でありましたが、社会教育について過去と現在とを比較するというような考え方、そういうことも一つの考え方ですが、現在この都市というものの文化というのは、かなり分化しているということがいえると思います。分化しているという意味は、きわめて高い水準のものと、それから低い水準と、あるいは中ごろという、そういう層におけるところの文化があるということであります。それから、さらにもう一つは、現在の文化というものを過去と比較してみますと、過去というのは戦前とかそういうものと比較してみますというと、テレビとか、あるいはラジオとか、その他の出版物といえますかマスコミの発達というのは、きわめて高度になってまいっております。同時にまた教育の水準におきましても、戦前の中等教育が二五%というように比較しますというと、現在におきましては昨年の高等学校の進学というのは六九%というような、全国的には七〇%を超えるような高い水準になってきているわけであります。そのようなことを考えますというと、社会教育の目標をどこに置くかということが問題になろうかと思えます。いわば社会教育におけるところの対象の焦点をどこに当てて進めていくかということになると思います。そのようなことによって、末端への浸透ということが可能であるという

ふうに考えております。

現在、社会教育において行なっていますところの機関は、本市におきましては公民館が中心であり、その他図書館とか、あるいはまた一般の後援というようなことになっておるのでありますが、この公民館におきましては、公民館の運営審議会とか、あるいは社会教育全般につきましては、社会教育委員会というようなものもございますので、そういうような審議会におきまして各地区のそれぞれ文化の特質というのは地域によって違いますので、そういう審議会の御意見なり、あるいは婦人会とか青年団とか、あるいは自治会といろんな機関を通して、それらの意向を反映して、できるだけ末端に浸透するような方策を講じてまいりたいと、かように存じます。

才四番目に給食の施設でございますが、国は昭和四十五年に中学校の完全給食を実施すると、四十五年を目途としてそういうことをうたっております。同時にまた、御指摘のように給食センターというようなことで、集中的な経営をするような方向に転じております。現在、給食というものが栄養に対する知識とか、あるいは食事上のマナーとかあるいは一緒に食事をするというような社交性とか、教育のうえできわめて重要な位置を占めておりますので、したがって、これが充実普及をはかるということは、私も十分注意を払って、同時にまた四十五年度というようにそういうような中学校の完全給食という国の方策に沿って努力をしていきたいと、そのためにはまず中学校において共同調理というものを考えなければならぬと、こういうふうに思っております。

なお、小学校につきましては、これは考え方としては、二とおりに考えられるわけですが、現在の小学校の施設の中で老朽しておるような、そういう施設というものを調査しまして、そういうような一つのグループを分けて小学校においても共同調理に移していくという、中学校においては新設でございますので最初からスタートできるわけでありますが、小学校においては現在個々の学校において給食の施設を持っておりますので、したがって

それらにつきましては、その設置された年度、あるいは老朽度というものを考えて共同調理のほうへもっていくと、そういうようなふうな基本的な考え方として、そういうような方向を考えております。

いずれにしても、共同調理によりまして衛生的に、あるいは経済的に人件費とか、あるいは物資の調達、あるいは購入の面などにきわめて有利であるということは、これはたしかなことでございますので、それらについては十分対策を練っていくと、こういう考えでおります。

○副議長（渡部権太郎君） 土木部長。

「土木部長（三輪喜代司君）登壇」

○土木部長（三輪喜代司君） 土木行政の中で、まず才一点の道路舗装についてお答えいたします。

最近いわれておりますことは、舗装してない道路は道路ではないんだと。特にこの道路交通の激化に伴いまして、舗装は強く各方面から要請をされておるのでございます。市民の方々からの要望も私たちのほうへは、強くこれがきております。特に伊藤議員がおっしゃいましたような最近の傾向といたしましては、いいわゆるあの幅員の小さい道こういうものについての要請が出てきておるのでございますが、これはおっしゃるとおり幹線道路の舗装がおおむね完成されたので、要請がそういうところへ変ってきたのではないかとというふうにわれわれは考えておるのでございます。

で、現在、土木課のほうで一応舗装しなければならぬとみております道路の延長で、大体四百キロ程度でございます、総延長。そのうち現在までに舗装されておりますのが約二百キロでございます。ようやく二分の一に舗装道路が達したわけでございます。しかしながら、この要舗装道路でございますが、これはやはり道路の状況の変化、あるいは交通の状況等々から考えまして、今後はまだ延びるのではないかと、このように考えとるのでございますが、私

たちといたしましては、いまおっしゃいましたように、できるだけこういう舗装しなければならぬと思っております。考えております道路については財源等の都合もございまして、人員等の都合もございましてので早急にはできませんが、できるだけ早い機会に完全にこういう道路が舗装されていわれるりっぱな道路にしていきたい、このように最善の努力をいたしたいと思っております。

それから、次にこの地盤対策についての問題でございますが、これについて特に磯津町の問題で御指摘があったように思われますので、この辺少し御答弁をさせていただきますと思います。

現在、磯津町は御指摘のありましたように地盤が海面より低いために一部海水が下水管を通りまして吹き出たという事実もございまして。こういう状態は、単に磯津町だけでなくして、あるいは曙町におきましてもそうでございまして、それから北部のほうにも富洲原のあの遠洋漁業基地方面にもそういうことも出てきておるのでございますが、特に磯津町におきましては、御承知の楠町との間に耕地課のほうの事業としていわゆる湛水防除として、あれは通常われわれはござんといっておりますが吉崎の、あそこのポンプ所でございますが、これは既設のものが、八百ミリが二台ございましたのを、四十年度に千百を一台増設されましたので、できるだけこれのほうへ磯津町の水を落しましてここから海のほうへ出したい、排水したい、こういう計画で、四十一年度にはその水路のしゅんせつをやり、一部下水管の布設もしたのでございますが、今後はこの問題もこの吉崎のほうへ落す、排水できるようにできるだけもってきたいと。それから、なお内部川のほうでいわゆる海水の浸入を防除するための、防ぐための樋門を作りましたですが、これは防ぐだけでございますので、満潮時の排水はどうしても南へ落さなければできない、したがってこの仕事は今後も継続して、なかなかこれも経費が非常にかかりますので、御不満ではありましようがわずかずつでも続けていきたい、このように思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

○副議長（渡部権太郎君） 暫時、休憩いたします。十分間。

午前十一時十六分休憩

午前十一時三十分再開

○副議長（渡部権太郎君） 休憩前に引き続きまして、会議を開きます。

岩野助役。

〔助役（岩野見齊君）登壇〕

○助役（岩野見齊君） 地盤沈下対策の一環といたしまして、管理組合におきましても来年度は遠洋漁業基地のかさ上げ、あるいは海岸堤防の補強等につきまして一部でも来年から着手していくように努力しておりますので、つけ加えさせていただきます。

○副議長（渡部権太郎君） 伊藤君。

〔伊藤太郎君登壇〕

○伊藤太郎君 先ほどは市長から中心にいろいろと適切な御答弁をいただきまして、まことに喜んでおります。公害防止対策につきまして、私は一番中心になることは発生源の対策、これをおいてきめ手はないということを申し上げたんですが、市長もその点よく御了解くださいまして、企業に対していろいろと御要請を賜わっておりますことについて感謝のほかないのでございます。

しかしながら、煙突が高くなって拡散はだんだんとなされておりました、地元民はこの点に対して喜んではおるのでございますが、プラントの操作とか、あるいはバルブの不注意というような点でございましょうか、ときおり磯津

地区、楠町の方面に意外な反響を及ぼしていることを非常に残念に思っております。この間の日曜にも、というところとありますが私のうちへ非常に電話による公害対策について、この状況をあんなは何と見とるのやというような小言がまいました。日曜のことでもありますので、私もどうもしょうがありませんし、私自身が責任者であるがごとくやましく申されました。磯津からも楠町からも、まるっきり霧につつまれたようなこの状態は一体どういうことや、こういうことでございました。きのう帰りに近鉄百貨店のところで、楠の町長に会ったんですが、会うなりが一番にあんなところけしからんやないか、何やったんやいうたら、あの日曜の日のことはあれ何や、こういうようなことでございました。

昨日、衛生部長から某会社の硫酸設備の故障やった、というようなことを聞いて、私ほっとしておるわけですが、原因がわかればせめてものと思っておりますが、そういう場合にその発生源が故障やったというて仕方がないわと、それで済むのかどうか。少なくとも関係地区民に対して陳謝すべきではないかと、私はさように考えてるんでございますが、その点についても一度御意見を承りたいのでございます。

なお、その日は日曜でございまして、保健所に電話しようが、市のほうに電話しようが何ら手ごたえはなし、本当に一人でどうしようがないというのが、その日の状態でございました。

都市改造につきましても、市長から非常に適切な御答弁をいただきましたが、根本的には私の考えておることと全く一致いたしました、非常に意を強くいたしておるんですが、もう少し早くその末端の声、底辺の声を聞くことに御留意を賜わったらそう感情的なものが生まれなくても、私はよかったのではないかと、この親方の声を十分に聞き、これをおるのでございます。何としまして民主政治は一般市民が親方でありますので、この親方の声を十分に聞き、これをおるのでございます。何としまして民主政治は一般市民が親方でありますので、この親方の声を十分に聞き、これをおるのでございます。何としまして民主政治は一般市民が親方でありますので、この親方の声を十分に聞き、これをおるのでございます。何としまして民主政治は一般市民が親方でありますので、この親方の声を十分に聞き、これをおるのでございます。

てこないと思います。とんでもない市民が発生源対策を熱望し、まず発生源対策に曙光が見えてから自分たちは自分たちの行き方を考えるべきだというおるのに、発生源のほうにどうも対策に力が抜けて、そうして知らんとする間にいろいろな計画が進められ、新聞に報道せられ、おれたちの何にも知らぬうちに一体市は何しとるのやと、こういうような感情を地区民にうえつけては、できるものもできない。進めらるべきものが進められないようなことになるんではないかということをお慮うからでございます。市長のお考えになっていらっしゃるその点を、強く私は押し進めていただくことを熱望するものでございます。血の通った市政というのは、私はそういうところから出てくるのであらうと思います。

次に、霞ヶ浦埋め立ての件に関連してさらに追質問を申し上げたいと思います。幸い先ほど庄司助役がおいでになりましたので、お伺いを申し上げます。

と申しますのは、きのう早川議員の御質問に対して霞ヶ浦のあの住宅地は、工場専用地域になっていると、それはあそこにかつて八幡工場を誘致する予定であったがため、昭和三十七年に議会の了承を得てああいうことをしたが、現時点では状況もよほど変化をしてきたので、緑地としてあれをやっていききたい、そうしてその緑地には住宅を新築することはもちろん、改築することにも一向に差しつかえないと、こういうような意味の御答弁であったように記憶しております。それならば、助役の御答弁をそのまま受け入れるとするならば、霞ヶ浦の皆さんが御希望していらっしゃる住宅地とするのと、何ら変わりはないのでございますので、そういうような御計画があるならば、いっそあそこに土地を住宅地となさってもいいのじやないかと私は考えますが、その点どうでございます。お伺いを申します。

その次に、平和町問題について市長から御答弁をいただいておりますが、市長は平和町の問題については一向にお考えがないのかと思いましたが、なかなか詳細にご存じのことで、非常におそれ入ったのでありますが、平和町は私がお先ほど申し上げましたようにどうやら一段落をつけたと、こう思っておったのですが、その後いろいろな交渉の過程において私の耳に入ってくる点を総合いたしますと、いろいろな交渉なさるのにあまりにもこの住宅地区改良法を振り回しすぎるのではないかとということが念頭にあるんでございます。と申しますのは、あそこの人たちが道で会うたんびにおっしやってみえるのは、すぐに市からおいでなさる人は、あんた方がこれに協力してもらわんと罰則があるって強制的にこれを立ちのかす、いつもそれが出てくる、こういうようなことでは私たちは納得ができない。そもそもあの土地は市が昭和三十八年の四月の十日を期して払い下げるということを昭和二十八年から言明しておった。当時、平田市長は払い下げると、約束どおりやりますが、市の考えも一応聞いてくださいと、こういうような切なる希望があったので、そんなにおっしやるのなら聞かしてもらいましようというところから進んでいったにもかかわらず、現在になるという、お前たちが協力せんのならおれたちには伝家の宝刀があるのやということをすぐにいいさる。

こういうようなことをいわれますので、私もそうかなと思ひまして、住宅地区改良法の解説という本をお貸りいたしまして、ずっと何回も読みましたが、なるほど、なるほどどこにもですな、どこにも議会の議決も必要と書いてありませんし、市町村長が申請すればできるようなことになっておりますので、そりやそうかな、えらいこっぴやなまあとどこでもつらいが勝手にあんなことができるのかいなど、実は私は思っておりましたので、名古屋の市役所につきまして、三重県庁につきましてその点を、どこにこれはこの法令のどこにこれはその適用するときの条件があるんですかと聞いてみると、いやそれは地区民のことについては書いてないと。しかしながら、これは常識だから書いてないので、常識としてはその地区民のまず八〇%ぐらいの協力が必要であって、そのうえに市町村長が申請者と

して出されるのでありまして、そんな罰則をどうこういうような問題ではありません、そういうようなことをしておつてはこの法の運用はおそらくできないでしょうと、こういうような意味のことをおっしゃってみるんであります、平和町の問題ばかりではありません。霞ヶ浦の埋め立て並びに工場誘致の問題につきましても、この法以外の、いわゆる血の通うた市民を思う。本場に市民の身になって考える点が、私は非常に重要でないかと。いわゆる説得とこのごろよく聞かされることばでいえば説得ということが大事ではないかと思ひます。

ずっといまから三百年前の豊臣秀吉でさえも徳川家康という実力者を自分のものにするのに、ものすごい説得力を発揮した、それが豊大公の偉大さやということはこの間のテレビで見たことがございますが、（笑声）そういうような点が大事でないか。おそらく市の理事者にもそういう秀吉以上のひとつ説得力を発揮してもらわなければ、これらの諸問題の解決は至難でないかと考えるのであります。

その次に、教育行政につきましては、教育長から非常に将来について研究して予算のふやさねばならぬ点については、考慮したいというような意味の御答弁であつたと思いますが、私が一例として取り上げたそのある学校のおそらくこれが基準であろうと思うことは、ただいま教育長のおっしゃつたように学校の特色をつけるためにしたり、あるいは学校がとにかく程度以上のことをしようというようなそんな実例を取つたのでございせんので、実験するのに実験をせなければならぬけれども、実験の費用がない、やむを得ず十円取つたという御説明でありまして、そんな特色を立てるためのものやございせん。そんなやつたら、月十円ぐらいではとてもできるもんやないんです。体育にしたところで、ボールがないから、体育ができないからボールを買つと、こうおっしゃつてみました。図書でも、その図書を買う費用が市からもらえないので、教育委員会からもらえないので、市費をもらえないのでやむを得ずこれは私たちは取つておるのだと、こうおっしゃつておられました。掃除用具の金二十円割り合い多いですがいうと、

これもほうきがなしには掃除できません。だからバケツもほうきもなけりやできんから、やむを得ず買うんだと、こうおっしゃつてみましたので、これは私が申し上げたのは、もう決してその学校の特色を発揮するための特別な会計ではなくして、もうなければこと欠くというものでありますので、そういう点につきましてそこからでも、その税外負担の軽減に私は乗り出していただきたい、このように考えるのでございます。

次に、社会教育でございしますが、社会教育につきましても、まあ大体私の考えておる点に寄せたような御答弁はありましたが、これは特殊な財源でやる社会教育ならば、特定の人だけ、上層階級だけでもよろしい。ところが市費をもつて実施する社会教育においては、上中下とあれば、どこに力を置くべきかということは、おのずから私は明白であろうと考へます。ところが、その上中下、本場の底辺に社会教育が浸透していない。教育長はテレビがあるやないか、ラジオがあるやないか、そんなやつたら底辺のほういらんやないかというようにお心持ちも、うかがわれないうちもございしますが、そういうようなことではなしに、この生きた顔で、生きた声で、生きたその姿で私は末端の、いわゆる上中下の下のところを中にまでいく、中のところやつたら上まで持つていくことこそ文化都市が、私は文化社会が築かれるのであらうと思ひますので、この点は、ひとつゆるぎなく御説明を願ひたい。そうして四日市が他の都市に負けない文化都市であるようなことの源泉を社会教育でつちかつてもらいたいと思ひます。

給食施設については、非常に同感でございします。
土木行政につきましての一、道路舗装につきましては、土木部長より非常な含味のある抱負を承りまして、満足いたします。

地盤沈下対策につきましても、いろいろと施策を考えておつていただくことを拝聴いたしまして、喜んでおるんでございますが、長い間この地盤についての歴史を見るときに、そう富洲原の海岸であらうが磯津の海岸であらうが、

地盤が私たちが目につくほど沈下したことは、私はなかったのかと思います。どうしても、どう考えても二十数年来のことであるかのように思われますので、あるいは地下水くみ上げ規制が適用されておるその範囲の、地下水の過当くみ上げでないかと思えます。

市長は、ただいま十一万トンですか、ぐらいならどうやらと、こうおっしゃいましたが、私はあのときの技官の方のおっしゃるのには、四日市地区では日量七万トンと聞きました。それが現にあの当時でも十八万トンくみ上げられておるので、これが大きな原因であると、はっきりとこの東の才三倉庫の三階で言明をしていかれたのを記憶いままなお新しいのでございます。そういう点等よく御勘案くださいまして、非常にこれが問題を起こしております。磯津の東町というところに行っていたかとわかりますが、あちらでもこちらでももう土地の上げあいで、隣のうちが一尺(約〇・三メートル)上げたら、おれんところは二尺(約〇・六メートル)上げる、うちはもう二尺五寸(約〇・七五メートル)上げる、いままでも低くかったうちがもう谷の底になるという状態を、きよう、いま行っていたとしても目撃されるような状態でございますので、これについての施策は一日も早く実行に移し願いたいのでございます。

どうかそういうようなことでございますので、重ねてお尋ね申しました点についてお伺いを申し上げます。

○副議長(渡部権太郎君) 庄司助役。

〔助役(庄司良一君)登壇〕

○助役(庄司良一君) 昨日、私が早川議員の御質問にお答えいたしました釧路浦地区の現在工業地域として都市計画、指定されているのが、今日ではふさわしくないと。私どもとしては、将来これを変更する場合には、緑地帯にするのがいいのではないか、これを議会に御提案申し上げ、御相談申し上げますと、こういうふうに申しました。いま伊藤議員は、きのうの説明では住宅も建てられる、改造もできる、そうならば住宅地帯にすればいいじゃないかと、

こういう御質問でございしますが、都市計画というものは、最小限衆知を集めまして、最も望ましい姿というものを追求いたしましたして、それを現実と組み合わせまして、望ましい姿をここに考えてみた場合、住宅地帯としてきめるのがふさわしいのか、緑地帯としてきめるのが望ましいのか、こういったものの考え方になるわけでございます。緑地帯にいたしました場合に、ぎっしり五十坪(約一六五平方メートル)の土地を建てる、みんながそういうことをやれば身動きもできないような市街地ができるわけでございます。建坪率が制限せられることによって六割の家しか建てられない、四割は空地で置けと、まあこういう制限がかかるわけでございましょう。あるいはそれを五〇%にする、こういう差はございますが、あの場合、あの地区に住宅地帯として指定することが市全体として望ましいか、緑地帯として指定することが望ましいか、これは相当年月を予定いたしましたして考えることでございますが、その辺のことは皆さま十分御理解のあることでもございますので、その節には十分御検討をいただきたいと思えます。

それから、次に市長にお尋ねの平和町のこと、伊藤議員この関係については最もよく御存じのお方である。三十八年以来、私も数えられないほどの問題については、お話し合いをいただいておりますので、私から事務的な点お答えさせていただきます。

あの地区につきましては、少なくとも私は地区全体が非常な熱意をもってこられたと。それで御相談を実に数えられんほどやらしていただきました。ここに地区改良法というようなものをつかったと、この時点では私はわりあい御相談に参加させていただいてないわけでございますが、これはだんびらを振り回すというような考え方でなくって国の現在行なわれているやり方のうちで、市としてどういう方法をやれば一番ありがたいことであるか、市の負担が軽くなるか、国の金を多く使わしてもらえるか、こういう考え方から平和町の問題とも取り組んでもきたわけでございます。たまたま地区改良法というのがある、この手法を利用させていただければ、たとえば現在建設中の登城山に

この地区の方々に入っていただけるりっぱなアパートが建てられる、しかもこれに対して国が三分の二も補助をしてくれる、こういうものを利用できるならば、利用するだけ市としてはこの事業が進めやすくなり、助かるんだと、財政的にも。

したがって、これを利用してもらおうじゃないか、こういうことになったわけでございます、だんびらとは全く関係のない、しかも私どもは一応めどとして二年で事業を完成せよ、三年で完成せよと、こういうふうになっておりますが、決して時間的なものも制限的なものの考え方をいたしておりません。できるだけ地区の方々と御相談申し上げ、スムーズにいくように時間的にも決して制限的な考えを持ってゐるわけではございませんので、だんびらじやなくって、市が最も有利になるように国の手法を利用してもらって、こういうふうにお考えいただきたい、これも切にお願ひ申し上げますから、御了承いただきますようお願いいたします。

○副議長（渡部権太郎君） 伊藤議員。

〔伊藤太郎君登壇〕

○伊藤太郎君 ただいま御答弁を願ったんでございますが、庄司助役のおっしゃる御趣旨、私もよくわかるんでございます。

霞ヶ浦の住宅地問題につきましても、平和町の住宅問題につきましても、共通した点が私はあると思います。それは、理事者のお考えになる点、その点には非常に崇高なものがあっても、私がさいぜんから申しておるように皆さんとの、いわゆる市民の当該地区の皆さんとの間の了解というか説得、それが非常に不十分のためにいろいろな問題が繰り返され不徹底に終わっているような感じがします。そういう点を本當に打ち明けてお話しになることが、私はきわめて必要でないかと思うんでございます。

平和町問題につきましても、助役のおっしゃる点は私もよくわかるし、私も十分に存じておりますが、助役が直接平和町の皆さんと交渉なさるんではない。直接交渉なさる方々のそのお取り扱いが、私がさいぜん申し上げましたようなすぐに伝家の宝刀に触れるような点にくるものやから、事はますますめんどうになってくるんでございます。いわゆる保険の勧誘員のような説得力を発揮されて、そうしてその妥協点を見つけて、市民の幸福のために全力を上げていただくことを要望いたしまして、私の一般質問を終わることにいたします。

○副議長（渡部権太郎君） 坪井君。

〔坪井妙子君登壇〕

○坪井妙子君 関連質問といたしまして、霞ヶ浦地先理め立てに伴う工場誘致に対しまして、地元の問題のゆえをもちまして重ねて御質問申し上げますと存じます。

市長並びに理事者各位におかれましては、日夜本市の大いなる発展のために御努力いただいております御苦労に對しましては、心から敬意と感謝をいたすものでございます。しかし、市長が一方的に才三石油コンビナートの出現を宣言されまうとき、地元住民のいただきます不安感と不信感はそのばかりで、大きな断崖がありますこと見のがせない事実でございます。すなわち公害はもうごめんだ、才一才二の石油コンビナートにおいて、いまだに解決のつかない公害のおそろしさを三度霞ヶ浦において繰り返されるのではないかと不安が、市長の大構想に無条件で協力することを心よしとせず、市の経済的発展の犠牲になり、人柱たらしめようとされているごとくに感じ、あるいは裏に生命財産の侵害が近づいているごとくに感じ、不安の底におります霞ヶ浦町及び羽津、富田の住民に対し、数回の説明会で事終われりとお考えになっているのではないかと案じられる節がございます。この市民の不安感除去のためにいまだし親切に市民に働きかけていただくべきであると存じますが、対策がございましたらお伺いいたしたいと存じ

ます。

オ二点。かりに公害基本法等に基づいて、公害発生工場ではないという見通しにより誘致されました工場においても、予想に反し公害を発生し、あるいは爆発その他の災害を出しました場合、だまされた住民が悪いのだと泣き寝入りになるのではないかと心配に対し、市長は市民の前に明白な覚え書きを誘致工場との間に交換する用意があるかどうか、お伺い申し上げたいと思います。

オ三点。昨日来御説明によりまして霞ヶ浦町の住宅地が一方的に工場専用地区に用途指定されました昭和三十七年の決定の不合理的を、緑地帯に御変更の御意向と伺い、なお行政指導の面で住宅を圧迫することのない旨をお聞かせいだきましたのでございますが、都市計画法による用途指定の中には緑地帯の補償はなく、また、防災緑地の場合は上級官庁の決定によっては、即日撤去等の方法が打ち出されることがあるやに伺い、正当な評価による財産権及び居住権を侵害されるのではないかと不安が、埋め立て問題にからんで一そう動搖いたしているのでございます。緑地帯になりました場合、建坪率その他霞ヶ浦住宅地帯に不利益を及ぼすことはないか。あるいは工場専用地区の用途指定から除去し、市長の名において利益侵害をしないというお約束がいただけるかどうか、議場においてはつきりとお答えを賜われればしあわせてございます。よろしくお願いいたします。

○副議長（渡部権太郎君） 暫時、休憩いたします。

午後零時五分休憩

○議長（中島忠勝君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

午後零時四十三分再開

市長。

〔市長（九鬼喜久男君）登壇〕

○市長（九鬼喜久男君） 霞ヶ浦埋め立て地の件でござりますが、私はこの過去の公害、あるいは災害等のいろいろの経験にかんがみまして、この過去の体験並びに教訓というものを足場にいたしまして、四日市全体の姿、また、四日市の将来の姿、すべてこの姿の中には市民の福祉、あるいは企業の動向、あるいはまた自治体の動きというものがすべてを含めまして全体の姿、将来の姿から判定をいたしまして、埋め立ての事業を開始したいと考える次第でござります。

なお、公害発生、あるいは災害発生に伴う場合に企業に対して補償するような保証書、あるいは契約書をかわすなにかがあるかどうかという御質問でござりますが、霞ヶ浦等に進出してまいりますところの企業が、もしもきまりましたならば、そのような企業に対しましては、すべてそのような公害が発生した場合に対する保証書に対しましては、保証書を取りかわしたいと考えておる次第でござります。

霞ヶ浦緑地帯住宅地の緑地帯変更に伴うところの住宅地住宅に、不利益があるのではないか、不利益にならぬかというところでございますが、緑地帯の中に住宅があっても差しつかえないこととございます。ただ、そういうような不利益にならぬようにするというようなお約束は、書類ではできないと思いますが、ともかく霞ヶ浦の住宅地が不利益にならぬことをお約束できると思います。

○議長（中島忠勝君） 坪井君。

〔坪井妙子君登壇〕

○坪井妙子君 ただいまは市長からたいへん御丁寧にお答えいただきました。まことにありがとうございました。

羽津の住民がただいま受け取っております市の姿が、企業優先であり、住民福祉をあとにしているような受け取り方をいたしておりますので、どうぞこのような点につきまして、十分御配慮を賜わりますようお願いいたします。質問を終わります。

○議長（中島忠勝君） 大島君。

「大島武雄君登壇」

○大島武雄君 私は公明党を代表いたしまして、通告しております六問について順を追って質問をいたしたいと思います。ただし、きのうから同僚議員の質問もあって、できる限り重複を避けたいと、このように考えております。だが一部重複する点もあるかもしれませんが、御了承をお願いしたい、このように思います。

通告の才一問ですが、税外負担の軽減について質問いたします。

すでに公明党は過去数回にわたって税外負担の軽減を叫んでまいりました。近年とみにわが国の推移として、教育費等の負担の増加が指摘され、また、その解消が強調されている昨今であります。私たちは税金の負担ばかりでなくあるときは消防に関する寄付、PTA会費、町内会費等の公課を負担し、さらに学校施設の地元負担や道路工事等の税外負担が非常に重いのであります。国民所得の上昇もあったにせよ、その反面、物価の上昇が著しいものがあります。

したがって、実質生活面では非常に苦しい現状にあるのが事実であります。最近の新聞にも出ておりましたが、中小企業の倒産がまた多くなっていると報道されております。このような生活苦の中にあつて、税外負担は特に教育費等は過重であらうと考えます。したがいまして、これらの負担の問題を解消しなければならぬと、このように思うわけであります。

その才一点として、国庫負担の増額の確保に全力を上げるべきであると思うが、市長はどのようにお考えか、お答え願いたいと思います。

現在、父兄はPTA会費、給食費、あるいは教材費、燃料費等、教科書代、教科書代は一部無償になっておりますけれども、各種の教育費のすべてを負担しているのが現状であります。さらに学校建設、プールの建設等のために多額の寄付をもって父兄の生活を強く圧迫しているのが現状であると思われまふ。こうした教育費の負担は、憲法の才二十六条に反しており、これら一切徹底することが肝要であらうと信じます。したがいまして、これら教育費は全額国庫負担にすべきである。子供の教育の向上という美名に隠れて市・県・国の政治の欠陥を市民の生活に負いかぶせていることは、まことに遺憾に感ずる才であります。そのような点から申し上げておりますので、市長の国庫負担金の増額を確保していただきたい。その御決意をお伺いしたいわけであります。

才二点につきましては、教育費の中に特にPTAの体質改善、または理事会の体質の改善が必要であらうと思われまふ。ある学校のPTAにおきましては、数十万円の赤字を出されております。また、これらのことを考え合わせるに、これは学校をよくしたいと、そういう熱意であるということとは十分察知できるわけでありまふけれども、一部これらは行き過ぎではないかと、このように存ずるわけでありまふ。このようになるには、幾多の問題もあらうかと存じまふが、このような現状にあることを市当局、または教育委員会において何らの指導もないように感じております。特に最近になって、学校の記念事業としてPTAから費用を寄付させ、また、その目標に達しないために自治会を通じて寄付を取っているこれらの問題を、教育委員会、または市長は御存じなのかどうか、この点をお伺いしたいわけでありまふ。

さらに、去る九月の議会におきまして教育長は、そのような寄付の場合はかならず教育委員会に相談をしたらうで

そういうお答えがあったわけですが、これらのような学校の記念事業についてのPTA、あるいは自治会等の寄付について御相談があったうえでやらせてるのかどうか、その点のお答えを願いたいわけであります。

これらに類似する問題は山積しておりますけれども、これらのいわゆるPTA団体、あるいは自治会という団体についての指導は、だれが責任をもって行なわれるのか。たびたび申し上げて答弁があることは任意団体であるからなかなかむずかしい、と申されておりますけれども、いわゆる市民の中にいろいろな問題があるわけでありますので、市の最高責任者としてどのような方法で、これらの問題を納得させ理解させていく方法を取ってよいが、その点についてお伺いしたいわけであります。

次に、才二問に移ります。公災害に関する諸問題についてお尋ねいたします。

きのう、きょうにわたっていろいろと公害の問題等についてお答えがありましたので、できうる限り省きたいと思いますが、才一点の発生源対策については、先ほど伊藤議員からの質問がありました。市当局としてのいわゆる発生源に対する計画、あるいは具体的なその進め方についての動き、指導もできれば御報告をお願いしたいわけであります。

それから、企業側については、先ほど市長からもお話しがありましたが、さらに具体的な計画の立案がなされているやに聞いておりますので、その点の報告もお願いしたいと思います。

次に、現在の公害の問題の状況をながめてみしても、ほとんど県はノータッチという形が多いように感ぜられます。したがって、これらの発生源対策についての県の動き、指導もできれば御報告をお願いしたい、このように思います。

特に企業におきましては、最近経済の不況によりまして中小企業の倒産が目立っておりますが、その新聞等に

よりますと、約一千万以下の会社に倒産が多いといわれております。このような現状にかんがみまして証券会社の動きから考えましても、非常に企業側はいま公害の防止の設備をあまりやっていないというような声さえ聞えております。今日に至りましても、やはり悪臭や亜硫酸ガス等の鼻をつく臭気が非常に最近では多くなっておるような現状であります。したがって、市長は公害の防止は煙突を高くすればそれではよいのであると、このような考え方が多いように感ぜられます。これだけでは決して公害の防止に役立つということではないと思います。したがって、先ほど申し上げましたその三点についてお答えを願いたいと思います。

才二点目は、公害患者の現状に伴い、現在の状況、あるいは経費はどのくらい実施されておるかという点でございます。先般も厚生大臣が当市へこられましたときに、いろいろと発表され、指導もされておりますけれども、どれだけそれが実施されておるかという点については、非常に疑問がありますので、その点についてもお答えを願いたいと思います。

現在、公害患者の中にも生活が苦しいために、昼仕事をしている人もあると聞いておりますけれども、このようなことは、いわゆる国・県からの生活の保障が十分なされていないという点からくるものであらうと存するのであります。したがって、これらの生活の保障については、あるいは患者の治療費の国庫負担というものについて、市長はどのようにこれから獲得をしていくかという点についてお答えを願いたいと思っております。

さらに、早く治って正月はですね、家で過ごしたいという気持ちが多いのであらうと、またそういうこともかねがね聞いておりますけれども、現在は退院もできないような状態であります。このような精神的にも、あるいは物質的にも被害を受けているのが実情でありますが、その被害者から補償が請求された場合、どこへそれをもっていけばよいが、市長のお考えを教えてください、このように思います。

次、才三点。学校における公害対策の現状は非常に他の都市に比べて発展の度合いが強いわけでありまして、非常にこの点は喜んでいるわけですが、さらに来年度の計画はどのようにお考えになつていらっしゃるか、この点について計画がありましたらお答え願いたいと思います。

平和町の問題については、先ほど伊藤議員からも質問がありましたので省きますけれども、どうか市長が申されたように十分地区民と話し合いをしたらうえて地区民が十分納得して、喜んで協力できるところまで市のあたたかいですね、この志を向けていただくよう強く要望したいと思います。

才四点には、霞ヶ浦地先の埋め立てのごさいますが、先ほど質問がありましていろいろ市長の考え方はこのようにあろうかと考えます。いわゆる石油コンビナートにするけれども、公害を起こさない条件で誘致するという考え方で解釈してよろしいか、この点についてお答えを願いたいわけでありまして。

最近の一部の市民の声からして、わが四日市の市長は市民の市長でなくて企業の市長になるのではないかと、こういうような心配をしている人さへあります。このことのないようにあくまで市民の市長であつていただきたいということを強く要望するわけでありまして。

次、才三問に移りまして、住宅問題についてありますが、公明党が今日まで主張しております一世帯一住宅の現にありますが。現在国におきましても、一世帯一住宅の実現を目指して計画を進めておりますけれども、当四日市におきましても当然その計画は進められ、都市改造及び都市計画の中で立案されていると思う次第であります。したがって、一世帯一住宅のことについてどのように具体的になさつていらっしゃるか、お答え願いたいわけでありまして。

特に、その計画の中にはもちろん低所得者に対する住宅も、あるいは厚生部関係の住宅も含まれてくると考えられ

ますが、そのような状況下にあつて、現在の当市の機構では十分その対策が講ぜられないであらうと、このように考えるわけがあります。この機構を昇格させて住宅課にすべきであると、そしてこの一世帯一住宅、これを具体的に推進できるものと考えますが、市長はその点どのようにお考えか、お答えを願いたいと思います。

次、才四問。福祉厚生問題についてであります。この問題は、われわれの日常生活には多くの不幸がつきまといっており、また将来にもいろいろ不安が生じておりますが、こうした不安をなくし、市民の生活を安定させる社会保障の理念は、憲法才二十五条に規定されているとおり、国民のすべてが健康にして文化的な最低限度の生活を公正に、また公平に保障されることにあると思う次第であります。わが国の社会保障制度は国際水準と比較すると、はるかに立ちおくれている感があります。国民所得に対する社会保障費の割合いを見ますと、昭和四十年で約六％、昭和四十一年度は約六・三％くらいであると推定されております。これをヨーロッパの平均は一〇％以上、あるいは西ドイツやフランスは一七％という水準と聞いております。そのような状況からみてもわかるとおり、当市においても十分な保障がなされるよう最大の努力をお願いしたいと思うわけでありまして。

この観点に立って、去る九月の議会におきましても公明党は質問いたしました。市長の答えによりまして、養老院も、また身体障害者の施設も考え善処したいということでありましたが、その後どのように進めておられるのか、市長にお尋ねをしたいと思います。

才二点は、生活保護世帯に対して、また、それに類似する世帯に対してこの正月に当市のあたたかい気持ちで、何らかの形で少しでも楽しい正月を迎えられるようになされておるかどうか、お伺いしたいわけでありまして。

次に、才五問。衛生問題については、きのうからの質問が出されておりますので、次の点について要望したいと存じます。

一つは、くみ取り料の、し尿処理の問題でございますが、最近一部の業者におきましては、くみ取りをする前に水を入れさせてくみ取りしているところがあると聞いております。また領収証を発行してないというところもあると聞いております。このような点については、十分市当局からの指導をお願いしたいと思うわけであります。また、ごみの収集の件についても、桜におきましてりっぱな協力を得るよう他に他の町村にも十分市から協力方を要請し、さらに市当局としても最大限のこの収集ができますように最大の努力をお願いしたいと思っております。

次に、才六間について。交通災害の問題についてお尋ねいたします。

去る六月の議会と考えておりますが、最近の交通事情を見ましても、事故者が相当ふえております。この点について、公明党として交通災害保険というようなものを作ったかどうかと、このようにお尋ねしましたところ、市長はまことにいいことである、できうる限りそれを実現したいという答弁があったかと記憶しておりますが、その後どのようになされたかを具体化されておりますか、その点お答え願いたい。以上。

○議長（中島忠勝君） 市長。

〔市長（九鬼喜久男君）登壇〕

○市長（九鬼喜久男君） 大島議員の御質問にお答え申し上げます。

まず、才一点の税外負担軽減に関連いたしましたして、国庫負担の増額の要求をしておるかということでございますが、国庫負担のあるものは、たとえば危険校舎であるとか、あるいは体育館であるとか、その他理科教育の実験器具であるとか、対象がきまっておるわけでございます。したがって、そのような対象になるものについては、できる限り補助をいただきますように、そしてまた、新築等につきましても起債ができますように、努力をいたしておるわけでございます。

ただいま問題になっておりますところの、塩浜中学等につきましても、公害に関連をいたしましてそのような例が皆無だそうでございますが、産業公害によるところの補助をいただけるようにただいま運動中でございます。教育長の話によれば、かなり見込みがあるとの話でございます。なお、PTAの寄付金の件でございますが、これはいろいろ報道機関によっても報道されご迷惑をかけ、申しわけないと思っておりますが、やはりPTAはPTA本来の使命もございまして、やはりPTAとしての社会教育的な面でご自分たちがそのPTAの体質改善のため、あるいは教養の増進のために、あるいはまた社会連帯観念の拡張のためにみずから充実させるということが本来の姿ではあると思いますが、いろいろ需用費等の面におきまして不足がございますために、御迷惑をかけとる次才でございます。ただ寄付金につきましては、教育委員会からも十分注意を喚起してございます。したがって、寄付金につきましては、強制を伴わないように、自由な形で社会において許容される限度にいたいただくことを申し上げるとる次才でございます。昨日の答弁にも、教育長の答弁にも立て型ピアノのよいものよりもランドピアノを買うというような点につきましては、学校当局並びにPTA等につきましても考え方について御注意をしたいと思います。次才でございます。

なお、私の答えて足りません点につきましては、教育委員会からお答えさせていただきます。

二番目の、公災害に関する問題でございます。市当局の公害に対する具体的な対策の進め方というお話でございますが、ともかく再三申し上げておりますように、市につきましては工場、あるいは公災害につきまして勧告する権限も何もないのでございますが、われわれも事情やむを得ないという立場から、工場にもお伺いし、本社にもお伺いして、先ほども申し上げましたような発生源対策といたしましては、大気汚染に伴うところの拡散的なもの、あるいは二番目といたしましては降下ばいじん、スモッグ対策、才三番目には悪臭対策というようなものを分けて、具体的な

考え方をいたしとる次才でございます。

企業側もいろいろ努力はいたしておると思いますが、企業側のただいまのいろいろの対策につきましての資料は持ち合わせておりません。

県の公害に対する指導の方針でございますが、これは御承知のように県の保健所を通じてパトロールカーによっていろいろしておる次才でございますが、先ほど申し上げました悪臭のガスプロマトグラフを最近買い入れて、悪臭に対しても県も積極的に対処するというところでございます。また、御承知のように四カ所に測定器を置きまして、それが保健所において観測されるようになってくる設備ができましたことも御承知のとおりでございます。

才四番目に、公害患者の経費の分担の問題でございますが、ただいままで市の予算において公害患者の経費として執行されましたものは、約七百万円ぐらいと承知をいたしておりますが、厚生省も熱心に当市にまいてもらっていろいろ対策を講ぜられたわけでございますが、国の考えておる負担金は約百万円ぐらいでございます。金額的にも非常に些少なものであらうとわれわれは考えまして、さらに国にそういうことのないように要望しとる次才でございます。なお、生活の保障、被害者の補償等の関連でございますが、生活の保障ということは非常に一地方自治体、あるいは県の段階においてもこれは非常に困難な問題でございます。生活保護法の適用を受けていただくということ以外には、ただいまの段階では処置がないのではないかと申う次才でございます。

なお、ぜんそくというようなものにつきましても、この病気の特殊性から一般的な、非常に一般的普通にある病気である、どこまでそれが公害によるものであるかということの認定というものが非常にむずかしいということは考えられるわけでございます。この点につきましても、判定が非常にむずかしいのではないかと申う次才でございます。十一月末の入院患者は、ただいま三十七人、入院を要する者が三十七人でございまして、通院者は二百八十八名でございます。

でございます。

才五番目に、石油化学の誘致というものは、もう十分そういうものが対策を考えられているものであると思うがどうか、ということでございますが、ともかく石油化学につきましては、かねがねもう申し上げておりますように、石油化学については公害はないということを私はここでお答えいたしておるとおりでございます。ただ、石油工業、きのう御意見にもございましたが、ばく然と石油工業と申されますと、石油工業という概念は非常に広うございます。石油精製というものと石油化学というものの、あるいは原油の加工というような中小企業的なものを含めまして、この大体三つに分けて考えていただかなければ、石油というものをばく然とつかんでいただいたのでは、はっきりしない面があるのではないかと考える次才でございます。

才三番目の住宅の問題でございますが、一世帯一住宅の対策の進め方はどうかということでございますが、われわれは四日市市の住宅がただいま六千戸ないし八千戸というものが不足しておるといふ判断を下しておりますが、年々千二百、三百戸ぐらいを建てようというようないま検討をいたしておる最中でございます。

四番目の福祉厚生問題についてでございますが、身体障害者の草の実学園に關連いたす問題は、草の実学園の分園になるようにいま運動中でございます。

老人ホームにつきましては、新しく立地をしたほうがよいのか、あるいはいまの泊山のところを拡充したのがよいのかということをお願いする厚生部において検討中でございます。

生活保護世帯に対する配慮が、あたたかい配慮がなされるのかどうかということでございますが、この点につきましては、例年に従いまして処置をいたしたいと思っておりますが、何分所得認定にならぬような限度においておさめたいと考えておる次才でございます。

才五番目は要望でございましたので、御要望に沿うように努力をいたします。

六番目の交通災害問題の關係でございしますが、交通災害に伴いますところの共済制度につきましては、御承知のように松坂市が一人一円の掛け金によって実行いたしておりますが、われわれにおきましても川口市等の共済制度がすでに発足いたしておりますので、これについても研究をいたしておりますが、まだまだ研究を要する面が非常にたくさんございまして、大蔵省等におきましても共済制度でやるよりも、むしろ保険制度として発足したほうが基金の財源としても健全ではないかというような考え方でございまして、そういうまた大蔵省の見解を損害保険協会等にも指示をしておる段階でございしますので、いま直ちにこれを実施に踏み切るということは困難であろうかと思っております。なお今後ともこのような総体的な動きを見つめて対処いたしたいと考えておる次才でございします。

○議長（中島忠勝君） 教育長。

〔教育長（栗林武男君）登壇〕

○教育長（栗林武男君） 税外負担の問題について市長から御答弁がありましたので、教育委員会に関する点についてお答えを申し上げます。

九月に寄付行為等については事前に教育長は指導するようというておったが、記念事業が相当多くあったので、それらに対する寄付についてPTAなり自治会等についてどのような指導をしたか、というようなことであろうかと思ひます。

で、教育委員会といたしましては、寄付を受けつける手続きの段階におきまして、自治会なりPTAから校長に申して、校長から委員会に副申をつけて寄付の書類を送ってくると、こういうような形になっておりますが、そういう形式の問題じやなしに、事前に私どもの考えておりますことを申しますというと、寄付の動機、純粋に教育的に考えて動機がどうかという点とか、あるいは金を集める方法において適切であるかどうか、あるいは寄付の品目においても教育委員会が当然まかなうべきものか、あるいはそうでないものか、あるいは今後予算的に配慮すべきものであるかどうか、そういうような面を検討しまして、事前に指導をいたしておるつもりでございします。

したがいまして、あのことを申したあとにおいてそう大して無理な、あるいは寄付の動機についても不純だというようなものはなくなってきたのではないかというふうに考えておるわけであります。

○議長（中島忠勝君） 大島君。

〔大島武男君登壇〕

○大島武男君 税外負担の点について、いま市長と教育長からお答えがあったわけですが、国庫負担の件については、市長は努力しているということとで了解したいと思ひます。さらに、一步を突っ込んで現在各所でこういう税外負担等の問題が起きておりますので、十分これを考慮されて、さらに二段と国庫補助の増額を獲得できるように要望しておきたいと思ひます。

それから、いま教育長からお答えがあったわけですが、現実にこの記念事業の中におきましては、記念式典に五万円、校史刊行で十万円、テレビ設置十五台各教室八十五万五千円、雑費四万五千円、計百五万円というものがあつた学校におきまして、この学校の創立記念事業として行なわれるように計画されております。きのうの教育長のお答えにもありましたけれども、義務教育として基本的なものを考え、その問題についてはできる限りPTAからのあれを取らないようにするというような意味の答えがあつたかに記憶しておりますが、その教育長の考えていらつしやるその基本的なものの中に各教室にテレビが必要かどうか、これが含んでいるかどうかですね、この点についてお答えを願ひたいわけでありします。当然近代的に、しかもいろんな面で何台かは必要かもしれないけれども、各教室

にということについては若干その疑問があるようにも考えられますので、その点もう一度お答えを願いたいと思います。

才二間の公災害の問題に関しては、昨年まではいろいろと企業の発生源対策の計画を聴取し、あるいはその具体的な進め方について市当局も相当力が入っておりましたが、ことしになってからあまりそのような傾向も薄いように感じられます。したがって、先ほど申し上げましたようにいろいろと経済の動向をみましても、なかなかこの金融面等におきまして深い関係性があって、なかなかその発生源対策の事業がある程度煙突に集中されているかに考えられます。これらの問題については、伊藤議員も質問しましたので省略いたしますけれども、その他の問題については、十分これを県と協力し、国にも責任を持たせて企業の発生源対策、これの急速な進行を立てるよう一段と努力をお願いしたい、これは要望にとどめておきたいと思います。

次に、先ほど質問いたしましたことが、このことについてお答えがなかったので再度御質問いたします。

公害に関する被害者からの補償を要求された場合、どこへもっていったらよいか、その市長の考えを教えてください。きたい、こういうふうに質問したわけですが、お答えがありませんでしたので、再度御質問をいたします。

それから、学校における公害対策の問題でございますが、先ほど御質問いたしましたけれども、その計画が発表されておられません。できうればこれをお答え願いたい、このように思います。

住宅問題については、十分いま進めておられるようではありますが、さらにこの住宅係を課に昇格できないかどうかそして住宅の充実をはかっていくべきである、このように考えておりますが、このお答えもなかったように思います。これもお答え願いたいと思います。

才四間の福祉厚生の問題の中については、身体障害者、あるいは養老院のことについては、大体了解をいたしてお

りますが、さらに充実をはかるよう努力をお願いしたいと思います。

保護世帯の正月にあたたかい手を、ということで御質問いたしましたことが、昨年どおりというような考え方でありましたが、物価も上がるし、また最近においてはたばこの値上がりも予想されておりますが、こういう今日におきまして、昨年どおりということは非常にかわいそうにも思いますし、気の毒にも思います。いままで市長の方針でまいりますと、ほんとうに市民の代表ということで、そういう考え方をもち私もまいりましたし、そのように信じておりましたが、いまの答弁で去年どおりということでは若干期待に反するように考えられます。さらにこういう関係の人は非常に不幸な方ではありますがゆえに、特別な御配慮をお願いしたい。もう一度くどうでありますか、何とかできないかという気持ちで質問しているわけありますので、お答えを願いたい。

それから、才六間の交通災害の問題でありますが、これは市長も力を入れておられるように思いますので、できる限り早期実現できますように、これも要望しておきたいと思えます。

以上、再び質問いたしました点についてお答えを願いたいと思えます。

○議長（中島忠勝君） 教育長。

「教育長（栗林武男君）登壇」

○教育長（栗林武男君） 再度の御質問にお答えをします。

昨日申し上げましたように、現在きわめて教育に対する父兄の関心が高まっておりますし、同時にそれに対応して学校もまた教育水準を高めようという努力を払っているわけであります。そのようなことから、非常に教育費の負担というような問題が起きてきていると、そういうふうに考えます。で、私が申します基準というのは、たとえば学校図書においては高等学校において七冊とか、一人七冊とか、あるいは中学校において四冊とか、まあ一応の基準があるわ

けであります。その基準に達するまでは、やはり公的な一つの経費でまかなうべきもののようによ考えます。しかし、それ以上の要望というのは、上限がこれをおさえることができないわけでありまして、そういう意味での基準というのは、私は必要であらうと、こういうふうに申しておるわけでありまして。

そこで、テレビの問題ではありますが、そういう基準からどうかということになりますと、その基準を上回るような熱意があつて、しかもそれが純粋に教育的な配慮で寄付される、そして各教室に利用されるならば、その上限にのぼるものを規制するという意味ではございません。ことに記念事業というのは、九十周年とか、あるいは六十周年というような記念事業というようなものは、そうたびたびあるものではなく、当然これは一回のものであります。そういう記念のために自治会なり、あるいはPTAが寄付をなさるというようなことでありますれば、そういう記念の事業という性格から、そしてそういう基準以上のもので学校が十分な利用をするというようなことであるならば、それまで規制するのはどうかと考えるわけでございます。

○議長（中島忠勝君） 市長。

〔市長（九鬼喜久男君）登壇〕

○市長（九鬼喜久男君） 被害者の補償をどこに要求すればよいのかということでございますが、先ほど申し上げました、ぜんそくの病気の特性ということをお願いしましたのも、そのように公害患者というものが非常に複雑な所産であるということでございます。被害者ということばは、加害者があつてはじめて被害者ということばがあるわけでございますが、要するにその加害者というものがはっきりと断定することができないというわけで、被害の要求をどこへもっていくことがいいのかということでございますが、そういう非常に不特定多数なようなことになってまいりますので、世界にも例がないというような四日市市というのが、この公害患者の医療費の負担というのをいたして

おる次才でございますので、やはり病人については公害患者の認定をしていただいて、そのような医療費の補償をするということであらうと思います。

住宅課への昇格等につきましては、まだまだいままここで御報告できるだけの成案を得ておりませんが、考慮中でございます。いろいろ考えとる最中でございます。

三番目の、生活保護世帯に対する再度の件でございますが、これはある必要以上になりますと、全部所得認定とされます。生活保護費がけずられるだけのことでございますので、そのけずられない程度において、できる限りの対策を講じたいと考えると次才でございます。

○議長（中島忠勝君） 教育長。

〔教育長（栗林武男君）登壇〕

○教育長（栗林武男君） 先ほど学校における公害の対策というようなことについての御質問がありましたので、お答えを申し上げたいと思います。

学校における公害に対する対策と申しますというと、衛生部の公害対策課と十分連絡をいたしまして仕事を進めていく面というのがありますが、教育委員会といたしましては、そういう連絡をいたしてやってまいります以外に、環境衛生の調査というように、本年度においてそういう検査の器具を二組そろえて、来年度学校薬剤師会の協力のもとでそれぞれの学校について環境衛生の調査をずっと続けてまいりたいと。そのことによって学校に即応する指導を考えていきたいと、そういうことが一点であります。

さらに、生徒の保健体育という学習面を通して、積極的に体をきたえて、公害に対する衛生観念というようなものを養ってまいりたい、そういうように考えております。同時に、さらに不足しておりますところの小学校にお

きましては、空気清浄器等のさらに増加をいたしていくような、そういうような点を考へてる次才であります。

○議長（中島忠勝君） 大島君。

〔大島武雄君登壇〕

○大島武雄君 この税外負担の件につきましては、いわゆる地元の熱意があれば、これは早くいえばどこまでいってもいいんだというふうに取り扱われるわけですが、これではきのうも、あるいは前会に、九月の議事に答えられました教育長の意向というものと若干違ふんじゃないかというように感じております。これは何回もなことであるから、記念事業の場合はやむを得ないと、地元の熱意があれば仕方がないというように解釈しとるわけでありまして、かならずや同じような方法で、同じような方法をもって、いわゆる競い合うという、そういう面が非常に政治的な面が多くなってくるんじゃないかと。

こうなれば、問題はいろいろ起きてまいります。その問題の処理はどこでやるのかという点について、責任をはっきりしていただきたい。特に寄付をすることは、反対ということじゃございませんけれども、そのようにみんなが納得できるような方法を講じさせ、喜んでそれが事業を推進できるためには、いろいろ諸問題が起きた場合にどこへ訴えて行ったらいいのか、この点が明確にならないと、これはまずいんじゃないかと、このように考へているわけがあります。この点も、十分当局としても考慮されまして、一応書面では強制はしないと、このように書いてありますけれども、全体の文面の内容を考へてまいりますならば、やらざるを得ないというようなことまできております。こういう点について、十分ですね、当局も御考慮を願いたい、このように強く要望しておきたいと思ひます。

次に、公害の患者の、被害者の訴へについてのお答えであります。病人の面だけでお答えになつたわけですが、これはなかなか答えられない問題だろうと、このように思ひますけれども、いずれにしても、たとえば建築物

におきまして、相当被害のあることは目に見えてわかるわけでありまして。あるいは一部では農作物さえも被害をこうむつておるといふような市もあるわけでありまして、その辺のこともですね、十分市長は心にとどめられて、そしてこれからの発生源の対策に、あるいは患者のいろんな福祉の面に十分力を入れていただきたい、これを強く要望して、私の質問を終わります。

○議長（中島忠勝君） 酒井君。

〔酒井昌一君登壇〕

○酒井昌一君 議長から時間の制限を言われましたので、たくさん申し上げたいことがあるんですが、簡単に終わらしておきます。

二点申し上げたいことは、一つはもう一度繰り返すようでございますが、税外負担のPTAの会費でございますがPTAの会費で集まらないために、こんどは町内会にまた寄付を要請してきたというより強制したような形で、自分のかわいい子供を人質にして取り上げておいて、そうして寄付をしろというような形が非常に濃い状態でございますが、その点教育長はよく御存じであつたかどうかということ、市長もよくそれを御承知であつたかどうか。先般常盤小学校において新聞に載るような大きな問題ができたのにかかわらず、また一カ月二カ月そこでこのような問題が四日市市内に起きているわけでございます。その点明確に御返答願ひたいと思ひます。

それから、才六番目の交通対策でございますが、この前も市長が言われたように、ちようどきようは市長が市長になられて三百二十八日目でございます。（笑声）その間、交通件数はどうかといひますと、三千六百八件、死んだ人が六十一名、重軽傷者が二千三百四十五名きのうの十二月十三日現在。一日平均件数が十一件で、五日に一人死んでおります。それから、一日に七十人の負傷者。ところが市長は検討中検討中というばかりで、検討中の間にもまた交

通事故が起こり、死んでいく人なり傷する人がある。拳闘でも十五ラウンドで終わるわけでございますので、ひとついつまでもその検討中ということを使わないで、人口の減っていく松坂でさえもそのように交通事故に対して非常に熱意のある行政をやっておられるわけですから、人口のふえていく四日市市においては特に早く交通相談所なり、あるいはそういう機関を設けて交通事故をなくするとか、あるいは交通事故に対して早急に災害を受けた人に対して援助の手を差し伸べる、そういうことをひとつ市長に答えていただきたいと思います。

以上二点、お願いします。(傍聴席で拍手する者あり)

○議長(中島忠勝君) 手をたたいてはいけません。

市長。

〔市長(九鬼喜久男君) 登壇〕

○市長(九鬼喜久男君) PTAの会費の件で再度御質問を賜りましたので、お答えいたします。

PTAの会費だけでは、まかないきれないので、町内会への寄付金の要求があるということでございますが、われわれもそういう事実は十分承知いたしておりますので、十分そういう点についても配慮いたしたいと考えておる次第でございます。

交通事故に伴う補償の件でございますが、検討中検討中という答えばかりではもの足りんではないかということでございますが、それにつきましても、先ほど答弁申し上げましたとおりでございます。なかなか一円ぐらいの補償の積み立てでは十分なことができないと考える次第でございますので、検討いたしておる次第でございます。(笑声)

○議長(中島忠勝君) 教育長。

〔教育長(栗林武男君) 登壇〕

○教育長(栗林武男君) 酒井議員の御質問は、PTAの会員の中で会費を納めることができなかった者があったがその納めることのできない者のために自治会が負担した、そういう事実について知っておるかという御質問のように伺ったわけですが、実はそういうことについてまことに申しわけございませんが、存じておりませんので、またそういう事情についてもよくわかりませんので、十分事情を調査したいと、こういうふうに考えております。

○議長(中島忠勝君) 酒井君。

〔酒井昌一君登壇〕

○酒井昌一君 市長と教育長の御返答賜わったわけですが、市長のいうたことはばく然としておって、少しも真を突いていない、こういうふうな感じがするわけです。それで、PTAの寄付問題、あるいは町内の寄付問題ということは、一つの学校でテレビを教室で一つ備えたという場合に、もしくは学区が隣合わせにおった場合に、多くの学校はこのくらいにできておる、ところがお前ところの学校はテレビもないじゃないかというぐあいには、子供たちが競争する、あるいはひがんでくる、そういう点をひとつよく考えていただきたいと思います。そのために義務教育というのは無償であるがために、同じように義務教育はまた公平でなければいけないと思います。平等不公平であってはいけないし、公平不公平であってはいけないし、公平であり平等でなければいけないと思うわけです。その点を市長も教育長もよく考えて、そして今後のPTAの関係、あるいは町内の寄付問題については、寄付条例をつくるのか、そういうような考慮をひとつしていただきたい。ここでどうしていただきたという結論も出ないでしょうから、ひとつそれは要望とします。

それから、交通相談所についても、これも早急にひとつ実施をしていただきたい。こうやって私たちが審議をしている間にも、交通事故が発生しておるかもわかりません。どうか市長も、もう三百二十八日もたったんですから、ひ

とつその点をよく考えて、そうして御善処願いたい。

それから、もう少し時間がありますので申し上げたいことは、きのうは黄色の信号で助役がいわれた。市長もいわれた。ところが黄色の信号というものは、赤の次に黄色がつくんじやなくして、青の次に黄色がつくわけです。だから四日市の市の財政は青であつたわけです。ところが黄色の信号がつくのは、青の次に黄色がつくわけですから、ひとつその逆にならないようお願いしたいわけです。

それから、もう一つお願いしたいことは、昔から苛斂誅求は猛虎よりもこわいということがございますが、いま四日市市の場合は苛斂誅求というのは高い税金であり、あるいは税金のむだ使い、それからとらというのは交通事故、災害であるわけです。だから、そういう意味において市長、あるいは理事者の各位においては、どうか先般のように議會を輕視をしないで、そうしてひとつこゝろ然一体となって市政をやっていたいただきたい、このように思うわけでございます。

何にいたしましても、きのうときような一般質問に皆さん方が非常な熱心に御答弁を願つたわけでございますが、どうかその答弁の内容において、今後着々と実をもつて実施をしていただく、そのようにお願いしたいわけです。

きようは雪がふつておりますが、雪という字は市長のように螢雪の功成つて最高額を上げたその雪にも通ずるし、あるいはいろいろな問題をかかえて市長が失敗をやられたその雪辱の意味にそそぐというのも雪の字です。どうかきようは雪辱の雪というその雪になぞらえて、ひとつこれからの市政を私たちも一生懸命市長のためにやりますから、市長も全力を上げて戦っていただきたい、これらを要望して私たちの質問を終わります。

○議長（中島忠勝君） 以上で、一般質問は全部終了いたしました。
暫時、休憩いたします。休憩時間、五分。

午後一時四十五分休憩

午後一時五十三分再開

○議長（中島忠勝君） 休憩前に引き続き、會議を開きます。

日程才 二 議案才百五号昭和四十一年度四日市市一般會計補正予算（才四号）、ないし

日程才二十八 議案才百三十一号工事請負契約の締結について

○議長（中島忠勝君） 日程才二、議案才百五号昭和四十一年度四日市市一般會計補正予算（才四号）、ないし日程才二十八、議案才百三十一号工事請負契約の締結についての二十七議案を一括議題といたします。

御質疑がありましたら、御発言願います。

訓覇君。

〔訓覇也男君登壇〕

○訓覇也男君 保健衛生費について、お伺いします。

市長の提案説明にもありませんでしたし、さらには昨日部長からの答弁で水沢地区の問題について公衆衛生の問題など、助言指導すると、あるいは住民組織、地域組織をつくって指導するというような答弁があります。新年度からやるというようなことも、つけ加えられたようですけども、少なくともあれほどの問題が起こり、しかもあの地域からずっと下にかけては寄生虫、回虫など、もうすでに非常に多い地区であるということは、前々からわかつておつたことです。それに対して、この機会に当然計画的な指導をすべきだと思いますが、新年度からではおそ過ぎる。こ

の、いまの保健衛生費の中にそういうことが若干でも含まれているのかどうか、それについてお伺いしたいし、もし含まれていないとするならば、なぜ対策を立てなかったか、その理由をお伺いいたします。

○議長（中島忠勝君） 中山部長。

「衛生部長（中山英郎君）登壇」

○衛生部長（中山英郎君） ただいまのお尋ねの、水沢地区の指導費の件ですが、今会追加補正お願いした費用は、防疫面の費用のみの計上でございます。特別の指導費については含まれておりません。

きのう私は御質問に応じて一昨昨日、県の防疫調査委員会というものの発表した正文を見てないということを申し上げましたが、議会終了後席に帰りましたら、それがまいっておりまして、ゆんべ通覧いたしたところでございますが、これについては一応県の疫学調査班の写しが私の手元まで届いています。それにつきましては、総務衛生委員会において御説明申し上げる手配をしております。

で、現在の保健衛生費の中には、地区に対する指導費という項目はございませんが、既決予算内におきましては、すでに実施した地区におきましては、川島とそれから保々地区が回虫の保卵率が多いということで、これは本年度実施済みでございます。

で、何らかの対策をやれということでございますが、いまの水沢の時点、きのうきより起こっておるような時点を経験を集めておりますが、いま直接具体的にこの方法で処理をするというような考えは、まだまとまっております。特にまとまらない理由につきましては、特に当事者である病院側の態度並びに疫学調査班の指導事項というものが一応ございしますが、これを見ましても基本的な、抜本的な県の指示というものが触れておりませんので、さらにこれは改めてあのレポートを精読した以後、まず私どもの考え方は病院管理運営許可権限を持つておる県当局の態度とい

うものを聞きただしたうえさらに上司にはかってまた指示を受ける必要があると考えてます。また、市長も直接知事なり、あるいは県の衛生部長との会談も持たれておりますので、改めて御指示を受けたうえで善処したい、こういうふうに考えております。

○議長（中島忠勝君） 訓覇君。

「訓覇也男君登壇」

○訓覇也男君 埋め立てだとかコンビナートだとか、石油産業がどうだということも市の一つの仕事には違いないですけれども、地方自治体として一番やらなければならぬことは、住民のしあわせであり、あるいは住民の体をよくし命を長らえさせしわあせな暮らしをさせるといことが、地方自治体でやらなければ一体だれがやる。県の指示を受けるとか、あるいは病院問題とは切り離すといっているのうも答弁しておるにもかかわらず、このような責任は県にあるんだとか、あるいは県との調整をしてからというようなことでは、市民の要望にこたえるわけにはいかない。もっと的確に早くやるべきだと思います。

そういった意味で、たとえば方法としてはモデル地区でも設定して、金のかからんからん仕事からはじめるとかいった仕事からはじめるとかいったような、具体策がなければならぬと思いますが、市長はそれをやらせる気があるかどうかお伺いします。

○議長（中島忠勝君） 市長。

「市長（九鬼喜久男君）登壇」

○市長（九鬼喜久男君） 水沢地区につきましては、来年の四月に簡易水道も完成することでございますので、一応モデル地区の指定をするとか、そういういろいろな面でよく考えてみたいと思います。

○議長（中島忠勝君） 坂上君。

〔坂上長十郎君登壇〕

○坂上長十郎君 昨日来、各派の代表のりっぱな質問があり、それに対して理事者が答弁され、質疑応答が重ねられました。だんだんといよいよに市政が運営されることは、たいへんけっこうでございますが、やや理論的になったり要望にとどまってしまうのでございますことを、私は遺憾としたのでございます。そこで、私はこの追加予算の内容を分析いたしまして、これから二、三お尋ねさしてもらいたいと思いますから、ひとつどうぞよろしくお願い申し上げます。

今回の補正予算総額二億四千万円ほど計上されております。活字の上で読みますと、相当ぼう大なものになっております。しかし、内容を見るとですね、市民の福祉増進という点からいくと、まことにことは悪うございますが、微々たる感があるのでございます。そういう点についてお尋ね申し上げますから、担当の部長、あるいはまたのちほど助役、市長にお尋ねしますから、よろしくお願い申し上げます。

二億四千万のうちの大きな問題は、去る六日の全員協議会において了承した事項が約一億円あるのでございます。それから、前から問題になっておりました定時制の敷地の問題、進道路の問題が三千何百という予算でございまして、残るところは一億円でございます。このうちからさらにですね、人件費、報償費などを差し引きますと非常に少なくなってくるわけなんです。この点について私はたいへん心配している。昨日来、またついさきまでの質疑応答を見とりましても、現実と理論とが違っておることについて、私は非常に遺憾と思っておりますから、まず一に土木費を見ますと、土木費の予算はですね、補正予算は七千九百万ぐらい計上されておりますが、それは七千四百七十万ですか、これは緑地公園の費用でございます。差し引きますと何ほ残りますか。ことに土木費の内容を検討しま

すると、道路維持費が八十五万円ほど計上されております。この広い四日市の道路の維持費の問題、もちろん当初予算において相当予算化してございますから、それが余っておって、その足らんとところを八十五万の投資ならいいんでございます。きのうのわが会派の質問の中にもですね、年末年始におけるところの道路の補修できるのか、あるいは下水問題解決できるのかという質問があったんでございますが、それに対して御答弁があったんですが、担当の部長これでいかがでございます、十分やる御自信がありますのか、あるいはそれが何らかの方法がありますのか、それとも来年度大いにやろうとおっしゃるのか、ひとつそのことのね、御決意のほどを伺いたいでございます。

才二点、教育予算を見ますと、六千九百万の予算が計上されております。内容を見ますとですね、いま申し上げましたように七十七周年記念事業の体育予算が約三千万、設計費入れましてね。それから定時制の土地購入費その他問題三千四百万、合わせて六千四百万、引いたら何ほ残りますか。ところが、昨日来も先刻までもですね、もう教育予算の問題に対しては、ほんとうにもう何べんも何べんも繰り返されておるわけでございます。これで義務教育関係者の現場の方々、あるいはPTAの方々の御要望におこたえができる予算である、あるいはもっと要求したけれどももらえなかったとおっしゃるのか、ひとつ教育委員長ぜひこれに対して御答弁を願いたいと思うのでございます。

なお、こまかくなりますが、体育館の予算の問題の内容に触れます。設計委託料として一千三百十三万が計上されております。これごもっともでございます。これに対して千六百八十七万という工事請負費がここになされております。設計これからやって、請負い工事していくわけなんです、予算のつくり方どうかと思う。しかし、私は市長説明見ますと、厚生予算の融資の割り当てがあったんだから、これを計上しとかないといかないから、これは将来繰り越し金を予想してあげられたものかどうか。おそろくまだ設計のできていないものが、すぐ工事請負いになることはちょっとおかしいのでございますが、この予算構成の方法、将来についてのひとつはつきりしといってもらいませ

と、誤解を生むだろうと思いますからお尋ねするわけでございます。

次、農林水産業費の問題でございますが、ここには五百万足らず計上されております。このうちに百何十万かは特別会計のほうに繰り越しされておるわけでございますが、これで才一次産業従事者の要望が十分おこたえになる御用意があるのか、ことに耕地事業はこれからが事業をだんだんやっていく時期になるのでございますが、各地におけるところの土地改良の問題に関して、予算的に少しも御心配なく御自信があるのか、この点ひとつお伺いしたいわけでございます。

こまかくいくとまだたくさんございますけれども、ひとつお三人さんからお答え伺いまして、続いて財務当局ともいろいろと御意見を伺いたいと思いますから、どうぞひとつよろしくお願い申し上げます。

○議長（中島忠勝君） 三輪部長。

〔土木部長（三輪喜代司君）登壇〕

○土木部長（三輪喜代司君） お答えいたします。

土木費でございますが、ただいまの問題でございすけれども、当初工事請負費として八百五十万円市単のものを計上させていただきました。それに九月の追加で二百五十万、工事請負費としては現計千百万でございます。それから、それに材料費が三百万ございます。現計予算総額千四百万でございます。

これで来年の三月三十一日までに道路の維持管理が十二分にできるかということをお質問の趣旨だと思いますが、私たちが公務員でございますし、与えられた予算の中で、できる限りこれを有効に使ひまして、しかも経済効果を上げまして、市民の皆さま方に御迷惑をかけないように最善の努力をいたしたい。それで、まあ何と申しますか、非常にむずかしいんですが、人員等の関係もございすし、いろいろな関係からいたしまして、これだけいた

だいておれば大体いけるんじゃないかと（笑声、「大丈夫か」と呼ぶ者あり）、大丈夫かといわれますと、大丈夫という限界の問題もございまして、私たちがこれでまあ精一ぱいやったと思っておりますが、市民の方々からは御批判を受ける場合がございますし、この辺のこともございすので、そういう御批判を受ける場合でも、われわれとしては結局良心的に経済効果を發揮して最善の努力をしたと、こういうふうに認めていただけるように仕事をいたしたい、こういう覚悟であります。

どうぞよろしくひとつお願いいたします。

○議長（中島忠勝君） 教育委員長。

〔教育委員長（杉浦西太郎君）登壇〕

○教育委員長（杉浦西太郎君） お尋ねの点について、お答え申し上げます。

前日いろいろな議員の皆さんからおしかりを受けておりますように、税外負担の問題であるとか、あるいは寄付の問題であるとか、備品の問題であるとか足りないづくめというのが教育委員会の予算の現状のように思われるわけでございます。本年度の教育予算につきましても、当初予算で皆さんの御決議を得まして、おきめいただき、現在施行いたしておるわけでございます。この十二月予算におきます教育予算関係の総額は、約六千九百万ということでございます。

そのうち、ただいま御指摘のようにうち三千万は体育館関係、これは市制七十周年記念関連の予算で、教育委員会の予算というよりも、むしろ市全体の七十周年を記念した面からの予算のように思われるわけです。教育予算本来の意味も多少はあるかと思いますが、そういう面において教育委員会を通して市の予算が、全般的な予算が組まれているというふうな見方もできるんじゃないかと考えます。

そのほかの三千万円の定時制の敷地の問題でございますが、この予算も義務教育関係では全然ございませんので、それは本来から申しますと、県の関係の予算というふうになるわけでございます。残るところ約五百万ということに相なるわけでございます。それとても国庫補助がきまつてきた関係で、追加補正というお願いをいたしておるわけでございます。原則は、この当初に皆さん方の御決議でおきめ願った線で、原則としていままかなっておるわけでございます。

さようなわけで、皆さん方のおしかりを受ける点も多々各方面で出てまいって、前日来おわびを申し上げておるといふうな事情でございます。そういう点につきまして、皆さま方よく各方面でこまかい点にまでお気を配っていただきまして、おしかりを受けておりますので、来年の当初にはさようなことのできるだけないように、また皆さま方のこういう面におきます御熱意を予算の上にぜひ盛りたいと。われわれだけではなかなかその実現が困難でございますので、どうぞ金を持っておる面のほうへひとつ御鞭撻も願ひまして（笑声）ぜひお力添えをいただきたいと、お願いを申し上げます。

○議長（中島忠勝君） 総務部長。

〔総務部長（平井清三君）登壇〕

○総務部長（平井清三君） 体育館の予算の組み方について申し上げたいと思います。

先ほど市長の提案説明に、総事業約四億五千万、うち厚生年金積み立て金還元融資二億円として三カ年計画をもって、とこういう御説明を申し上げたんでございますが、この厚生年金の還元融資の二億円といひますのは、四十一年度に三千万円、四十二年度に一億円、四十三年度に七千万円こういった年次割りで借入れをいたします。この関係上、四十一年度の事業費といたしましては、一億三千万円を計上いたしましたして、そのうち四十一年度中に発注を終わ

ります設計の委託料、これとその残額を工事費のほうへ組んだわけでございます。

で、この工事費につきましては、年度末に明確に工事予算の御決議をいただきまして、明年度へ繰り越すと。その明年度はこの一億円の起債その他一般財源を入れまして、その差額の四十三年度に借入れ入れます七千万円につきましては債務負担行為、こういうことで御決議いただいて工事の発注をいたしたい、このように考えております。

○議長（中島忠勝君） 芝田産業部長。

〔産業部長（芝田敬太郎君）登壇〕

○産業部長（芝田敬太郎君） 農林水産関係お尋ねに、お答え申し上げます。

才一次産業の振興にこの予算でこたえられるかという問題でございますが、今回お願いをしております農林水産の予算は、近代化資金の融資利子の補給でございます。これは、私どもこの四十一年度は非常にこの近代化資金の利用が進んでまいりまして、これも全部耕うん機とかそういったものでなしに、前向きの温室とか製茶工場、機械とかいうことでございますので、今会いただきます予算をちようだいしますれば、農民の期待にこたえうる、こういうふうと考えております。

なお、御指摘いただきました耕地事業でございますが、この十二月の補正予算につきましては、私どもは八月と十月の集中豪雨に対します災害復旧を重点的にお願いをいたしております。そのみにしほってお願ひを申し上げます。それ以外でございますが、これは別の項の農業用施設災害復旧費千二百四十二万ちようだいをいたすことになつてます。それで、耕地事業に今後自信ありやということでございますが、私ども自身も、この災害復旧を重点施行いたしまして、来たるべき稲作時に間に合うようにやつてまいりたい、こういうことでございます。

なお、これで十分かという非常にありがたい、ちよつと困つたようなことでございますが、この問題につきましては

は、土木部長からお答え申し上げておりますのと私も同じ考えてございます。(笑声)

○議長(中島忠勝君) 坂上君。

〔坂上長十郎君登壇〕

○坂上長十郎君 三人さんから名答弁を受けまして私もどういうことやらと、また議員さんもちよっとにこにこしたお声が出るんですが、そこが問題でございます。

そこで、私は財務担当の助役にお尋ねするのでございます。いま、三人さんのお答えを聞いておりましたときに、あるいは、これは私の想像ですから間違えたら、私訂正いたします。もっと予算要求なされたのではないかとと思われる。ところが、ある事情で、これができない状態になったのではないかとこのことを心配するのでございます。なぜかなれば、この予算書ができておるのは先月の下旬もうできあがってる。六日のときには、もうこれが印刷になってわれわれに配付されておるのです。いいますと、七十周年記念事業の中で特別な金が必要、だから財源があるけれどもほかのほうの要求が少し困るからというのですね、昨日来皆さんから御心配になった行政水準の低下を防ぎたいという希望を持っておられるし、理事者もこれにこたえておられるんだが、それが如実に一部出ておりやしないかということをお尋ねする一人でございますが、ひとつ岩野助役、明快な御答弁をお願い申し上げます。

○議長(中島忠勝君) 岩野助役。

〔助役(岩野見斉君)登壇〕

○助役(岩野見斉君) 四十一年度の事業をりっぱに締めくくって、市民の皆さん方の多くの願いを果そうとされる皆さま方の昨日来から御熱心な追及を受けまして、私も何かこの寒空の中で裸で立たされておるような気がするんですがございます。何か苛斂誅求を受けとるような感じもするわけでございますが、私といたしましては、本年の当初予算

に年間の予算を組んだつもりでございますし、十二月の追加予算と申しますのは、いわばプラスアルファといったような補助的な意味でございますして、米年度の七十周年記念を意識して特にしほったという感じは、私はしておらんです。

それから、きのう来のいろいろな御要望につきましては、私は、これは次の年度に対する皆さま方の御要望なり、あるいはかくあるべきだとする御要求であろうと心して聞かしていただいとるような次才でございます。かような次才でございますので、決して私はあとを意識してしほったという気持ちはないので、皆さんも感じていただいたと思いますけれども、本年度の予算は当初に年間予算を組ましていただいたと。そのあとは補正的な意味でありまた当時きまっておらなかったものを、予定にある程度描かれながらきまっておらなかったものを計上していただいたという本当の補正の意味でございますので、皆さんにいろいろ御不満の点もあったと思えますけれども、どうかこういった点を御了承いただきたいと思います。

○議長(中島忠勝君) 坂上君。

〔坂上長十郎君登壇〕

○坂上長十郎君 あまり深追いし過ぎると、かえって逆の効果がありますから、私はもっと助役から具体的な答弁があると思うていたのですけれども、もうこれ以上は詰めないつもりでございますが、ただ一つよくお考え願いたい。追加予算は、岩野助役のおっしゃるようになりますね、当初において組まれたものの足りないところを補正する、当然でございますが、しかし、六月、九月二回にわたって各会派の代表の方から補正予算を組んでもらいたいような質問、要望は多々あったものだと思います。この点について私は非常に憂えているものでございます。

また、教育委員長並びに土木部長、産業部長の答弁のあの意味深長な中にも、私は予算は要求しているけれども財

政の都合上、私は押えられとるものだろうということを思い、他の議員も同感であろうと思うのでございます。こういう点におきまして、私は来年度の予算において、いま岩野助役が答えたように、きのう来の各会派の要望を十分におくみになり、きのうは市長は、来年度の予算を骨格予算だと御答弁になり、わが会派の藤谷議員の再質問に対して御訂正になりましたが、たいへんけっこうでございます。どうぞ将来の財政、決して安閑とはできませんけれども、これもまた岩野助役が述べられたように、あらゆる方法を尽して多くの自主財源の獲得につとめ、積極的な予算を組まれることを切に切に希望いたします、私の質問を終わります。

○議長（中島忠勝君）　ほかに御質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ほかに御質疑ありませんので、質疑を終結いたします。

議案才百五号ないし議案才百三十一号を、関係常任委員会に付託いたします。各常任委員会の担当部門は、付託議案一覧表によって御了承願います。

付託議案一覧表

（昭和四十一年十二月定例会）

◎総務衛生委員会

議案才一〇五号　昭和四十一年度四日市市一般会計補正予算（才四号）

才一条　歳入歳出予算中

歳入全般

歳出才一条　議会費

才二款　総務費

才四款　衛生費
才九款　消防費

才二条及び才三条

議案才一一〇号　昭和四十一年度四日市市立四日市病院事業会計才三回補正予算

議案才一一二号　四日市市役所出張所設置条例の一部改正について

議案才一一三号　四日市市職員定数条例の一部改正について

議案才一一四号　四日市市吏員退職料、退職給与金、遺族扶助料支給条例等の一部改正について

議案才一一五号　四日市市税条例の一部改正について

議案才一一八号　市立四日市病院事業の設置等に関する条例の制定について

議案才一一九号　市立四日市病院附属看護婦養成所設置条例の制定について

議案才一二五号　市の区域内にあらたに土地を生じたことの確認並びに町の区域の設定について

議案才一二六号　町及び字の区域の変更について

議案才一二七号　住居表示整備事業を実施する当市における市街地区域の編入及び当該区域における住居表示の方法について

議案才一二八号　町の区域及び名称の変更について

議案才一三一号　工事請負契約の締結について

◎教育民生委員会

議案才一〇五号　昭和四十一年度四日市市一般会計補正予算（才四号）

才一条 歳入歳出予算中

歳出才三款

才一〇款 教育費

議案才一〇七号 昭和四十一年度四日市市国民健康保険特別会計補正予算(才一号)

議案才一一六号 四日市市青少年問題協議会条例の一部改正について

議案才一二三号 土地の取得及び処分について

◎産業水道委員会

議案才一〇五号 昭和四十一年度四日市市一般会計補正予算(才四号)

才一条 歳入歳出予算中

歳出才六款 農林水産業費

才一款 災害復旧費中

才一項 農林水産施設災害復旧費

議案才一〇六号 昭和四十一年度四日市市競輪事業特別会計補正予算(才一号)

議案才一〇八号 昭和四十一年度四日市市と畜場食肉市場特別会計補正予算(才二号)

議案才一一一号 昭和四十一年度四日市市水道事業会計才二回補正予算

議案才一二〇号 四日市市水道事業の設置等に関する条例の制定について

議案才一二一号 四日市市職員給与条例等の一部改正について

議案才一二二号 水道事業管理者給与等支給条例の制定について

◎建設委員会

議案才一〇五号 昭和四十一年度四日市市一般会計補正予算(才四号)

才一条 歳入歳出予算中

歳出才八款 土木費

才一款 災害復旧費中

才二項 土木施設災害復旧費

議案才一〇九号 昭和四十一年度公共下水道特別会計補正予算(才二号)

議案才一一七号 四日市市営住宅管理条例の一部改正について

議案才一二四号 中央緑地(共同福利施設)の譲り受けについて

議案才一三〇号 市道路線の一部廃止について

日程才二十九 議案才百三十四号昭和四十年度四日市市一般会計決算並びに各特別会計等決算認定について

○議長(中島忠勝君) 次に、日程才二十九、議案才百三十四号昭和四十年度四日市市一般会計決算並びに各特別会計等決算認定についてを議題といたします。

御質疑がありましたら、御発言願います。(「なし」と呼ぶ者あり)

御質疑も別段ないようですので、質疑を終結いたします。

おはかりいたします。本案につきましては、各派から選出した十三人の委員をもって構成する決算特別委員会を設置し、これに付託のうえ、閉会中の継続審査といたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり」

○議長（中島忠勝君） 御異議なしと認めます。よって、本案については、十三人の委員をもって構成する決算特別委員会を設置し、それに付託のうえ、閉会中の継続審査とすることに決定いたしました。

○議長（中島忠勝君） 次に、ただいま設置されました決算特別委員会の委員の選任については、各派において御内定願っておりますので、委員会条例第五条才一項の規定により

渡部	榎太郎	君	伊藤	藤金一	君
安垣	勇	君	坪井	妙子	君
大島	武雄	君	伊藤	泰一	君
矢田	繁郎	君	山本	栄一	君
野崎	貞芳	君	加藤	定男	君
永田	利一郎	君	伊藤	藤太郎	君
山本	勝	君			

以上十三人を選任いたしましたと思います

これに御異議ありませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり」

○議長（中島忠勝君） 御異議なしと認めます。よって、ただいまの十三人の諸君を、決算特別委員会の委員に選任することに決定いたしました。

なお、委員長及び副委員長については、本日の散会后直ちに委員会を開き互選いただくようお願いいたします。

○議長（中島忠勝君） 次に、本日まで受理した請願及び陳情は、お手元に配付の請願及び陳情文書表のとおりであります。

それぞれ所管の常任委員会に付託いたします。

請願・陳情一覧表		昭和四十一年十二月定例会付託	
受理番号	件名	付託委員会	
請願才一四号	霞ヶ浦町住宅地帯を都市計画法による工業専用地区内より除去方について	建設	
才一五号	保々幼稚園園舎建築並びに保々小・中学校共用プール建設について	教育民生	
才一六号	霞ヶ浦地先埋立てに伴う公害発生工場の誘致反対について	建設	
才一七号	公害発生工場の誘致中止について		
才一八号	海山道町公会所設置について	総務衛生	
才一九号	市道羽津山線延長の促進と半完工個所の工事完成について	建設	
才二〇号	市道山ろく線（小杉町より山之一色町に至る）の改修について		

受理番号	件	名	付託委員会
請願才二一号	横断地下通路構築につき助成金交付方について		建設
陳情才三二二号	霞ヶ浦地先水面埋立て並びに石油化学工場の誘致反対について		建設
才三三三号	霞ヶ浦地先埋立てに伴う公害発生工場の誘致反対について		建設
才三四号	富田浜元町地内道路舗装ならびに排水溝設置について		建設
才三五号	航路標識等設置について	産業水道	
才三六号	地盤沈下に伴うかさ上げ工事施工について		建設
才三七号	総合体育施設早期建設について		建設
才三八号	日永地区内道路拡幅改良について		建設
才三九号	三重県立四日市農芸高校校舎改築等に対する助成方について	教育民生	
才四〇号	水沢病院の即時閉鎖について	総務衛生	
才四一号	市内市立小学校に十六ミリ映写機購入配置方について	教育民生	
才四二号	市立羽津幼稚園の増築について		建設
才四三号	近鉄八王子線の広軌拡幅と奥地への延長敷設について	建設	
才四四号	市立保育園の設置について	教育民生	

受理番号	件	名	付託委員会
陳情才四五号	勤労青少年ホーム設置について	教育民生	
才四六号	近鉄塩浜南七号路切りに地下道建設について	建設	
才四七号	富洲原地区に児童公園設置について		建設
才四八号	霞ヶ浦地先水面埋立て並びに公害発生工場の誘致反対について		建設

○議長（中島忠勝君） なお、目下教育民生委員会において継続審査中の学校法人三重県朝鮮学園設立の認可及び四日市朝鮮初・中級学校設置に関する請願は、取り下げの申し出がありましたから、御了承願います。

以上をもちまして、本日の日程は全部終了いたしました。

次会は、来たる二十一日午前十時から会議を開きます。

本日は、これをもって散会いたします。

午後二時二十八分散会

昭和四十一年十二月二十一日

四日市市議会议定例会會議録（才四号）

四日市市議会议

昭和四十一年四月四日市市議会议定例会會議錄 才四号

米 田 好 兼 速 記

昭和四十一年十二月二十一日(水)

○議事日程 才四号

昭和四十一年十二月二十一日(水) 午前十時開議

才一 議案才一〇五号 昭和四十一年度四日市市一般會計補正予算

(才四号) 委員長報告・質疑、討論、議決

才二 議案才一〇六号 昭和四十一年度四日市市競輪事業特別會計補

正予算(才一号) “ : “ “ “ “

才三 議案才一〇七号 昭和四十一年度四日市市國民健康保險特別會

計補正予算(才一号) “ : “ “ “ “

才四 議案才一〇八号 昭和四十一年度四日市市と畜場食肉市場特別

會計補正予算(才二号) “ : “ “ “ “

才五 議案才一〇九号 昭和四十一年度四日市市公共下水道特別會計

補正予算(才二号) “ : “ “ “ “

才六 議案才一一〇号 昭和四十一年度四日市市立四日市病院事業會

才七	議案才一一二号	昭和四十一年度四日市市水道事業会計才二回補正予算……………	〃	：	〃	〃	〃	〃
才八	議案才一二二号	四日市市役所出張所設定条例の一部改正につ て……………	〃	：	〃	〃	〃	〃
才九	議案才一二三号	四日市市職員定数条例の一部改正について…	〃	：	〃	〃	〃	〃
才一〇	議案才一二四号	四日市市吏員退隠料、退職給与金、遺族扶助 料支給条例等の一部改正について……………	〃	：	〃	〃	〃	〃
才一一	議案才一二五号	四日市市税条例の一部改正について……………	〃	：	〃	〃	〃	〃
才一二	議案才一二六号	四日市市青少年問題協議会条例の一部改正に つて……………	〃	：	〃	〃	〃	〃
才一三	議案才一二七号	四日市市営住宅管理条例の一部改正につて…	〃	：	〃	〃	〃	〃
才一四	議案才一二八号	市立四日市病院事業の設置等に関する条例の 制定につて……………	〃	：	〃	〃	〃	〃
才一五	議案才一二九号	市立四日市病院付属看護婦養成所設置条例 の制定につて……………	〃	：	〃	〃	〃	〃
才一六	議案才一二〇号	四日市市水道事業の設置等に関する条例の制 定につて……………	〃	：	〃	〃	〃	〃

才一七	議案才一二二号	四日市市職員給与条例等の一部改正について…委員長報告：質疑、討論、議決	〃	：	〃	〃	〃	〃
才一八	議案才一二二二号	四日市市水道事業管理者給与等支給条例の制 定につて……………	〃	：	〃	〃	〃	〃
才一九	議案才一二二三号	土地の取得及び処分につて……………	土	：	〃	〃	〃	〃
才二〇	議案才一二四号	中央緑地（共同福利施設）の譲り受けにつて ……………	〃	：	〃	〃	〃	〃
才二一	議案才一二五号	市の区域内にあつたに土地を生じたことの確 認並びに町の区域の設定につて……………	〃	：	〃	〃	〃	〃
才二二	議案才一二六号	町及び字の区域の変更につて……………	〃	：	〃	〃	〃	〃
才二三	議案才一二七号	住居表示整備事業を実施する当市における市 街地区域の編入及び当該区域における住居表 示の方法につて……………	〃	：	〃	〃	〃	〃
才二四	議案才一二八号	町の区域及び名称の変更につて……………	〃	：	〃	〃	〃	〃
才二五	議案才一二九号	市道路線認定につて……………	〃	：	〃	〃	〃	〃
才二六	議案才一三〇号	市道路線の一部廃止につて……………	〃	：	〃	〃	〃	〃
才二七	議案才一三一号	工事請負契約の締結につて……………	〃	：	〃	〃	〃	〃
才二八	議案才一三五号	四日市市職員給与条例の一部改正について…議案説明：質疑、討論、議決	〃	：	〃	〃	〃	〃
才二九	議案才一三六号	昭和四十一年十二月一日に在職する職員に支	〃	：	〃	〃	〃	〃

給する期末手当等の特例に関する条例の制定
について……………議案説明…質疑、討論、議決

才三〇 議案才一三七号 市道路線廃止について……………〃……………〃

才三一 議案才一三八号 市道路線の一部廃止について……………〃……………〃

才三二 発議才 一〇号 四日市港の港湾整備事業に対する国庫負担率
等の引上げに関する意見書提出について……………〃……………〃

才三三 発案才 一一号 水沢病院についての処理に関する意見書提出
について……………〃……………〃

才三四 委員会報告才一二号 陳情書審査結果報告……………採否決定

才三五 委員会報告才一三号 陳情書審査結果報告……………〃

才三六 委員会報告才一四号 陳情書審査結果報告……………〃

才三七 委員会報告才一五号 請願書等審査結果報告……………〃

○本日の会議に付した事件

才一 議案才一〇五号 昭和四十一年度四日市市一般会計補正予算(才四号)

才二 議案才一〇六号 昭和四十一年度四日市市競輪事業特別会計補正予算(才一号)

才三 議案才一〇七号 昭和四十一年度四日市市国民健康保険特別会計補正予算(才一号)

才四 議案才一〇八号 昭和四十一年度四日市市と場食肉市場特別会計補正予算(才二号)

才五 議案才一〇九号 昭和四十一年度四日市市公共下水道特別会計補正予算(才二号)

才六 議案才一一〇号 昭和四十一年度四日市市立病院事業会計才三回補正予算

才七 議案才一一一号 昭和四十一年度四日市市水道事業会計才二回補正予算

才八 議案才一二二号 四日市市役所出張所設置条例の一部改正について

才九 議案才一二三号 四日市市職員定数条例の一部改正について

才一〇 議案才一二四号 四日市市吏員退職料、退職給与金、遺族扶助料支給条例等の一部改正について

才一一 議案才一二五号 四日市市税条例の一部改正について

才一二 議案才一二六号 四日市市青少年問題協議会条例の一部改正について

才一三 議案才一二七号 四日市市営住宅管理条例の一部改正について

才一四 議案才一二八号 市立四日市病院事業の設定等に関する条例の制定について

才一五 議案才一二九号 市立四日市病院付嘱看護婦養成所設置条例の制定について

才一六 議案才一三〇号 四日市市水道事業の設置等に関する条例の制定について

才一七 議案才一二一号 四日市市職員給与条例等の一部改正について

才一八 議案才一二二号 四日市市水道事業管理者給与等支給条例の制定について

才一九 議案才一二三号 土地の取得及び処分について

才二〇 議案才一二四号 中央緑地(共同福利施設)の譲り受けについて

才二一 議案才一二五号 市の区域内にあらたに土地を生じたことの確認並びに町の区域の設定について

才二二 議案才一二六号 町及び字の区域の変更について

才二三 議案才一二七号 住居表示整備事業を実施する当市における市街地区域の編入及び当該区域における住居表示の方法について

才二四 議案才一二八号 町の区域及び名称の変更について

才二五 議案才一二九号 市道路線認定について

才二六 議案才一三〇号 市道路線の一部廃止について

才二七 議案才一三一号 工事請負契約の締結について

才二八 議案才一三五号 四日市市職員給与条例の一部改定について

才二九 議案才一三六号 昭和四十一年十二月一日に在職する職員に支給する期末手当等の特例に関する条例の制定について

才三〇 議案才一三七号 市道路線廃止について

才三一 議案才一三八号 市道路線の一部廃止について

才三二 議案才一四〇号 四日市港の港湾整備事業に対する国庫負担率等の引上げに関する意見書提出について

才三三 議案才一一号 水沢病院についての処理に関する意見書提出について

才三四 委員会報告才一二号 陳情書審査結果報告

才三五 委員会報告才一三号 陳情書審査結果報告

才三六 委員会報告才一四号 陳情書審査結果報告

才三七 委員会報告才一五号 請願書等審査結果報告

○出席議員(三十八名)

酒井昌一	北村与市	錦安吉	藤谷祐一	安垣勇	坪井妙子	岩田久雄	喜多野等	前川辰男	志積政一	伊藤太郎	鈴木次郎	宮崎春吉	坂上長十郎	中島忠勝	野崎貞芳	日比義平
------	------	-----	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	------

○欠席議員（二名）

○議案説明のため出席した者

市	助	助	収	市	総	税	産	厚
長	役	役	入	長	務	務	業	生
				長	部	部	部	部
九	岩	庄	川	谷	平	伊	芝	山
鬼	野	司	崎	沢	井	藤	田	本
喜	見	良	祐	文	清	涼	敬	軍
久	齊	一	男	男	三	一	太	一
男	君	君	君	君	君	君	君	君

伊 橋
藤 詰
信 興
一 隆
君 君

早 伊 山
川 藤 本
正 金
夫 一 勝
君 君 君

荒	矢	伊	須	大	前	加	山	高	笠	服	永	谷	訓	味	山	増	渡
木	田	藤	藤	島	川	藤	中	橋	田	部	田	口	霸	岡	本	山	部
武	繁	泰	総	武	宗	定	忠	伊	七	昌	利	專	也	一	米	英	樅
治	郎	一	太	雄	雄	男	一	祐	衛	弘	一	九	男	郎	一	一	郎
君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君

○市議会事務局

衛生部長	中山英郎君
土木部長	三輪喜代司君
建設部長	園浦和己君
副収入役	村木喜代次君
教育委員長	杉浦西太郎君
教育長	栗林武男君
市立四日市病院長	渡部一臣君
水道局長	城井義夫君
次長	滝井伝之助君
技術部長	加藤弘君
消防長	竹内鉄雄君
事務局長	菊地英也君

次長	岩谷剛君
議事係長	小坂靖君
主事	佐藤俊君
主事	芳野孝君

午前十時五分開議

○議長（中島忠勝君） ただいまから本日の会議を開きます。

本日の出席議員は、三十二名であります。

本日の議事につきましては、議事日程才四号により取り進めたいと思っておりますから、よろしくお願いいたします。

この際、御報告いたします。

去る十二月十四日の本会議において設置されました決算特別委員会の委員長に矢田繁郎君、副委員長に伊藤泰二君が互選により決定いたしましたので御報告申し上げます。

また、議事説明者中、教育委員長は裁判のため欠席いたしますので御了承願います。

日程才 一 議案才百五号昭和四十一年度四日市市一般会計補正予算（才四号）、ないし

日程才二十七 議案才百三十一号工事請負契約の締結について

○議長（中島忠勝君） それでは、日程才一、議案才百五号昭和四十一年度四日市市一般会計補正予算（才四号）ないし日程才二十七、議案才百三十一号工事請負契約の締結についての二十七議案を一括議題といたします。

本件に関する各委員長の報告を求めます。

まず、総務衛生委員長にお願いいたします。

坂上君。

〔総務衛生委員長（坂上長十郎君）登壇〕

○総務衛生委員長（坂上長十郎君） 総務衛生委員会に付託になりました議案才百五号昭和四十一年度四日市市一般会計補正予算（才四号）中、関係部分ほか十二議案の審査にあたっては、理事者より詳細な説明を受け慎重に審査を行ないました結果、いずれも妥当なものと認め原案どおり承認いたしましたので、以下、その経過と結果について御報告申し上げます。

まず、議案才百五号昭和四十一年度四日市市一般会計補正予算（才四号）中、関係部分から御説明申し上げます。

才一款、議会費の補正六百七十九万六千円は、本年四月からの議員報酬の改定による差額及びそれに伴う期末手当の増額分でありまして、別段、異議はありませんのでこれを承認いたしました。

才二款、総務費の補正三百五十一万八千円は、おもなものとして所得税の更正決定による市税の過納返還金並びに各種委員の報酬額改定による所要額であり、才四款、衛生費の補正一千三百三十一万八千円は、過般、水沢地区に発生をみました集団赤痢に対する防疫関係費と、これら患者の入院費のうち市費負担分の追加及び公共下水道特別会計への繰り出し金が計上されているのであり、特に、予防委員の報償金については他との均衡を失しないよう十分なる配慮をされたいとの意見がありましたほか、清掃費の清港会事業補助金については、新しく発足いたしましたものでありますので、補助基準を明確にされるよう要望し、承認いたしました。

才九款、消防費の補正十三万八千円は、消防団員の報酬改定によるものであり、別段、意見もありませんでしたの

でこれを承認いたしました。

次に、歳入については、歳出各款に関連した特定財源として才六款の県支出金に伝染病予防費負担金として、基本金百五十五万六千円の三分の二、百三万七千円。また、才八款に、寄付金六千三百五十一万四千円のほか、措置基準の引き上げに伴う国庫負担金等のほか、一般財源には固定資産税増収見込み分並びに前年度繰り越し金をもって収支の均衡がはかられているのでありまして、別段、異議なく承認いたしました。

次に、才二条及び才三条債務負担行為、地方債の補正につきましては、いずれも妥当なものとして承認いたしました。

次に、議案才百十号昭和四十一年度四日市市立四日市病院事業会計才三回補正予算であります。収益的収入五千二百十五万六千円、同支出四千七百八十一万七千円の補正でありまして、そのおもなものとしては、本日中に才三病棟が完成しますので、それに伴う職員二十四名の増員に要する経費をはじめ運営諸経費が計上されているものであります。当委員会としては、工事の完成と相まっています内部施設の充実をはかるとともに、特に、環境整備については、さらに近代的な総合病院として市民の健康保全に努力せられるよう要望いたしまして、本案を原案どおり承認いたしました。

議案才百十二号四日市市役所設置条例の一部改正については、塩浜地区の中里町が公称町名として告示が行なわれ塩浜出張所の所管区域に加えられたものであり、議案才百十三号四日市市職員定数条例の一部改正については、市立四日市病院の才三病棟の完成に伴う職員の増員であり、議案才百十四号四日市市吏員退職料、退職給与金、遺族扶料支給条例の一部改正については、恩給法改正の措置に準じて所要の改正を行なうものでありまして、以上、三議案は、いずれも原案どおり承認いたしました。

次に、議案第百十五号四日市市税条例の一部改正については、地方税法の一部改正する法律のうち、明年一月一日から施行されます退職所得の課税の特例を中心とした改正でありまして、その第一は、退職所得にかかる所得割の分離課税制度の創設であり、納税者のための合理化をはかったものであります。第二は、個人の市民税申告制度の合理化であり、申告書の提出期限を所得税の確定申告書の提出期限にあわせるよう改正するものであり、第三は、低所得者に対する本市独自の市民税の減免についてその対象者の範囲を拡大するとともに、分離課税制度の創設に伴う退職所得に関する部分の規定が整備されているのでありまして、これまた別段、異議なく原案を承認いたしました。

議案第百十八号市立四日市病院事業の設置等に関する条例の制定は、地方公営企業法の一部を改正する法律及び同法施行令の一部を改正する政令の公布に伴い、条例の制定及び改廃整備するものでありまして、特に、第三条経営の基本原則について論議がなされたのであります。すなわち、病院事業の設置の趣旨に基づき公共の福祉を優先すべきであるとの意見があったのであります。企業を経営性と公共の福祉については、ともに経営の基本原則であり、公営企業法の趣旨に沿って運営しようとするものでありますので、異議なく原案どおり承認したのであります。

議案第百十九号市立四日市病院付属看護婦養成所設置条例の制定については、地方公営企業法の一部改正に伴い現行の市立四日市病院条例を廃止しますので、地方自治法の規定に基づき公の施設として設置条例を制定するもので別段、異議なく原案を承認いたしました。

議案第百二十五号市の区域内に新たに土地を生じることの確認並びに町の区域の設定について、議案第百二十六号町及び字の区域の変更について、議案第百二十七号住居表示整備事業を実施する当市における市街地区域の編入及び当該区域における住民表示の方法について、以上、三議案については、別段、異議なく承認いたしました。

議案第百二十八号町の区域及び名称の変更については、住居表示整備事業により住居表示審議会の答申を得て変更

しようとするものであり、これについては今後とも新しい町名に変更するときは、できる限りわかりやすい簡単な町名にせらるよう要望いたして、本案を承認いたしました。

議案第百三十一号工事請負契約の締結については、別段、異議なく承認いたしました。

以上、簡単ではございますが、総務衛生委員会の審査結果の御報告を終わります。

何とぞよろしく御審議の上、御賛同賜わりますようお願い申し上げます。

○議長（中島忠勝君） 次に、教育民生委員長にお願いいたします。

水田君。

〔教育民生委員長（水田利一郎君）登壇〕

○教育民生委員長（水田利一郎君） 教育民生委員会に付託になりました議案第百五号昭和四十一年度四日市市一般会計補正予算第4号中、関係部分ほか三議案に対する当委員会の審査と結果につきまして御報告申し上げます。

当委員会は、去る十五日委員会を開会いたしまして、関係議案につきまして慎重なる審査を行なったのでありますが、いずれも妥当なるものと認め原案のとおり承認いたしました。

以下、一般会計補正予算第4号中、関係部分から順を追って経過の概要と要望のありました諸点について御報告申し上げます。

まず、歳出第3款、民生費の補正は、社会福祉費における国、県の支出決定及び措置基準の引き上げに伴う措置費等の追加並びに拠出年金の引き上げによる集金員報償金の引き上げ等と、児童福祉費、生活保護費における基準引き上げに伴う措置費等の追加がおもなものであります。

国民年金費につきましては、報償金の格差についての質疑がありましたほか、徴収制度について種々論議されたの

であります。当委員会といたしましては、現行制度を十分検討し市政の近代化と年金制度の啓もう普及のため、よりよい方向づけを決定されるよう理事者に強く要望いたしました。

また、児童福祉総務費におきましては、施設職員の長期欠席に伴う代がえ職員について、乳児院の公害対策等について質疑があり、施設職員の配置については、運営の適正を期するため、できる限り正規職員を配置されるよう要望するとともに、収容施設、特に、乳児院については公害防除設備の完備について県に対して積極的に働きかける等、市民の福祉行政に万全を期せられるよう強く要望いたしました次でございします。

次に、才十款、教育費の補正は、教育総務における四日市商業高校定時制の校地取得費及び教員住宅使用料の追加小学校費における高花平小学校給食室増築工事費、保健体育費における市民体育館建設のための初年度分がおもなものであります。

市民体育館の建設は、市民の永年の願いであり、このたび公害防止事業団事業として実施される中央遮断緑地内に市制七十周年記念事業の一つとして、総事業費四億五千万円をもって競技場面積千八百五十平方メートル、観覧席の収容人員、固定席二千五百人、競技場を自由席として使用の場合は五千人から五千五百人を収容できる体育館を、三カ年で建設しようとするものであります。

財源は、厚生年金還元融資二億円のほか国庫補助金が見込まれているのでありまして、実施設計発注後、約十九カ月でもって昭和四十三年九月に完成の予定であり、工事請負費中、本体の工事については明年度に明許繰り越しを行ないたい旨、理事者の説明があり、これを了として議案才百五号中、関係部分を異議なく原案どおり承認いたしましたのであります。

次に、議案才百七号昭和四十一年度四日市市国民健康保険特別会計補正予算才一号は、今回、被保険者の健康指導

と保険思想の普及をはかるため、新しく保健婦を設置するための諸経費及び過年度国庫補助金の返還等が計上されておるのであり、これが財源といたしましては、国庫補助金及び繰り越し金をもって収支の均衡がはかられているのでありまして、別段異議なく原案のとおり承認いたしました。

次に、議案才百十六号四日市市青少年問題協議会条例の一部改正については、根拠法律の改正に伴うものであり、議案才百二十三号土地の取得及び処分につきましては、県立四日市商業高 定時制の建設用地として、富田地区茂福地内一万六千二百二十平方メートルを二千七百十万円をもって取得し、三重県に寄付しようとするものでありましていずれも原案どおり異議なく承認いたしました。

以上、簡明ではありますが、教育民生委員会に御付託になりました関係議案に対する審査の結果報告といたします。何とぞよろしく御審議の上、御賛同を賜りますようお願い申し上げます。

○議長（中島忠勝君） 次に、産業水道委員長にお願いたします。
北村君。

（産業水道委員長（北村与市君）登壇）

○産業水道委員長（北村与市君） 産業水道委員会に付託されました関係議案につきまして、その審査の経過と結果について御報告を申し上げます。

まず、議案才百五号昭和四十一年度四日市市一般会計補正予算（才三号）中、歳出才六款、農林水産業費であります。農業費におきまして農業委員会委員及び農政審議会委員の報酬改正に伴う補正と、農業近代化資金融資の増加に伴う利子補給金の不足見込み額並びにウシカ発生による異常災害に対する防除農薬費の補助金と、水沢分場における簡易水道布設工事費を、また、畜産業費におきましては、と畜場食肉市場特別会計への繰り出し金が計上されたも

のでありまして、別段、異議はなかったのでございます。

才十一款、災害復旧費才一項農林水産施設災害復旧費は、去る八月及び十月の集中豪雨による復旧費で、補助事業につきましては、助金の交付が三カ年にわたります関係上、地元立てかえにより明年植付期までに工事を行ないたいというもので、同時に市単独事業費についても計上されているのでありまして、これまた異議がなかったのであります。

以上、議案才百五号中、関係部分につきましては慎重に審査の結果、いずれも原案を承認いたしましたのでございます。次に、議案才百六号昭和四十一年度四日市市競輪事業特別会計補正予算（才一号）は、逐次売り上げの伸展をいたしてまいりました車券の売り上げが、当初の予想をはるかに上回るに至りましたため所要経費その他を補正し、収益金は一応予備費に計上したいというのでありまして、異議なく原案どおり承認いたしましたのでありますが、事業の健全なる運営を期するため、特に、防犯については、関係当局と密接なる連携のもとに運営されるよう強く要望いたしました。次才であります。

議案才百八号は、昭和四十一年度四日市市と 場食肉市場特別会計補正予算（才二号）であります。今回の補正は、と殺件数の増加に伴う需用費及び備品費並びに豚の集出荷対策費の不足額等及び、と畜廃物焼却による悪臭除去のための焼却炉の 設改良費を追加計上したもので、これが財源といたしましては、と畜場使用料卸売り入市場使用料の増収見込み分、前年度繰り越し金その他一破会計からの繰り入れ金を充当し、収支の均衡をはかられているのでありますが、特に、焼却炉の新設については、その目的が十分に果たされる機能であることを確認の上、その取り扱い方を十分に研究し、維持管理に遺憾なきを期されるよう要望いたしまして、原案どおり承認いたしました次才であります。

次に、議案才百十一号昭和四十一年度四日市市水道事業会計才二回補正予算であります。収益的収入及び支出の減額四千七百一萬四千円と、資本的収入及び支出の増額一千七十五萬六千円の追加補正であり、その内容は、収益的収入及び支出におきまして、配給水施設の改修工事費等円滑な給水に必要な経費と住宅公団団地造成工事の計画年次繰り延べ等による、受託給水工事の収入及び支出を減額したものであり、資本的収入及び支出におきまして給水量の増加に対処するための水源施設取得費等を追加したものでありまして、それぞれ必要な措置と認め、別段、異議なく原案どおり承認いたしました。

次に、議案才百二十号四日市市水道事業の設置等に関する条例の制定について、議案才百二十一号四日市市職員給与条例等の一部改正について、議案才百二十二号四日市市水道事業管理者給与等支給条例の制定についての三議案はいずれも地方公営企業関係法令改正に伴う条例の整備でありまして、理事者の詳細な説明を求めて慎重審議を重ねました。その結果、それぞれ妥当なものと認めたのでありますが、管理者権限の強化による企業運営の健全化は、法改正の主要点であり、当市水道事業については、明年一月一日から専任管理者が置かれることとなりますので、法改正の趣旨を十分発掘して、本市水道事業の進展を計られるよう特に要望いたしまして、原案どおり承認いたしました次才であります。

以上、簡明でございますが、産業水道委員会の審査結果の御報告を終わりたいと思います。

どうかよろしく御審議を賜わりまして、御賛同くださいますようお願い申し上げます。

○議長（中島忠勝君） 次に、建設委員長にお願いたします。

加藤君。

〔建設委員長（加藤定男君）登壇〕

○建設委員長（加藤定男君） 建設委員会に付託せられました関係議案について、その審査の経過と結果を御報告いたします。

本委員会におきましては、各案件について慎重に審査を行ないました結果、いずれも妥当なものと認めまして、原案のとおり承認いたしましたのであります。

以下、その経過と、特に、要望のありました諸点について申し上げることにいたします。

まず、議案百五号昭和四十一年度四日市市一般会計補正予算（才四号）中、関係部分のうち才八款、土木費中、道路橋梁費は、塩浜地下道水銀灯電気料、水道局その他の道路面復旧受託工事費及び事務費でありまして、道路新設改良費は、朝明団地の造成に伴う山城・札幌線、大矢知・川北線の土地購入費が計上せられております。

なお、国庫補助対象事業の新山分橋については、国庫補助決定に伴い事業費が減額更正されております。

次に、港湾費でございますが、四日市港管理組合の負担金でありまして、県・市それぞれ五対三の比率に基づく負担金の追加がなされております。なお、四日市港の整備事業については事前協議を十分されるよう、また、旧港の整備についても管理組合と折衝されるよう理事者に要望いたしました。

都市計画費の追加は、塩浜地区都市改造調査のための負担金でありまして、調査にあたっては十分地元の意見を取り入れるよう、これまた理事者に強く要望いたしました才才でございます。

公園費につきましては、公害防止事業団の行なう中央緑地譲り受けの即納金でありまして、総事業費の五％が計上せられました。

次に、都市下水路費におきましては、ポンプ場事業用燃料費並に電気使用料の追加及び常磐ポンプ場移転補償費の国庫補助の決定に伴う補正であります。

才十一款、災 復旧費中、公共土木施設災 復旧費において、今回国庫補助の増額による道路復旧費でありまして別段、異議はありませんでした。

次に、議案百九号昭和四十一年度四日市市公共下水道特別会計補正予算（才二号）は、業務費において電気、水道使用料の追加額並びに建設改良費におきまして、日永処理場才二期及び朝明処理場認可申請書作成委託料、また、同日永処理区における下水道管布設工事費の補正であります。

議案百十七号市営住宅管理条例の一部改正は、従来、地方自治法、公営住宅法に基づいてこの条例が規定されていたのを、今回、新しく住宅地区改良法についてもその適用を受けることになりましたので、これに伴う必要な規定の整備を行なうものであります。なお、入居資格については、管理条例に定める条件を具備した資格者として円滑な市営住宅の運営を理事者に要望いたしました。

次に、議案百二十四号中央緑地の譲り受けについては、産業公 対 として市街地と塩浜コンビナートの間に建設される中央緑地の譲り受けでありまして、別段、異議はありませんでした。

議案百二十九号市道路線認定について及び議案百三十号市道路線の一部廃止については、別段、異議なく、以上いずれも原案を承認いたしました才才でございます。

どうかよろしく御審議を賜わり、御賛同くださいますようお願い申し上げます、建設委員会の御報告を終わります。

○議長（中島忠勝君） 以上で、各委員長の報告は終了いたしました。

各委員長の報告に対しまして御質疑がありましたら、御発言願います。

酒井君。

〔酒井昌一君登壇〕

○酒井昌一君 建設委員長にお伺いいたします。

議案才百二十四号の件でございますが、中央緑地の譲り受けについて、譲り受けた予定価格は十四億九千三百九十九万六千円となっております。議案の十一ページの才二表に債務負担行為補正、そこで一般財源が十三億三千百一萬五千円、特定財源が十二億九百五十二万五千円、その差額が一億六千二百九十八万一千円でございますが、この点についてお伺いしたいと思います。

○議長（中島忠勝君） 加藤君。

〔建設委員長（加藤定男君）登壇〕

○建設委員長（加藤定男君） 酒井議員の御質問にお答えいたします。

緑地の十四億だけになっておりますのは、体育館と別個になっておりますので、緑地事業費と別になっておりますのでそういう差額が出ると思います。

○議長（中島忠勝君） 酒井君。

〔酒井昌一君登壇〕

○酒井昌一君 緑地帯については、二十五億四千五十四万四千という最初の予定額でございますが、その半分といたしますと、その市長のことばでは、その半分が特定財源であるということと言われたわけですが、その点、少し金額が違うように思うんですが、その説明を願いたいと思うんです。二十五億四千五十四万四千の半分ですと十二億七千二十七万四千になるわけです。ところが、一般財源では十三億三千百一萬五千円と出ておるわけです。この点をちょっとお聞かせ願いたいと思います。

○議長（中島忠勝君） 加藤君。

〔建設委員長（加藤定男君）登壇〕

○建設委員長（加藤定男君） 特定財源にお答えいたします。

特定財源と総事業費の食い違いでございます。この点については審議はございませんが、私、一電見の御説明でお願いしたいと思います。予算につきましては、事業費十四億九千三百九十九万六千円、その五％でございますので、五％の計上費が出ております。そこで特別財源といたしましては、御承知のとおり半分の企業のほうから特別費をいただくことという説明は、すでに市長のほうからも出されております。そういう関係でこういうように数字が十分、ちょっとはしたが違いますので、その点は理事者からひとつ説明さします。

○議長（中島忠勝君） 総務部長。

〔総務部長（平井清三君）登壇〕

○総務部長（平井清三君） ただいま酒井議員の御説明の要旨がよくわかりませんので、もう一度御発言いただきたいと思ひます。

○議長（中島忠勝君） 酒井君。

〔酒井昌一君登壇〕

○酒井昌一君 あまりおとなしい質問したのでわからなかったようでありますが、中央緑地帯の予算が二十五億四千五十四万四千ということになっております。その半分は、特定財源を求めるといふ市長のことばからいいますと、その半分は十二億七千二百七万四千になるわけです。ところが一般財源からは十三億三千百一萬五千円と計上されて、特定財源からは十二億九百五十二万五千円と、このように金額は折半されていない、その点をお伺いしたいと思います。

だから、一般財源が十三億三千百一万五千円から折半した金額の十二億七千二百七十万円を引きますと一億六千二百九十八万一千円の差額が出るわけです。その差額は、どうして出たかということをお聞きしたわけです。よろしいですか。わかりませんか、まだ。

じや、もう一ぺん言います。（「関係ないよ」と呼ぶ者あり）

○議長（中島忠勝君） 暫時、休憩します。

午前十時五十分休憩

午前十一時一分再開

○議長（中島忠勝君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

総務部長。

〔総務部長（平井清三君）登壇〕

○総務部長（平井清三君） ただいまの酒井議員の御質問に對してお答えいたします。

議案の五十三ページでございますが、この中央緑地の債務負担行為の調書のうちで、特定財源が十二億九千五十二万五千円、一般財源十三億三千百一万五千円と、これが同額ではないじやないかと、こういう御質問でございますがこの予算のときの企業負担の算出の方法でございますが、ただいま各企業に對しまして協力を要請いたしております総事業費としまして、体育館、中央緑地含めて十八億ということで話をしております。これにこの予算を計上いたしますとき、体育館を四億五千万といたしますと緑地の関係が十四億幾らと、こんなふうに数字が変わってきております。それで企業協力を求めています十八億に企業負担の総額を合わせまして、それを案分したと、こういった形で

算出計算の上でこういった差額が出てきておるのでございまして、これはいずれ事業費が確定しました後に精算したいと、このように考えております。

○議長（中島忠勝君） 酒井君、よろしいか。（酒井昌一君「了解」と呼ぶ）

ほかにありませんか。（笑声）

ほかに御質疑もないようでございますので、これをもって委員長報告に對する質疑を終結いたします。

おはかりいたします。これら二十七件につきましては、討論の通告もありませんので、直ちに採決を行ないたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中島忠勝君） 御異議なしと認めます。

それでは、議案の採決を行います。

議案百五号ないし議案百三十一号の二十七議案を一括採決いたします。

これら二十七議案は、各委員長の報告どおり可決いたしましたして御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中島忠勝君） 御異議なしと認めます。よって、議案百五号昭和四十一年度四日市市一般会計補正予算（才四号）、ないし議案百三十一号工事請負契約の締結についての二十七議案は原案のとおり可決されました。

日程才二十八 議案百三十五号四日市市職員給与条例の一部改正について、及び

日程才二十九 議案百三十六号昭和四十一年十二月一日に在職する職員に支給する期末手当等の特例に関する条

例制定について

○議長（中島忠勝君） 次に、日程才二十八、議案才百三十五号四日市市職員給与条例の一部改正について及び、日程才二十九、議案才百三十六号昭和四十一年十二月一日に在職する職員に支給する期末手当等の特例に関する条例の制定についての二議案を一括議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

市長。

〔市長（九鬼喜久男君）登壇〕

○市長（九鬼喜久男君） ただいま御上程の議案について御説明申し上げます。

まず議案才百三十五号職員給与条例の改正案について申し上げます。

人事院は、去る八月一般職の国家公務員の給与について、基本給の六%引き上げ及び通勤手当の支給限度額の引き上げ等を、本年五月一日にさかのぼって実施するよう政府に対して勧告いたします。

本市といたしましては、この勧告の趣旨を慎重に検討し、今回の国家公務員の給与改定に準じて、本年九月一日より給料月額、扶養手当及び通勤手当を改定するほか、時間外勤務手当等を算定する場合の端数計算についての規定を整備しようとするものであります。

次に、議案才百三十六号の職員に支給する期末手当等の特別措置についての条例案は給与条例で期末手当及び通勤手当の支給率を定めておりますが、諸般の事情をも勘案のうえ、増額分として基本給月額の〇・一カ月分には一律六千円を加えた額、ただし、その額が九千円に満たないものについては九千円を、在職期間及び勤務成績に応じて支給しようとするものであります。

よろしく御審議のうえ御決議賜りますようお願い申し上げます。

なお、これらの給与改定等に要する経費につきましては、一応既決予算をもって立てかえ支出し、後日、補正予算を計上のうえ御審議を煩したいと存じますので、あわせて御了承賜りますようお願い申し上げます。

○議長（中島忠勝君） 御質疑がありましたら、御発言願います。

質疑なしと認めます。

おはかりいたします。ただいま議題となっております議案才百三十五号及び議案才百三十六号については、委員会の付託を省略し直ちに採決を行ないたいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中島忠勝君） 御異議なしと認めます。

それでは、議案の採決を行ないます。

議案才百三十五号及び議案才百三十六号を原案のとおり可決いたしましたして、異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中島忠勝君） 御異議なしと認めます。よって議案才百三十五号四日市市職員給与条例の一部改正について、及び、議案才百三十六号昭和四十一年十二月一日に在職する職員に支給する期末手当等の特例に関する条例の制定について、原案のとおり可決されました。

日程才三十 議案才百三十七号市道路線廃止について、及び

日程才三十一 議案才百三十八号市道路線の一部廃止について

○議長（中島忠勝君） 次に、日程才三十、議案才百三十七号市道路線廃止について及び、日程才三十一、議案才百三十八号市道路線の一部廃止についての二議案を一括議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

市長。

〔市長（九鬼喜久男君）登壇〕

○市長（九鬼喜久男君） ただいま御上程の議案について御説明申し上げます。

議案才百三十七号及び百三十八号は、中央緑地として建設を予定しております区域内に介在する市道について、その用途を廃止しようとするもので、所在につきましては、お 元の参考図に示すとおりであります。

よろしく御審議の上、御決議賜りますようお願い申し上げます。

○議長（中島忠勝君） 質疑ありましたら、御発言願います。（「なし」と呼ぶ者あり）

質疑なしと認めます。

おはかりいたします。ただいま議題となっております議案才百三十七号及び議案才百三十八号については、委員会の付託を省略し直ちに採決を行ないたいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中島忠勝君） 御異議なしと認めます。

それでは、議案の採決を行います。

議案才百三十七号及び議案才百三十八号を原案のとおり可決いたしましたして御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中島忠勝君） 御異議なしと認めます。よって、議案才百三十七号市道路線廃止について及び、議案才百三十八号市道路線の一部廃止については、原案のとおり可決されました。

日程才三十二 発議才十号四日市港の港湾整備事業に対する国庫負担率等の引き上げに関する意見書提出について
○議長（中島忠勝君） 次に、日程才三十二、発議才十号四日市港の港湾整備事業に対する国庫負担率等の引き上げに関する意見書提出についてを議題といたします。

提案者の説明を求めます。

服部君。

〔服部昌弘君登壇〕

○服部昌弘君 提案者を代表いたしましたして、提案理由の御説明を申し上げます。

皆さん御存じのとおり、近年、四日市港の港勢は、経済成長の高度化に伴いまして目ざましい伸展を続けてまいっております。昭和四十年度的におきまして四日市港における取り扱い貨物量は、二十万トンを超えて突破いたしましたこの成績は、昭和三十九年対前年度で一三六％というような伸び率を示しております。これを金額に直しまして、輸入額が一千六百九十億をえております。こうした伸び率で、昭和三十九年度に策定されました四日市港の港湾整備五カ年計画の目標の千九百万トンというものは、わずか一年で突破してしまいました。

したがいまして、四日市港といたしましては、どうしてもこの五カ年計画の改定をしなければならないというところでございます。こうした四日市港の伸展の港勢を踏まえまして、本年四月、御承知のとおり四日市港管理組合が発足いたしましたわけですが、この四日市港の整備のために四十一年度に事業計画を立てましたのが、国の直轄事

業におきまして三億九千万、国の補助事業で一億七千五百万、単独事業としまして七千八百万、この三億九千万の国の直轄事業のうち二分の一が県・市の負担になっております。

したがって、本年の四日市港管理組合の事業会計は、大体、予算規模が四十一年度におきまして五億七千五百二十七万四千というのを当初に議決しております。その財源といたしましては、港湾収入が一億七百六十二万四千、組合債が二億三千八百万、国庫支出金が八千七百五十万四千、したがって、その不足額の二億百七十万四千というのが県・市の負担になってくると。これを皆さん方、御承知のように管理組合発足当時の分担比率、県が五、市が三という比率で分けてまして、県が一億二千六十六万四千、市が七千五百六十四万四千という負担をしておるわけでございます。今回の十二月に追加補正千七十九万六千円を加えて、四十一年度における市の負担額は、大体七千八百六十万円をこえております。

先ほど申し上げましたように、四日市の港勢の伸展がどのように著しいために四日市港といたしましては、どうしても新しい五カ年計画の策定に取り組まなければならないということでございます。昭和四十四年における目標額を二千六百六十万というところに目標をおきまして、これに対応するための港湾施設の急速な整備をやらなければならないということでございます。現在、皆さん方、御存じの方もあるかと思いますが、五カ年計画に基づきます才二埠頭の建設工事が急速に進められております。これが四十二年度には完成いたしますが、引き続きまして新しい才三埠頭の内外留岸壁を建造しなければならない。それから泊地の新設を進めなければならない、あるいは東防波堤を延長しなければならない、こうした急速な整備計画を国の港湾整備、新しい五カ年計画の改定時期にどうしても乗り込まなければならないという事情になってきております。

これを他の近隣の港と比較いたしますと、今日まで種々の事情があったとは申しながら、四日市港の整備事業はかなりなおくれを来たとすると、残念ながらかなり他港に比べておくれできているということでございます。すぐ近くの名古屋港はこれはまあ格別といたしまして、名古屋では現に四十一年度の事業費が三十四億ということでございますが、これはまあ別といたしましても衣浦港で四十一年度の予算は十二億六千万、清水港では十二億九千万ということでございます。それに対して、先ほど申しましたように四日市港におきましては、四十一年度に六億三千万であるということでございます。したがって四日市港の発展をはかるためには、どうしても五カ年計画に乗り込みまして、この事業の急速な拡充と整備をやらなければならないということでございます。そうした情勢を踏まえまして、今回、意見書を国に対して提出したいということでございます。

国の直轄事業は、四日市港の整備事業の中心をなすものでございまして、この国の分担率を引き上げてほしいということは、管理組合設立当時の大きな懸案の問題でございました。どうしてもこの四十二年度の国の予算編成において獲得したいということでございます。特定重要港湾十七港のうちにおきまして、横浜港、神戸港におきましては国の直轄事業に対する補助率が七五％である。四日市港におきましては、今日まで五〇％である。したがって、どうしても四日市港に対する国の負担率を七五％まで引き上げていただきたいということを、われわれは意見書をもって国に陳情いたしたい、そういうわけでございます。

で、どうしてそういうような特定重要港湾であるにもかかわらず負担率の差異がついているかと、今日までの考え方を申しますと、神戸、横浜というような、こういう日本の代表的な港は、要するに輸出港であります。日本の貿易政策上、特に重要な施設であるということから、七五％という特別の高率の補助がつけられているということでございます。しかしながら、四日市港は、皆さん御承知のとおり残念ながら今日まで輸入港であるという性格を脱却することはできません。しかしながら、ここに輸入されます原油にしましても、羊毛にしましても、綿花にしましても、

これらはいずれも日本の国内で加工されまして、再び輸出に出されるというわけでございます。いわば加工貿易ということで、この輸入が輸出に貢献していないんだという理屈にはならないんだというふうに私も思っております。したがって、そのために負担率に差別がつくということは首肯しがたいということでございます。

もう一つの理由は、県・市の財政力の点からみましても、たとえば先ほど申しましたように兵庫県あるいは神奈川県の港に高率の負担をして、その他の港に対する負担率が低いということは、実は、国の貿易政策を進めていきます上においては、むしろ国の負担率のきめ方はさか立ちしているんじゃないかというふうに私も考えるわけでございます。

したがって、私もとしましては皆さん方の御賛同を得まして、何としても国の直轄事業あるいは補助事業における負担率、補助率を引き上げることによりまして、港の整備事業を事業量を拡大いたしまして、今日までの立ちおくれを解消し、四日市の将来の発展のために、ぜひとも推進いたしたいと考えるわけでございます。

○議長（中島忠勝君）質疑ありましたらどうぞ。
御質疑なしと認めます。

おはかりいたします。ただいま議題となっております発議才十号については、委員会の付託を省略し直ちに採決を行ないたいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中島忠勝君）御異議なしと認めます。
それでは、議案の採決を行ないます。

発議才十号を原案のとおり可決いたしましたして、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中島忠勝君）御異議なしと認めます。よって、発議才十号四日市港の港湾整備事業に対する国庫負担率等の引き上げに関する意見書提出については、原案のとおり可決されました。

日程才三十三 発議才十一号水沢病院についての処理に関する意見書提出について

○議長（中島忠勝君）才に、日程才三十三、発議才十一号水沢病院についての処理に関する意見書提出についてを議題といたします。

提案者の説明を求めます。

坂上君。

〔坂上長十郎君登壇〕

○坂上長十郎君 発議才十一号を、提案者を代表いたしまして一言御説明申し上げます。

その前に、皆さんのお手元にまいっております本文の誤植が一つございしますので、先に訂正さしてもらいますから御了承願います。

本文の才三行目に、「汚水の排出並びに立地の諸事項について紛争が生じ」の、ふんの字は来へんがいいのでございますが、まことにおそれ入りますが、この点ひとつ誤植を訂正させていただきます。

じゃ、ただいまから御説明いたします。

本市水沢地区に、昭和四十年二月医療法人水沢病院が創設されましたが、地元住民は瀬戸用水が昔から住民の命の

綱ともいふべき大切な用水である関係から、病院が使用する水をこの瀬戸用水から取水すること、及び汚物処理後の下水を用水に放流することは好ましくないとして、病院との間に開院当初から紛争が生じ、現在に至るまで未解決のまま経過してまいりました。

ところが本年十月二十二日水沢町の山崎医師により最初の赤痢患者が発見され、以来、赤痢患者は水沢各地区に続発し、二百十一名の集団発生をみるに及び、平和な茶の町水沢は、住民の不安と焦そうの町に一変いたしましたのでありまして、住民の感情はついに爆発し、水沢町民の総意により水沢病院即時閉鎖が決議され、過般、厚生大臣並びに県知事に請願書を提出されたのであります。

本市議会としては、水沢地区住民の意思を尊重し、かつ、住民の日常生活の安全を保持するため、厚生大臣並びに県知事に対し医療行政上の責任と権限とにおいて、水沢病院の処理に対し早急に強力なる行政指導を行ない、地元住民と病院との従来からの諸懸案の解決に、抜本的な措置を講ぜられるような意見書をここに提案いたしました次であります。

何とぞよろしく御審議を賜わり、御賛同のほどをお願い申し上げます。

○議長（中島忠勝君） 質疑がありましたら御発言願います。（「なし」と呼ぶ者あり）
質疑なしと認めます。

おはかりいたします。ただいま議題となっております発議才十一号については、委員会の付託を省略し直ちに採決を行ないたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（中島忠勝君） 御異議なしと認めます。

それでは、議案の採決を行います。

発議才十一号を原案のとおり可決いたしましたして御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（中島忠勝君） 御異議なしと認めます。よって、発議才十一号水沢病院についての処理に関する意見書提出については、原案のとおり可決されました。

○議長（中島忠勝君） この際、御報告申し上げます。

目下、産業水道委員会において継続審査中の朝明川右岸大矢知地区排水路の改修についての請願及び総務衛生委員会において審査中の水沢病院の即時閉鎖についての陳情は、それぞれ取り下げの申し出がありましたから御了承願います。

なお、水沢病院の処理問題についての陳情が提出されましたので、総務衛生委員会に付託いたしましたから御了承願います。

日程才三十四 委員会報告才十二号、ないし

日程才三十七 委員会報告才十五号

○議長（中島忠勝君） 次に、日程才三十四、委員会報告才十二号、ないし日程才三十七、委員会報告才十五号の四件を一括議題といたします。

御質疑、御意見がありましたら御発言願います。（「進行」と呼ぶ者あり）

他に御質疑ありませんか。

本件を委員長の報告どおり決定いたしましたして御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中島忠勝君） 御異議なしと認めます。よって、委員会報告才十二号、ないし委員会報告才十五号は、各委員長の報告どおり決定いたしました。

報告番号	請願番号 陳情番号	件 名	委員会	審査結果
一二	陳情才四〇号 陳情才三九号	水沢病院の処理問題について 三重県立四日市農芸高校校舍改築等に対する助成方についで	衛生務	採 択
一三	陳情才四一号 陳情才四二号 陳情才四四号	市内市立小学校に十六ミリ映写機購入配置方について 市立羽津幼稚園の増築について 市立保育園の設置について	教 育 民 生	採 択
一四	陳情才四五号 陳情才二四号 陳情才三五号 陳情才三六号	勤労青少年ホーム設置について 四日市博（グランドフェア）仮称の開催について 航路標識等設置について 地盤沈下に伴うかさ上げ工事施工について	水 産 道 業	採 択 不 採 択

報告番号	請願番号 陳情番号	件 名	委員会	審査結果
一五	請願才一九号 請願才二〇号 陳情才三四号 陳情才三七号 陳情才三八号 陳情才四六号	市道羽津山線延長の促進と半完工個所の工事完成について 市道山籠線（小杉町より山之一色町に至る）の改修について 富田浜元町地内道路舗装並びに排水溝設置について 総合体育施設早期建設について 日永地区内道路拡幅改良について 近鉄臨浜南七号踏切に地下道建設について	建 設	採 択 不 採 択

○議長（中島忠勝君） なお、総務衛生、教育民生、建設の各委員長から目下委員会において審査中の事件についてお手元に配付いたしました申出書のとおり閉会中の継続審査の申し出があります。

各委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続審査に付することにいたしまして、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

野崎君。

〔野崎貞芳君登壇〕

○野崎貞芳君 建設委員長にお尋ねいたします。

霞ヶ浦の地先水面埋め立てについて、先般の一般質問でも喜多野議員から質問されたわけですが、この陳情につい

ては、理由として調査研究のためということで継続審議に出されたわけでございますが、委員会の審議の内容をもう少しお聞きしておきたい。申しますのは、非常にこの問題については市民の関心が高いゆえにお願いする才次でございます。よろしく。

○議長（中島忠勝君） 加藤君。

〔建設委員長（加藤定男君）登壇〕

○建設委員長（加藤定男君） ただいまの野崎議員の質問にお答えいたします。

霞ヶ浦地域の埋め立て工場誘致公害に対する陳情が五件提出されております。中には一件は、土地計画による専用地域に指定したことについての反対陳情でございます。このことにつきましては、過日の総体質問の中にもありましたが、緑地化にすればある一定の規制法が設けられるわけでございます。かようなことを推進していく上においては、地元のお気持ちも十分に把握しなきゃならない、そうしてまた、都市計画審議会とか、また、経緯を経て建設大臣とか、いろいろの経過事項も順序をただしてやっていかなきゃならないと、一たん専用地域にした地区でございますので、議会で決定し施行されている地区でございます。そういういろいろな事情がございますので、よく住民にその緑地にする規制法にも地元の皆さんのお気持ちを十分に把握した上でやっていこうと、慎重を期そうと、こういうことに理事者の申し出がありましたのでしたわけでございます。

それから、埋め立て地の反対とか、また、特定の石油化学工場誘致反対という陳情も受けたわけでございます。この問題につきましては、過日市長からも御言明なさいましたように、公害のない工場を誘致するんだ、と。また、新しい今日これからの工場の公害というものは、市長もこの議場におきまして明言されたように、いずれにおきましても現四日市の公害ということは、皆さん市民ともに疑うることでございますので、そういうことのないことの言明

がございましたので、それを了としておるわけでございますが、いま、あの埋め立て地にどの工場をどうするとか、この工場を誘致するとかいうスポンサーもございません。ただ憶測でこれが来るだろうか、また、こういうことになるかとまた南部のような公害が発生するんだというような感覚のもとに、まことに住民の皆さんのお気持ちをやすらぎに御苦勞をおかけすることは重々わかるが、いまだ少し工場のスポンサーの問題とか、また、来る工場の公害に対する過程については、住民の皆さんと十分話し合った上の結論でもおそくないんじゃないかといういろいろな意見が出まして、いずれも一定の石油化学工場という限定した文面があらわれておりますのと、四つ請願、陳情全部がよく似た内容でございましたので、委員会としましてはそのただいま諸議の中の都市計画変更の問題だけを除外いたしました、あと四件は一括審議をさせていただいてというような意見で、慎重を期するために継続審議にさしていただいわけでございます。

住民の皆さんのお気持ちはよくわかりますので、結論ということとは非常に問題がございますので、皆さんの御心配をなすだけ排除するために慎重を期したほうがいいんじゃないかと、こういう結果でございます。

○議長（中島忠勝君） ほかに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中島忠勝君） 御異議なしと認めます。よって、各委員長からの申し出どおり閉会中の継続審査に付することに決定いたしました。

閉会中継続審査申出書

本委員会は、審査中の事件について、左記により閉会中もお継続審査を要するものと決定したから会議規則才六

十八条の規定により申し出ます。

記

一、事件

陳情才 二号 し尿処理排水放流の反対について

請願才 一八号 海山道町公会所設置について

二、理由

調査研究のため

昭和四十一年十二月二十一日

総務衛生委員会

委員長 坂 上 長十郎

四日市市議会

議長 中 島 忠 勝 殿

○議長（中島忠勝君）次に、監査委員より監査結果報告並びに現金出納検査の結果報告について、報告才三十六号ないし報告才四十三号の八件がまいっております。

お手元に配付いたしておりますので、これによって御了承願います。

○議長（中島忠勝君）以上をもちまして、本定例会の議事につきましては全部終了いたしましたので、会議を閉じ

ることにいたします。

この際、市長からごあいさつがあります。

市長。

〔市長（九鬼喜久男君）登壇〕

○市長（九鬼喜久男君） 年末を迎えるにあたりまして、一言お礼のごあいさつを申し上げさせていただきます。

あと十日余りでこの四十一年度も終わりました、昭和四十二年の正月を迎えるわけでございますが、この間、公害あるいは都市改造等につきまして、皆さんからいろいろと貴重な御意見を拝聴いたしました。また、市民の関心もこの二問題に関しましては、ことのほか深かったように感じておる次第でございます。

しかしながら、おおよそ大過なく過ぎすことができましたのは、ひとえに皆さんの御指導の適切であったことによるものと信じておる次第でございます。

明年度につきましても、引き続きいろいろ御指導を賜わりまして市政の運営につきまして格別の御協力を賜わりますようにお願い申し上げます。

まことにありがとうございました。（拍手）

○議長（中島忠勝君） これをもって昭和四十一年十二月四日市市議定会定例会を閉会いたします。

年末、御多端のりから連日にわたって御熱心に御審議をくださいます、まことに御苦労さまでございました。

午前十一時三十八分閉会

右、地方自治法第二百二十三条第二項の規定に基づき署名する。

署 名 議 員	署 名 議 員	四日市市議會副議長	四日市市議會議長
喜 多 野	伊 藤	渡 部	中 島
	太 太	楠 郎	忠 勝
等	郎		